

知多厚生病院 | 年報

(平成27年度)

知多厚生病院 理 念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

知多厚生病院 基本方針

- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

● ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



発刊にあたり

知多厚生病院 院長 宮 本 忠 壽



この度平成 27 年度の年報が完成いたしましたのでお届けいたします。

近年少子高齢化が進み、国は「地域医療構想」という新たな医療政策を始めました。地域医療構想は、社会保障制度改革国民会議の報告書、および医療介護総合確保推進法を受けての政策です。同報告書において、団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年を見据えて、病気と共存しながら生活の質の維持・向上を図るために、病院完結型から地域完結型の医療に改めることが目標となっています。そして、この目標を達成するためには、現状では病床数が多く、人員配置が少ないので、選択と集中によって病床を機能分化するべきである、という基本認識に立っています。具体的には、病床を高度急性期・急性期・回復期・慢性期に区分し、急性期医療に人的・物的資源を集中投入して入院期間を短縮する一方で、退院後の在宅の受け皿としての「地域包括ケアシステム」を構築し、かつ全体をデータで制御する政策です。

また、「地域包括ケアシステム」では『住み慣れた地域で豊かに生活できる社会 (Aging in place)』目指し、「医療」、「介護」、「予防」という専門的なサービスとその前提としての「住まい」、「生活支援・福祉サービス」が相互に関係し、保健・医療・福祉に関わる地域の様々な機関が連携しながら在宅の生活を支えます。

地域医療構想と地域包括ケアシステムは、互いに補完しながら新たな地域医療を推進することが極めて重要になってきます。

当院は、新たな医療政策に対応し、住民の皆様が地域で安心して暮らせるように、急性期、回復期、慢性期医療等の入院機能を充実し、さらに在宅医療へと「切れ目のない医療」を提供できるよう地元医師会、行政など様々な組織と連携を強化してまいります。

また、この「切れ目のない医療」を実現するには、その基盤となる「地域の街づくり」が必要です。この「地域の街づくり」は行政、企業、各種団体等だけでは達成できません。今後、知多半島の保健・医療・福祉を支えるための「地域の街づくり」をどのようにするか について、地域の皆様と共に考え、実行するが肝要と思われます。

最後に、知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、行政・医師会・J A など様々な機関との連携により『Aging in Place 知多半島モデル』を構築し、さらに様々な情報を発信し、『世界健康半島』の実現を目指して職員に一同全力を尽くしていく所存です。今後とも皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

平成 29 年 3 月

目 次

病院理念、基本方針	1
発刊にあたり（宮本病院長あいさつ）	2
病院概要	6
病院沿革	8
機構図	10
会議・委員会組織図	12
平成 27 年度 事業計画	13
統計資料	15
診療科別医療実績	25
部署別業務実績	49
各委員会活動	99

知多厚生病院 概要

平成28年3月1日 現在

名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <http://www.jaaikosei.or.jp/chitakosei/>

設立年月日

昭和39年6月1日

病床数

259床（一般199床（回復期リハビリテーション50床含む） 療養54床（医療15床・介護39床） 感染症6床）

診療科（20科）

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・
小児科・外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・
眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

各種指定

救急告示病院、災害拠点病院、へき地拠点病院、臨床研修指定病院
労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関
指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関
性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関
国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、指定介護療養型医療施設
日本医療機能評価機構認定病院、肝疾患専門医療機関、病院群輪番制病院
結核予防法指定医療機関、特定疾病治療研究医療機関、小児慢性特定疾病治療研究医療機関

関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター・知多厚生病院介護保険センター・
南部知多訪問看護ステーション・知多厚生病院附属篠島診療所

管理者

病 院 長： 宮本 忠壽

副 院 長： 水野 志朗、脇田 郷、高橋 佳嗣、丹村 敏則

第1診療部長： 村元 雅之

第2診療部長： 富本 茂裕

診療協同部長： 福島 庸行

医療情報部長： 中塚 雅雄

地域医療福祉連携部長： 保里 恵一

薬剤部長： 畔柳 敏弥

看護部長： 田上 ホナミ

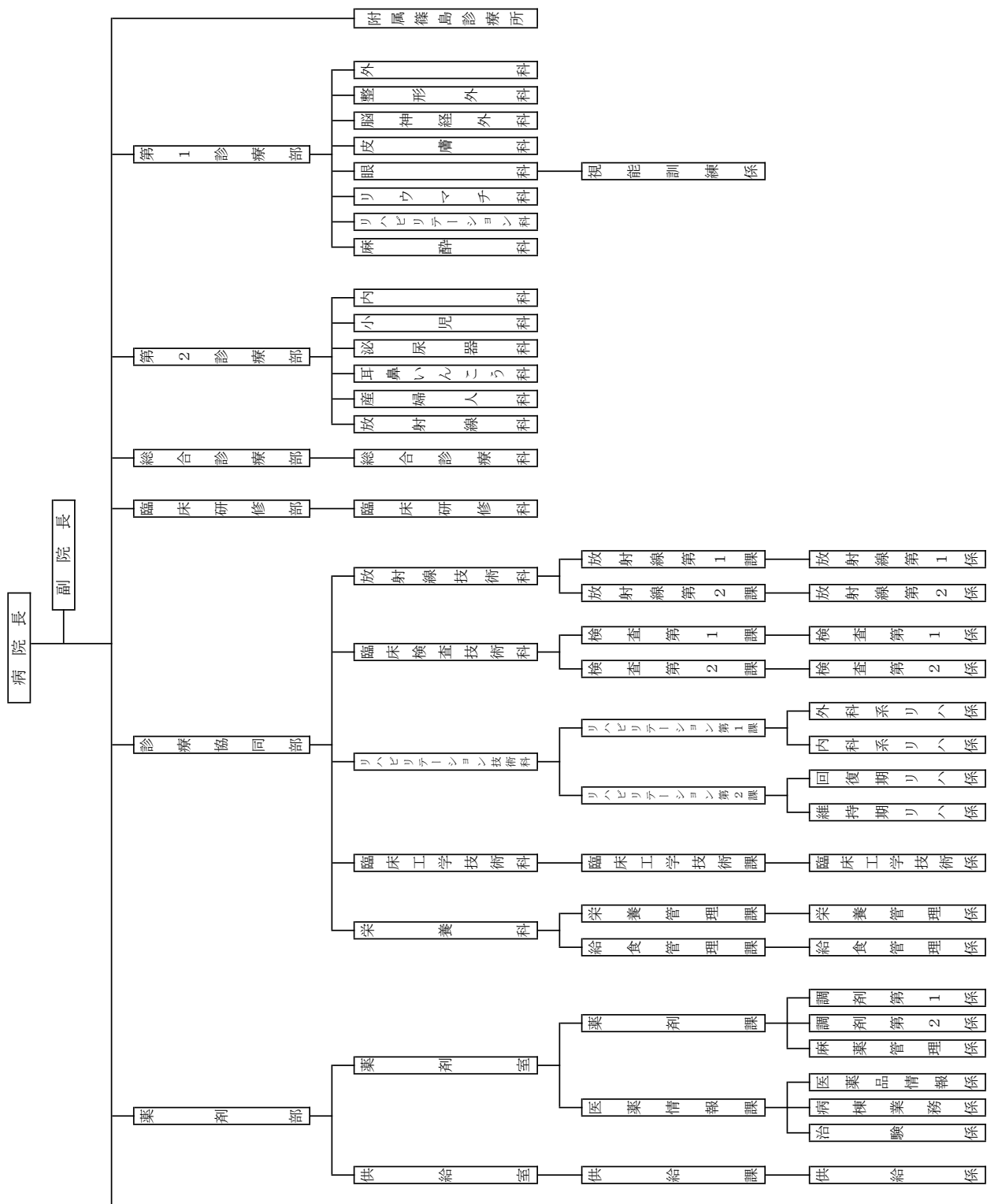
事務部長： 池田 智志

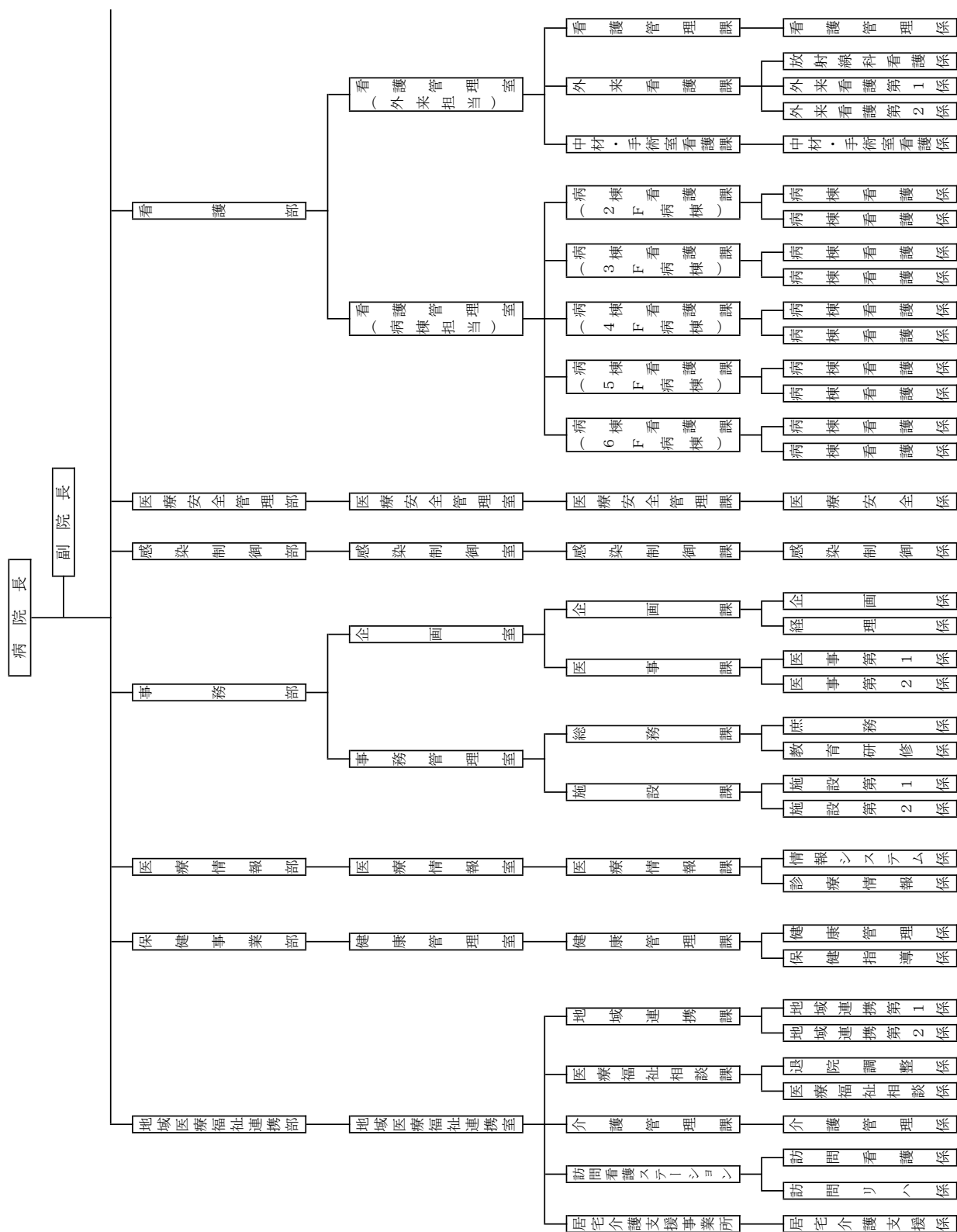
知多厚生病院 沿革

平成 28 年 3 月 1 日 現在

昭和 38 年	3 月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和 39 年	6 月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113 床
昭和 42 年	3 月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎 24 床併設 (病床数 137 床)
昭和 43 年	10 月	病棟増築 (病床数 179 床)
昭和 49 年	7 月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築 (病床数 217 床)
昭和 54 年	2 月	総合病院として認可
昭和 55 年	6 月	厨房の整備 病棟増築 (病床数 222 床)
昭和 57 年	3 月	診療棟増改築
	4 月	小児科開設
	6 月	皮膚科開設
昭和 58 年	1 月	放射線科開設
	2 月	病棟増改築・伝染病舎改築 (病床数 277 床)
平成 3 年	10 月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成 6 年	4 月	脳神経外科開設
平成 8 年	4 月	泌尿器科開設
平成 9 年	10 月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成 10 年	3 月	病棟改築 (病床数 一般 260 床・伝染 8 床)
平成 11 年	4 月	第 2 種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般 260 床・感染 6 床)
平成 11 年	10 月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成 14 年	2 月	療養型病床開設 (病床数 一般 212 床・療養 48 床・感染 6 床)
	4 月	へき地医療拠点病院指定
平成 15 年	5 月	病床区分変更 (病床数 一般 206 床・療養 54 床・感染 6 床)
	10 月	臨床研修病院指定
平成 16 年	5 月	オーダリングシステム稼働

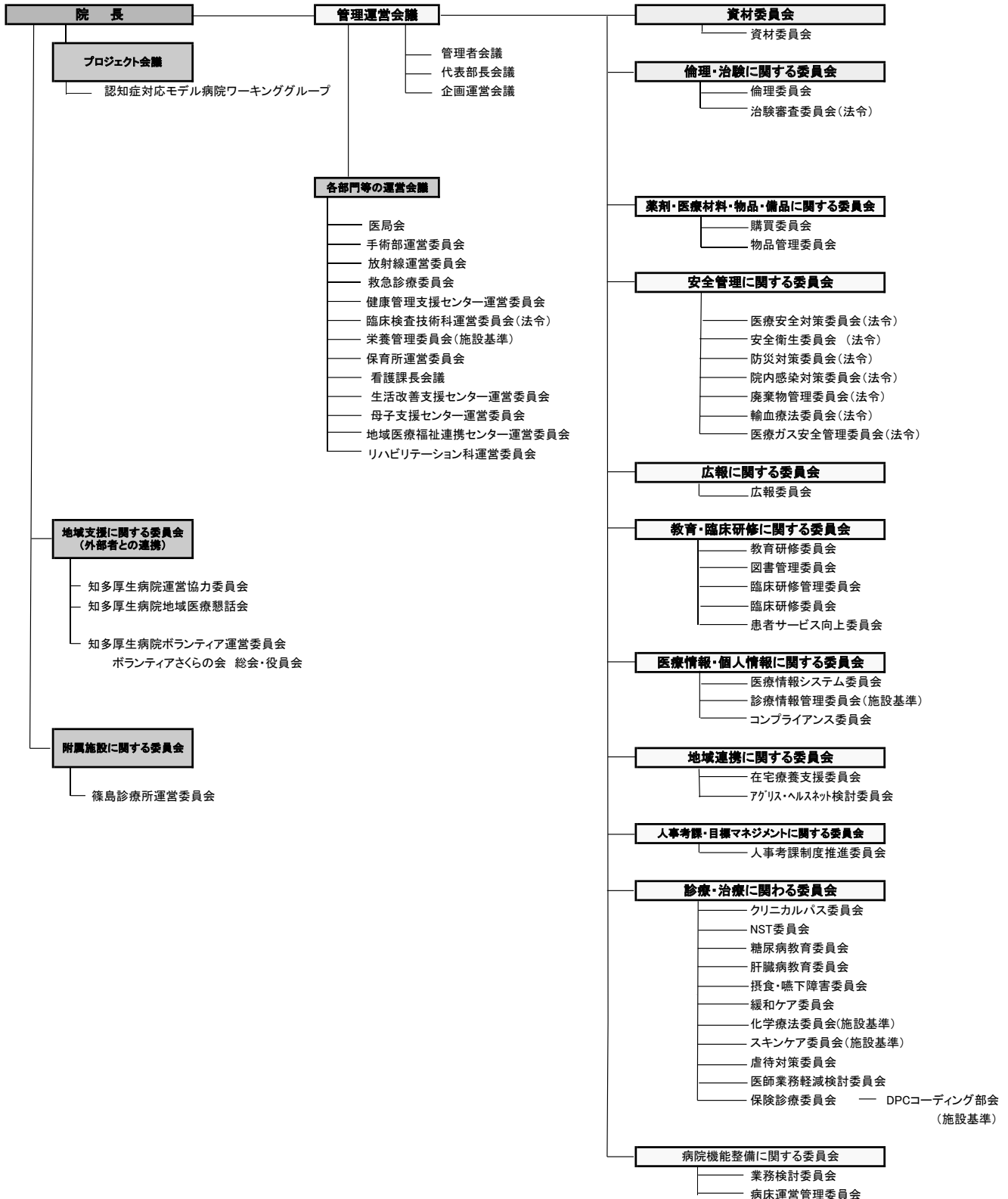
平成19年	3月	災害拠点病院指定
	7月	病院機能評価認定（V e r . 5 . 0）
平成21年	8月	診療棟改築
		電子カルテシステム稼働
		I D - L i n k 導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	7月	病院機能評価認定（V e r . 6 . 0）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	11月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	D P C（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設
		（一般〔7対1看護基準〕149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催





知多厚生病院 会議・委員会組織図

平成21年 8月 1日制定 平成23年10月 1日改正
 平成21年10月 1日改正 平成23年11月 1日改正
 平成22年 4月 1日改正 平成24年 3月 1日改正
 平成22年 6月 1日改正 平成24年 4月 1日改正
 平成22年 7月 1日改正 平成24年 9月21日改正
 平成22年 9月 1日改正 平成25年 6月14日改正
 平成22年10月 1日改正 平成26年 4月 1日改正
 平成22年12月 1日改正 平成26年 7月 1日改正
 平成23年 4月 1日改正 平成27年 1月 1日改正
 平成23年 7月 1日改正



平成27年度事業所別事業計画(病院)

■ 環境の認識

知多半島医療圏では総人口が増加している中、当院の主な診療圏である美浜町、南知多町については年少人口の減少、老年人口の増加により、人口の高齢化が進んでいる地域であります。知多半島医療圏北部では西知多総合病院の開院、中部では常滑市民病院の移転新築が予定され連携強化が求められる一方、南部の美浜町・南知多町では医師の高齢化により診療所が減少し、医療の確保が難しくなっています。地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保として、機能分化、集約化が進められる中で、地域医療をどのように守り、発展させるかが喫緊の課題であります。今後安全で良質な医療を提供しつづけるためには経営の安定化が重要ですが、当院の経営状況は厳しく経営改善が必要な状況であります。こうした中で、知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関として、救急医療、急性期医療・回復期医療・在宅医療にいたるまでのシームレスな医療機能を保持し、地域住民が住み慣れた地域で豊かに生活できる社会を目指すことが求められています。

■ 方針(病院運営の基本姿勢及び目標)

知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関として住民にとって欠かすことのできない医療を提供する使命から、救急医療、急性期医療・回復期医療・在宅医療にいたるまでのシームレスな医療サービスを提供します。さらに医療資源を有効活用する視点から医療と介護の連携を中心とした地域包括ケアシステムの構築に取り組み、この地域で完結できない機能を補完し、さまざまな世代が安心して生活できるコミュニティホスピタルを目指します。又、これまで培ってきた災害医療の分野、へき地医療の分野、及び感染症医療の分野について継続して知多半島医療圏における中心的な役割を担います。保健事業の分野では当院の魅力的な医療サービスとして認知されつつある健康管理支援活動の充実に取り組みます。今後も患者に安全で良質な医療を提供することを第一とし、継続的に医療の質向上に取り組みむと同時に、業務の効率化、コスト削減に取り組み経営の安定化を図ります。又、職員の一人ひとりがやりがいをもって働ける病院づくりを目指します。

重点実施事項		主な実行計画
具体的実施事項		内容
1 地域との連携強化		
地域連携の強化	地域の医療機関・福祉施設と顔の見える関係の構築と連携強化	
	退院支援、在宅復帰支援体制の充実	
	地域連携システム(ID-LINK)の活用	
行政・医師会・JA・住民との連携	美浜町・南知多町との定期協議の継続	
	地元医師会との連携強化・定点診療の拡充	
	JAとの連携強化	
2 医療の質、安全強化		
医療安全の充実	医療安全教育・研修の積極的な実施	
	ICTチーム活動の充実、感染管理機能の強化	
	薬品の在庫管理の強化	
	臨床工学技師による医療機器の保守点検の充実	
医療の質向上	クリニカルパス使用の推進、見直し、改善	
	クリニカルインディケーターの活用	
	画像診断機器(MRI)更新による診療機能の向上	
	認定看護師等専門性発揮による看護の質向上	
3 診療機能の充実		
救急医療体制の維持	第二次救急医療体制の維持	
	院内のトリアージ機能の充実	
災害拠点病院の充実	知多半島南部地域全体の災害医療体制の充実(災害訓練や職員に対する研修)	
	DMATの活動が円滑にできるよう講習会参加など必要な支援提供	
へき地医療拠点病院の充実	離島医療の維持	
	へき地医療研修の継続、研修プログラムの充実	
第二種感染症指定医療機関として感染症医療の充実	関係機関・地域の医療機関との連携を強化し、患者搬送訓練、感染防止対策の情報提供、研修会開催、患者や市民への啓発活動の実施	
小児医療・周産期医療の確保	知多半島南部地域の小児医療、周産期医療の維持	
診療体制の整備	総合性を持つ医師確保、後期研修医の確保	
チーム医療の推進	多職種が協同した専門的ケアチームの充実、病棟配置した職種の活用	
	治験業務の充実	
	医師事務の50対1体制維持による医師業務軽減を充実	
リハビリテーションの充実	回復期リハビリテーション病棟入院料2の維持	
認知症患者への対応	認知症モデル病院として認知症患者の受け入れ体制の整備	
相談支援機能の強化	効率的な薬剤管理指導、栄養指導の実施	
	コメディカル外来の充実	

重点実施事項		主な実行計画
具体的実施事項		内容
4 経営管理		
経営の安定化に向けた取り組み強化		予算進捗管理の強化
		診療圏拡大(武豊町)に向けた取り組み
		各部署の必要人員の精査及び要員管理の徹底、職種横断的な人材活用
		経費削減などコスト管理及び職員個々のコスト意識の醸成
		DPCデータの経営管理への活用
		効率的な病床運営
5 福祉・介護事業		
福祉・介護事業の検討		介護報酬改定を踏まえた介護療養型病床の方向性の検討
		地域包括ケアシステムへの取り組み
6 保健事業		
JA組合員への健康管理活動の充実		JAポイントカードを活用したJA組合員への健康管理活動の拡大
健診事業の充実		美浜町・南知多町・武豊町との連携強化及び企業の健診・ドックの受託時期の見直しによる受託拡大
		健診メニュー見直しによる受診者サービスの向上
保健事業活動の充実		健康講話・生活改善支援・母子支援活動の充実
7 その他		
教育研修機能の充実		離島医療など独自の臨床研修プログラムの充実
		学生実習(医師・看護・メディカル)の受け入れによる地域医療を担う人材の育成
患者サービス向上		・職員の接遇の向上や患者・家族から意見などの迅速な把握と、改善につなげるシステム(ご意見箱、患者アンケート)の充実
広報活動の拡大		・当院の魅力をアピールする広報機能の充実

統計資料

診療科別延患者数	17
時間外患者取扱数	18
診療科別在院延患者数 及び新入院患者数	19
診療科別退院患者数 及び平均在院日数	20
一般公開講座まとめ	21

■ 過去3か年の推移

診療科別延患者数（医療＋介護）

年 度	25年度		26年度				27年度			
外来/入院	外来	入院	外 来		入 院		外 来		入 院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	48,507	25,516	48,175	99.3	25,701	100.7	48,229	100.1	25,318	98.5
小児科	11,054	48	10,726	97.0	220	458.3	10,939	102.0	502	228.2
外科	7,054	7,411	7,081	100.4	6,152	83.0	8,076	114.1	5,442	88.5
整形外科	34,675	9,297	34,561	99.7	10,410	112.0	30,879	89.3	10,911	104.8
脳神経外科	18,789	17,120	19,271	102.6	15,934	93.1	20,154	104.6	17,862	112.1
皮膚科	18,297	401	15,833	86.5	227	56.6	15,967	100.8	277	122.0
泌尿器科	7,664	835	7,894	103.0	550	65.9	8,169	103.5	721	131.1
産婦人科	7,783	1,908	6,273	80.6	1,784	93.5	5,075	80.9	615	34.5
眼科	15,994	1,278	14,224	88.9	1,680	131.5	13,044	91.7	1,318	78.5
耳鼻 いんこう科	18,441	896	16,306	88.4	896	100.0	14,626	89.7	290	32.4
篠島/ 療養介護	4,532	14,336	4,707	103.9	12,240	85.4	4,551	96.7	10,597	86.6
合 計	192,790	79,046	185,051	96.0	75,794	95.9	179,709	97.1	73,853	97.4
平均患者数 (病院のみ)	707.7	216.6	680.5	96.2	207.7	95.9	658.5	96.8	201.8	97.2
※診療日数 (病 院)	266	365	265		365		266		366	

科別時間外患者取扱数

年 度	2 5 年度				2 6 年度				2 7 年度			
診療科	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
内科	2,372	34.9	372	51.9	2,552	36.7	412	54.4	2,446	95.8	468	113.6
小児科	1,348	19.8	0	0	1,351	19.4	1	0.1	1,359	100.6	2	200.0
外科	151	2.2	35	4.9	151	2.1	28	3.7	164	108.6	40	142.9
整形外科	973	14.3	74	10.3	912	13.1	71	9.4	924	101.3	75	105.6
脳神経外科	433	6.4	107	14.9	508	7.2	119	15.7	466	91.7	126	105.9
皮膚科	500	7.3	2	0.3	487	7.0	4	0.5	482	99.0	1	25.0
泌尿器科	215	3.2	8	1.1	195	2.8	5	0.7	196	100.5	6	120.0
産婦人科	69	1.0	109	15.2	112	1.6	102	13.5	71	63.4	42	41.2
眼科	119	1.7	1	0.1	105	1.5	0	0	119	113.3	0	0
耳鼻 いんこう科	626	9.2	9	1.3	600	8.6	15	2	521	86.8	2	13.3
合 計	6,806	100.0	717	100.0	6,973	100.0	757	100.0	6,748	96.8	762	100.7

市町村別時間外患者取扱数

年 度	2 5 年度				2 6 年度				2 7 年度			
市町村名	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
美浜町	3,159	46.9	259	36.3	3,260	46.7	265	35	3,213	98.6	287	107.9
南知多町	2,278	33.8	312	43.8	2,440	35	345	45.5	2,287	93.7	356	103.2
武豊町	384	5.7	39	5.5	415	6	38	5	411	99.0	40	105.3
半田市	121	1.8	13	1.8	124	1.8	20	2.9	107	86.3	14	70.0
常滑市	135	2.0	13	1.8	145	2.1	11	1.4	112	77.2	7	63.6
その他	657	9.8	77	10.8	589	8.4	78	10.2	618	104.9	58	74.4
合 計	6,734	100.0	713	100.0	6,973	100.0	757	100.0	6,748	96.8	762	100.5

市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	2 5 年度				2 6 年度				2 7 年度			
市町村名	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
美浜町	219	32.2	115	33.7	219	35	142	36.4	206	94.1	139	97.9
南知多町	244	35.8	165	48.4	222	36	191	48.8	242	109.0	207	108.4
その他	218	32.2	61	17.9	179	29	58	14.8	204	114.0	73	125.9
合 計	681	100.0	341	100.0	620	100.0	391	100.0	652	105.2	419	107.2

診療科別在院延患者数及び新入院患者数

診療科	在院延患者数			新入院患者数		
	25 年度	26 年度	27 年度	25 年度	26 年度	27 年度
内科	22,645	22,693	22,407	1,391	1,519	1,599
小児科	41	198	399	8	42	102
外科	6,875	5,354	4,881	324	337	368
整形外科	8,998	10,140	10,613	270	272	292
脳神経外科	16,566	14,213	15,158	325	345	343
皮膚科	350	200	243	55	24	35
泌尿器科	798	511	679	33	39	40
産婦人科	1,658	1,536	516	250	250	100
眼科	990	1,386	1,059	287	297	260
耳鼻 いんこう科	802	786	265	97	75	24
一般計	59,723	57,017	56,220	3,040	3,200	3,163
療養	16,195	15,544	14,433	74	51	59
感染	0	0	0	0	0	0
合計	75,918	72,561	70,653	3,114	3,251	3,222

診療科別退院患者数及び平均在院日数

診療科	退院患者数			平均在院日数		
	25 年度	26 年度	27 年度	25 年度	26 年度	27 年度
内科	1,352	1,456	1,535	16.5	15.3	14.3
小児科	7	45	103	5.5	4.6	3.9
外科	349	375	383	20.4	15.0	13.0
整形外科	261	250	294	33.9	38.9	36.2
脳神経外科	306	326	319	52.5	42.4	45.8
皮膚科	50	28	34	6.7	7.7	7.0
泌尿器科	36	38	41	23.1	13.3	16.8
産婦人科	250	248	99	6.6	6.2	5.2
眼科	288	294	259	3.4	4.7	4.1
耳鼻 いんこう科	94	79	25	8.4	10.2	10.8
一般計	2,993	3,139	3,092	19.8	18.0	18.0
療養	135	117	108	155.0	185.1	172.9
感染	0	0	0	0	0	0
合計	3,128	3,256	3,200	24.3	22.3	22.0

■ 一般公開講座まとめ

一般の方向けに開催された講座の一覧です。

住民公開講座 肝臓病教室 糖尿病教室 生活改善支援センター（調理実習、ミニレクチャー）を記載しています。

月	日	講座・教室名	テーマ	参加人数
4	17	ミニレクチャー	糖尿病を再確認しよう	23
	17 24 5/1	調理実習	食費を効率よく！冷凍食材で今夜のおかず	13
	18	糖尿病教室	糖尿病について 検査について 食事療法について	34
5	15	ミニレクチャー	高血圧の怖いところ	31
	16	肝臓病教室	アルコールと肝臓病	12
	15 22 29	調理実習	血管の若さを保つ食事	20
6	19 26 7/3	調理実習	肌荒れを防ぐおすすめレシピ	35
	19	ミニレクチャー	活動的なお年寄りになろう	29
	20	糖尿病教室	食事会	20
7	4	住民公開講座	1. 筋肉を維持し、がんを予防する食生活 2. 近年の外科手術の進歩	53
	17	ミニレクチャー	小児の食物アレルギーについて	17
	17 24 31	調理実習	ビタミンB群たっぷり！夏バテ予防料理	20
	18	肝臓病教室	血液検査結果について 慢性肝炎について	13

月	日	講座・教室名	テーマ	参加人数
8	1	糖尿病教室	糖尿病と歯周病について 合併症について 食事療法について	24
	18	ミニレクチャー	薬と上手に付き合うために	17
	21 28 9/4	調理実習	おいしい料理へのひと工夫	20
9	18	ミニレクチャー	脂肪肝について	20
	18 25 10/2	調理実習	1人分でも無駄なし「ふだんご飯」	15
	19	肝臓病教室	お薬について インターフェロン療法について	13
10	3	糖尿病教室	糖尿病について 運動療法について	36
	16	ミニレクチャー	増加している失明！加齢黄斑変性	24
	16 23 30	調理実習	もうひと工夫！ 朝ご飯	21
11	20	ミニレクチャー	骨粗鬆症対策	26
	20 27 12/4	調理実習	老いも若きも足りないカルシウムの多い料理	22
	21	肝臓病教室	食事療法について 肝硬変について	12
12	18	ミニレクチャー	脳梗塞を防ぐ生活	24
	18 25	調理実習	青背魚嫌いのための克服レシピ	13
	19	糖尿病教室	食事会	47

月	日	講座・教室名	テーマ	参加人数
1	15	ミニレクチャー	舌でみる健康	13
	15 22 29	調理実習	疲労感がある時に追加する料理（鉄分）	18
	16	肝臓病教室	日常生活の注意点 肝臓について	13
2	6	住民公開講座	1. 急性心筋梗塞にならないために 2. MRI（磁気共鳴画像）で心臓を診る	58
	19	ミニレクチャー	コレステロール値が高いといけないの？	23
	19 26 3/4	調理実習	肉好きの方のコレステロール対策	14
	20	糖尿病教室	糖尿病について 合併症について フットケアについて	36
3	18	ミニレクチャー	胃の病（ピロリ菌について）	19
	18 25	調理実習	毎日健康！快調レシピ	11
	19	肝臓病教室	自己免疫性肺炎	13

※ 調理実習について3回を同一テーマで実施している。

診療科別医療実績

内科	27
小児科	33
外科	35
整形外科	39
脳神経外科	40
皮膚科	44
泌尿器科	45
産婦人科	46
眼科	47
耳鼻いんこう科	48

■ 内 科

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	病院長 日本内科学会認定内科医 日本内科学会認定内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医	昭和52年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長兼 第1消化器内科部長 日本内科学会認定内科医 日本内科学会認定内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和62年
丹村 敏則	副院長兼保健事業部長兼内分泌代謝科部長 日本内科学会認定内科医 日本内科学会認定内科専門医 日本糖尿病学会専門医 日本糖尿病学会指導医 東洋医学専門医 東洋医学指導医 産業衛生学会専門医 産業衛生学会指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 日本医師会認定産業医 労働衛生コンサルタント 日本プライマリケア学会認定医 日本人間ドック学会認定指導医	昭和57年

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
富本 茂裕	第2診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医 日本循環器学会循環器専門医 日本高血圧学会高血圧指導医	平成2年
田中 創始	第2消化器内科部長 日本内科学会認定内科医 日本内科学会専門医 日本消化器病学会認定医	平成8年
村瀬 和敏	一般内科	平成18年
山田 修司	一般内科	平成23年
鈴木 健人	一般内科	平成24年

◎ 専門外来とその診察日

1. 神経内科（月曜日、金曜日）
2. 呼吸器内科（月曜日、木曜日）
3. 循環器内科（火曜日）
4. 膠原病内科（水曜日）
5. 血液内科（火曜日）
6. 消化器・肝臓病（第1・3土曜日）
7. ペースメーカークリニック（第1・3土曜日）

◎ 主な取り組み

保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献するという病院理念に基づき、一般内科医および各種専門医が急性期および慢性期診療に従事しています。

日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓病学会・日本糖尿病学会の認定施設として、診断や治療において最先端の医療を提供できるように努力しています。

1. 糖尿病教室
2. 肝臓病教室
3. 独自の人間ドック（脈管エコー・生活習慣病に対する栄養指導）
4. 各種専門外来

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数1580＞

傷病名	症例数
小腸大腸の良性疾患	232
肺炎	155
誤嚥性肺炎	129

手術件数トップ3

手術名	症例数
内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術	239
内視鏡的消化管止血術	29
内視鏡的消化管止血術（胆道碎石術を伴うもの）	22

◎ 学会発表 等

1：全国学会発表

①（一般演題）

「糖毒性解除に対するSG1T2阻害薬の有用性—インスリン治療群とのCGMの比較検討を中心に—」

丹村敏則

第58回日本糖尿病学会年次学術集会 2015.5.20～23、海峡メッセ下関、他

②（一般演題）

「糖尿病腎症に伴う浮腫、異常検査所見に対する柴苓湯の入院ならびに外来での検討」

丹村敏則

第66回日本東洋医学会学術総会 2015.6.12～14、富山国際会議場、他

③（ランチョンセミナー講演）

「病院薬剤師に必要な漢方医学の知識—とくにチーム医療と漢方薬の連携の実践例からの解説—」

丹村敏則

第25回日本医療薬学会年会 2015.11.21～24、パセイフイコ横浜

④（一般演題）

「入院後の様々な病態に対する漢方薬ゼリー使用12例の臨床的検討」

第19回日本病態栄養学会年次学術集会 2016.1.9～10、パセイフイコ横浜

2-1：研究会発表

①（発表）「CGMでみえてくるSGLT2阻害薬の効果」

丹村敏則

第39回東海ポストグラデーション研究会 2015. 5. 16、 名古屋東急ホテル

②（発表）「心身医学的治療に漢方薬が有効であった症例」

丹村敏則

第52回日本東洋心身医学研究会 2016年3月5日、品川インターシティホール

2-2：セミナー発表

①（講演）

「糖尿病：治療と合併症」

丹村敏則

平成27年度ケアプランに活かす医療講座 2015. 4. 13、 知多厚生病院

②（講演）

「SGLT2阻害薬を臨床にどう活かすか？」

丹村敏則

小牧市医師会学術講演会 2015. 4. 24、 小牧市医師会館

③（講演）

「糖尿病管理における「血糖なだらかな曲線」の重要性」

丹村敏則

川口市医師会学術講演会 2015. 5. 27、 川口市民ホール

④（講演）

「GLP1受容体作動薬を用いた質の良い糖尿病管理」

丹村敏則

体重管理の視点から見た糖尿病治療 2015. 8. 5 名古屋観光ホテル

⑤（講演）

「病院勤務医のための漢方一急性疾患の漢方医学的アプローチ」

丹村敏則

桜山漢方勉強会 2015. 9. 18 名古屋市立大学医学部研究棟

⑥（講演）

「良質な血糖コントロールをめざした治療戦略」

丹村敏則

Diabetes Area Meeting 2015 2015. 10. 22, 岐阜グランドホテル

⑦ (講演)

「病棟で使える漢方薬―嚥下障害等」

丹村敏則

桜山漢方勉強会 2015. 11. 13 名古屋市立大学医学部研究棟

⑧ (講演)

「良質な血糖コントロールをめざした糖尿病治療」

丹村敏則

磐周医師会・磐田市医師会学術講演会 2015. 11. 25、 磐田グランドホテル

⑨ (講演)

「病棟で使える漢方薬―歩行障害、疼痛緩和、不穏症状等」

桜山漢方研究会 2016, 1, 22 名古屋市立大学医学部研究棟

⑩ (講演)

「勤務医のための漢方セミナー」

三重県・漢方実践セミナー 2016. 2. 21 ホテルグリーンパーク津

⑪ (講演)

「日常診療で無自覚低血糖を予防する質のよい糖尿病管理について」

愛知県保険医協会講演会 2016. 2. 6 愛知県保険医協会会議室

⑫ (講演)

「良質な血糖コントロールを目指した治療戦略」

碧南市医師会研究会 2016. 2. 26 碧南市医師会館

3. 論文

① 丹村敏則

「脳出血発症直前の糖尿病外来受診時に両側の外観的变化を認めた2例」

日本農村医学誌 64 (4)、2015年11月号

② 丹村敏則

「インスリン治療にDPP4阻害剤併用によるインスリン量とHbA1cの変化ならびに併用後の患者満足度の検討」

医学と薬学 72 (6)、2015年、6月

③ 丹村敏則

「糖尿病性腎症に伴う腎障害の増悪、浮腫の出現に対する柴苓湯の効果の検討」

漢方と最新治療 25 (1)、2016年2月25日

4. 著書

①共著

「研修医のための漢方薬ハンドブック」

丹村敏則、他、

(株) 協和メディインター 2015. 10. 1

■ 小 児 科

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
神田 恵介	小児科部長 日本小児科学会認定小児科専門医 医学博士（名古屋市立大学大学院医学研究科） 臨床研修指導医養成講習会修了 小児科全般・内分泌疾患・糖尿病・夜尿症	平成11年
森 麻里	小児科医長 日本小児科学会認定小児科専門医 臨床研修指導医養成講習会修了 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・内分泌疾患・糖尿病	平成19年
安井 奈津子	小児アレルギー科医長 日本小児科学会認定小児科専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成20年

◎ 専門外来とその診察日

1. 一般外来 月～金曜午前、第1・3土曜午前
2. 慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、糖尿病、夜尿症、てんかんなど） 月曜午後、木曜午後
3. 乳児健診 水曜午後
4. 1ヶ月健診 水曜午後
5. 予防接種 火曜午後・金曜午後

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数102＞

病名	件数
その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	37
食物アレルギー	14
てんかん	5

◎ 主な疾病、検査

小児科の入院患者は気管支喘息、急性肺炎などの呼吸器疾患、感染性胃腸炎などの消化器疾患、痙攣発作などの神経疾患をはじめとした急性期疾患が主体である。近年は予防接種の適応拡大や気管支喘息への予防治療の進歩により、当院に限らず急性期疾患による入院数は減少傾向となっている。その一方で平成27年より対応を開始した食物アレルギー経口負荷試験および低身長負荷試験の施行数は徐々に増加している。新生児疾患は黄疸、軽度呼吸障害、低出生体重児への対応は可能であるが、集中治療を要する重症疾患は大同病院、あいち小児保健医療総合センター、安城更生病院などへの搬送が必要となっている。

◎ 主な取り組み

平成27年11月より常勤医の産休、育休により常勤医が1名体制となったが、代務医の増員などの対応で入院および外来診療体制に大きな支障を来すことはなかった。

平成28年度は流行性耳下腺炎の流行が目立ち、それに伴う無菌性髄膜炎などで入院加療を要する症例が散見されたが、その他の疾患は例年通りまたは減少したため、全体として入院加療を必要とする症例は減少した。平成27年度から開始した食物アレルギー負荷試験の施行数は増加しており、外来における通院患者も増加している。また、平成28年度から開始した低身長負荷試験の施行数はまだそれほど多くはないが、検査の結果、成長ホルモン分泌不全性低身長症と診断された症例が2例あり、外来で自己注射指導のうえ治療を開始している。

現在は常勤医が内分泌疾患、アレルギー疾患、腎疾患など幅広く専門性をもった領域に対応できるため、一部の強い専門性を必要とされる疾患（先天性心疾患、血液疾患、膠原病、腎生検を必要とする腎疾患など）を除けばおおそ対応可能である。近年は不登校、摂食障害、自閉症などの小児精神疾患の相談が増えているが、対応が困難であることに加え近隣で対応可能な施設もほとんどなく苦慮しているところである。

予防接種は平成28年度からB型肝炎ワクチンの定期接種が開始となった。これにより予防接種スケジュールは益々タイトなものとなっているが、可能な限りの同時接種施行や個々に合わせたスケジュールの作成などで支援を行っている。

■ 外 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器病学会専門医 日本消化器病学会指導医 消化器がん外科治療認定医 日本静脈経腸栄養学会認定医 日本静脈経腸栄養学会評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和61年
保里 恵一	乳腺外科部長 兼 地域医療福祉連携部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器病学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本肝臓学会肝臓専門医 マンモグラフィー読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和56年
長谷川 毅	消化器外科部長 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本消化器外科学会専門医 日本消化器外科学会指導医 日本がん治療認定医 消化器がん外科治療認定医 Infection Control Doctor マンモグラフィー読影認定医 日本褥瘡学会認定師（医師） 日本医師会産業医	平成4年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本がん治療認定医	平成10年

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 徹也	内視鏡外科医長 日本外科学会認定専門医	平成19年

◎専門外来とその診察日

血管外科外来：毎週金曜日午後 （非常勤）常滑市民病院・中島正彌医師

褥瘡外来：第1・3金曜日午後 皮膚排泄認定看護師（近藤貴代、荻須昌子）

◎主な取り組み

①腹腔鏡手術の適応拡大

- ・現在、進行癌を含めた大腸癌手術のほとんどを腹腔鏡下に行い、みな順調な経過で早期退院が得られています。
- ・腹腔鏡手術は、同じ手術を開腹しないで行う方法ですが、術後の炎症反応は非常に軽微で、生体はあたかも小さな手術しか受けていないような反応を示します。これにより術後の筋肉喪失、体重減少、術後合併症（縫合不全や創感染）が発生することなく早期の退院が得られる非常に有用な方法であります。
- ・鼠径ヘルニア手術では、最も理想的な根治的な方法である腹腔鏡下手術(TAPP 法)を積極的に行っております。同術式は全国的に拡大しつつあり、小森内視鏡外科医長は、名古屋大学系列である知多市民病院、東海市民病院（これらはh27.5に西知多総合病院に合併）、常滑市民病院、碧南市民病院に出向いて技術指導を行い、当院は知多半島における TAPP 手術のリーダー的存在となっております。
- ・刈谷豊田総合病院外科の宮井医師の協力を得て、早期胃癌に対しては腹腔鏡下手術を導入しております。

②外来化学療法を積極的に展開

- ・新規抗がん剤の開発・進歩によって、10年前は約半年であった進行再発大腸癌の予後は約3年に至るまで延長されており、奏効例には肝切除・肺切除を追加することで根治される例も現在では珍しくなく、どんな進行癌でも常に根治を視野に入れた集学的治療を行っております。

③血管外科手術

- ・平成27年4月より、常滑市民病院中島正彌医師の協力を得て毎週金曜日午後血管外科外来を開いており、今後は下肢静脈瘤に対してレーザー治療を行っていく方針であります。

④術後早期経腸栄養を含めた栄養管理

- ・消化器を切除することで生じる消化吸収障害と体重減少の軽減をはかり、退院に向けて順調な経口摂取への移行に尽力しております。術後の体重減少が大きいほど抗癌剤は効きにくくなり、予後が短くなるとの研究報告があり、当院でも研究活動を行っています。

⑤胃癌術後のQOL 上昇

- ・術後の体重減少が最も顕著にみられる胃癌患者さまに対し、根治性を損なわない範囲で切除方法や再建方法を工夫し、退院後のQOLを改善できるよう尽力しております。

⑥積極的な肝切除、脾切除

- ・大腸癌肝転移を初め、C型肝硬変などに発生する肝細胞癌は内科と協力しつつ積極的に切除する方針をとっております。
- また脾癌に対しても、必要な場合には門脈合併切除を併施することで根治性を上げ、下脾十二指腸動脈先行処理など最新の術式を導入して出血量軽減と安全性向上に努めております。

◎手術件数

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全手術件数	211	318	323	281	260	263	290
全身麻酔	140	184	180	197	190	187	220
胃癌（うち腹腔鏡下手術）	18(2)	15(2)	16(1)	9(0)	12(4)	14(9)	11(1)
大腸癌（うち腹腔鏡下手術）	25(3)	24(10)	31(7)	36(18)	34(18)	26(21)	48(41)
腹腔鏡下胆嚢摘出術	20	26	14	31	28	24	34
肝切除術	6	4	5	3	6	10	11
脾切除術	2	1	7	2	4	4	4
乳癌手術	8	17	25	22	19	19	21

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数374＞

傷病名	症例数
鼠径ヘルニア	34
胆嚢疾患	21
結腸の悪性腫瘍	17

手術件数トップ3

手術名	症例数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	34
腹腔鏡下胆嚢摘出術	28
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	21

◎施設認定

H14. 1～ 日本外科学会外科専門医制度数連施設（指定施設）

H15～ 第1回日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、教育施設

H23. 11～日本静脈経腸栄養学会 NST 委員会 NST 稼働施設

H24. 1～ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

◎学会発表

1. 第289回東海外科学会

愛知県医師会館 h27. 4. 29

「G-CSF およびAFP 産生胃癌の1例」

小森徹也、杉戸伸好、長谷川毅、村元雅之

2. 第14回知多半島栄養サポートフォーラム

西知多総合病院 h27. 6. 27

「脂質構成と疾患について」

小出賢吾、村元雅之、三浦毅、神谷有紀、木島綾乃、山本真衣、沖田英人、榊原香代子、
上原恵子

3. 第9回日本静脈経腸栄養学会東海支部学術集会 名古屋国際会議場 h27. 7. 26
「ロイシン高配合栄養剤を用いた高齢リハビリ患者の栄養介入効果の検討」
木島綾乃、村元雅之、神谷有紀、山本真衣、吉田あい、小出賢吾、三浦毅、沖田英人、上原恵子、
榊原香代子
4. 6th PENSA (Parenteral and Enteral Nutrition Society of Asia) 名古屋国際会議場 h27. 7. 26
「A New Jejunostomy Method with much less Leakage of Intestinal Fluid, named
“Roux-Y jejunostomy”」
Masayuki Muramoto^{1, 2}, Maki Kamimura², Ayano Kijima², Hideto Okita²,
Kayoko Sakakibara², Keiko Uehara², Yuki Kamiya², and Takeshi Miura²
5. NST 全体講習会講演 稲沢厚生病院 h27. 8. 19
「sarcopenia とリハビリ栄養」
村元雅之
6. 第64回日本農村医学会 秋田キャッスルホテル h27. 10. 23
「腸液漏れの少ない空腸瘻造設術」
村元雅之、木島綾乃、沖田英人、榊原香代子、上原恵子、神谷有紀、三浦 毅、宮本忠壽
7. 第28回日本外科感染症学会 名古屋東急ホテル h27. 12. 2
「広範囲デブリードマンと形成外科手術で治癒可能であった左坐骨部褥瘡に由来する Fournier
症候群の1 治験例」
村元雅之、長谷川毅、杉戸伸好、小森徹也、保里恵一
8. 第28回日本外科感染症学会 名古屋東急ホテル h27. 12. 3
「術後に偽膜性腸炎を繰り返した1 例」
長谷川毅、小森徹也、杉戸伸好、保里恵一、村元雅之
9. 第28回日本外科感染症学会 名古屋東急ホテル h27. 12. 3
「一般口演 20 腹腔・腹壁感染症 3 座長」
村元雅之
10. 第4回知多外来化学療法研究会 クラシティー半田 h28. 1. 29
「一般演題 座長」
村元雅之
11. 第31回日本静脈経腸栄養学会 マリンメッセ福岡 h28. 2. 25
「胃癌術後の周術期体重および筋肉量は不顕性浮腫により高く誤認されることが多い
—体組成測定による検討—」
村元雅之 木島綾乃 三浦 毅 沖田英人 榊原香代子 上原恵子
12. 第31回日本静脈経腸栄養学会 マリンメッセ福岡 h28. 2. 26
「ロイシン高配合栄養剤を用いた高齢リハビリ患者の栄養介入効果の検討」
木島綾乃、村元雅之、上原恵子、沖田英人、榊原香代子、三浦毅

■ 整 形 外 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
脇田 郷	副院長兼医療安全部長兼整形外科代表部長 日本整形外科学会認定専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本リウマチ財団登録医	昭和 5 6 年
服部 一希	日本整形外科学会認定専門医	平成 1 5 年
長谷川 一行	リハビリテーション科医長 日本整形外科学会専門医	平成 1 7 年

◎ 主な取り組み

早期離床

◎ 主な検査

整形外科全般

◎ 主な疾病

整形外科全般

【平成 2 7 年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPC データより）】

入院症例数トップ 3 ＜全症例数 2 8 7＞

傷病名	症例数
股関節大腿骨近位骨折	7 2
胸椎、腰椎以下骨折損傷	3 1
膝関節症	1 1

手術件数トップ 3

手術名	症例数
骨折観血的手術	4 8
人口骨頭挿入術	3 5
関節内骨折観血的手術	2 2

■ 脳 神 経 外 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	副院長兼臨床研修部部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療専門医	昭和 5 6 年
福島 庸行	診療協同部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医	昭和 6 0 年
中塚 雅雄	医療情報部長兼脳血管内治療部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療専門医	平成 2 年

◎ 主な検査

脳血管造影 2 3 例

◎ 新規入院数

新規入院数 3 5 9 例

うち脳卒中急性期 1 8 5 例

◎ 主な手術内容

頸動脈血管拡張ステント留置術 6 例

脳動脈瘤コイル塞栓術 4 例

脳室腹腔シャント術 2 例

慢性硬膜下血腫除去術 1 7 例

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数287＞

傷病名	症例数
脳梗塞（エダラボンあり）	40
脳梗塞（エダラボンなし）	27
脳梗塞（エダラボンあり、副傷病あり）	23

手術件数トップ3

手術名	症例数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	14
経皮的頸動脈ステント留置術	6
脳血管内手術	6

◎ 学会発表

- 1： 中塚雅雄 臨床現場の抗凝固治療 -凝固因子の役割を考える- バイエル薬品社内講演会
2014.4.11 名古屋
- 2： 中塚雅雄、福島庸行、水野志朗 86歳以上の高齢者における頸動脈ステント留置術の有用性について 第56回日本老年医学会学術集会
2014.6.12 福岡
- 3： 中塚雅雄、福島庸行、水野志朗 血管内治療適応を臨床倫理的配慮加え検討した頸動脈および下肢動脈高度狭窄症を有する高齢者の一例 第20回 I 日本血管内治療学会総会
2014.6.20 和歌山
- 4： 中塚雅雄 血液凝固 第1回脳卒中診療の勉強会 2014.6.25 知多厚生病院内
- 5： 中塚雅雄 左中大脳動脈閉塞症に対し脳神経血管内治療を施行した1例 -シロスタゾールの役割- 第5回知多半島脳血管障害懇話会
2014.7.10 半田
- 6： 中塚雅雄 脳血管障害と全身脈管病 -脳卒中治療ガイドラインから考える脳血管障害の予防- 2014.7.18 平成26年度第4回 生活改善センターミニレクチャー 知多厚生病院内

- 7 : 中塚雅雄 少子高齢化社会における地域医療 -地域包括ケアシステムがわたしたちに求めること-
2014. 7. 31 第 13 回 医療・介護ネットワーク研究会 半田
- 8 : 中塚雅雄 わたしたちの地域包括ケアシステム -現状と医療制度をふまえた地域の未来- 2014. 8. 7 平成 26 年度 知多厚生病院運営協力委員会
知多厚生病院内
- 9 : 中塚雅雄 少子高齢化のすすむ地域医療の脳卒中 -テルミサルタンの経験-
2014. 8. 22 アステラス製薬株式会社社内講演 名古屋
- 10 : 中塚雅雄 脳梗塞回復期の抗血小板療法 - 地域医療における回復期リハビリ病棟の役割 - 2014. 9. 4 第 1 回知多厚生病院薬剤部院内勉強会
知多厚生病院内
- 11 : 中塚雅雄 脳卒中：病気の理解と予防・介護 ～よりよいケアプランのために～ 2014. 9. 8 第 6 回ケアプランに活かす医療講座 知多厚生病院内
- 12 : 中塚雅雄 失神と地域医療 2014. 9. 11 知多厚生病院医師会症例検討ミニレクチャー 2014. 9. 11 知多厚生病院内
- 13 : 中塚雅雄 知多半島南部の脳梗塞診療の動向 -NOACs の選択とダビガトロン- 2014. 10. 30 知多半島地区 AF Network Meeting 半田
- 14 : 福島庸行、中塚雅雄、水野志朗 de novo ACOM aneurysm による SAH の一例
2014. 11. 7 Neurosurgery Network 半田
- 15 : 中塚雅雄、福島庸行、水野志朗 85 歳を超える高齢者くも膜下出血症例における診療のあり方 -80 歳を超えるくも膜下出血症例との比較検討-
2014. 11. 14 第 63 回日本農村医学会学術総会 つくば
- 16 : 中塚雅雄 福島庸行 水野志朗 85 歳を超える高齢者くも膜下出血症例における診療のあり方 -80 歳を超えるくも膜下出血症例との比較検討-
2014. 12. 3 平成 26 年日本農村医学会学術総会報告会 知多厚生病院内
- 17 : 中塚雅雄 臨床倫理 -臨床倫理カンファランス：人工栄養の中止について-
2014. 12. 4 知多厚生病院 5F 臨床倫理カンファランス 5F527 号室 知多厚生病院内
- 18 : 福島庸行、中塚雅雄、水野志朗 de novo ACOM aneurysm による SAH の一例
2015. 1. 9 第 6 回知多半島脳血管障害懇話会 半田
- 19 : 中塚雅雄 未破裂性脳動脈瘤 2014 -脳神経血管内治療とクロピドグレル-
2015. 2. 5 第 2 回脳と血管障害についての座談会 BRAVO 半田
- 20 : 中塚雅雄 脳神経外科と全身脈管病 -地域医療におけるスタチン管理と血

管内治療- 2015. 2. 19 知多半島 PAD 研究会 半田

2 1 : 中塚雅雄、福島庸行、水野志朗 知多半島南部における脳卒中の動向

2015. 3. 27 第 34 回日本脳卒中学会総会 広島

■ 皮 膚 科

氏 名	役職・専門分野	臨床経験年数
伊藤 秀明	日本皮膚科学会皮膚科専門医 日本医師会認定産業医	平成19年
加藤 香澄	一般皮膚科	平成23年

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数33＞

傷病名	症例数
带状疱疹	12
食物アレルギー	3
急性膿皮症	2

手術件数トップ3

手術名	症例数
皮膚悪性腫瘍切除術	2
皮膚腫瘍摘出術	1

■ 泌 尿 器 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成 1 年

◎ 主な取り組み

前立腺肥大症、尿失禁に対する薬物療法

【平成 27 年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPC データより）】

入院症例数トップ 3 ＜全症例数 43＞

傷病名	症例数
膀胱腫瘍	6
男性器疾患	6
前立腺の悪性腫瘍	4

入院手術件数トップ 2

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術	7
経尿道的尿管ステント留置術	3

■ 産 婦 人 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 臨床研修指導医	昭和48年

◎ 専門外来とその診察日

産科及び一般婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）を行っています。午後は手術・母親教室・検査などがあり、また、常勤医師が1名しかいないということもあり、現在のところ専門外来は行っていません。コルポスコピー・子宮卵管造影など特殊な検査は、月曜日から金曜日の可能な午後を選んで行っています。また、病状説明など時間を要する場合も午後の余裕のある時間帯に行っています。

◎ 主な取り組み

悪性腫瘍手術・化学療法など、大学とタイアップしてできるだけ患者さんの希望に応じて便宜を図っています。また、不妊症・更年期障害・子宮内膜症などに積極的に取り組んでいます。その他、子宮頸癌・体部癌検診・超音波検査による卵巢癌検診・妊婦健診などです。

さらに、J A子宮癌検診を担当するなど、地域医療にも協力をしています。

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数37＞

傷病名	症例数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	7
妊娠合併症	7
流産	5

手術件数トップ3

手術名	症例数
子宮頸部切除術	7
子宮内容除去術	4
子宮筋腫摘出術	2

■ 眼 科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
久保田 文洋	眼科部長代理 日本眼科学会専門医 PDT 認定医	平成 16 年
好中 麻世	一般眼科	平成 23 年

◎ 主な取り組み

白内障手術

緑内障の早期発見及び治療

硝子体手術

網膜光凝固術

【平成 27 年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPC データより）】

入院症例数トップ 3 <全症例数 258>

傷病名	症例数
白内障	219
黄斑、後極変性	9
糖尿病性増殖性網膜症	8

手術件数トップ 3

手術名	症例数
水晶体再建術	219
硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含むもの）	23
硝子体茎頭微鏡下離断術（その他のもの）	7

■ 耳鼻いんこう科

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 克彦	耳鼻いんこう科代表部長 耳鼻いんこう科一般・頭頸部腫瘍・補聴器 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医	平成5年

◎ 専門外来とその診察日

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後

補聴器外来： 火曜日の午前

めまい外来： 水曜日の午前

【平成27年度クリニカルインディケーター掲載指標（DPCデータより）】

入院症例数トップ3 ＜全症例数25＞

傷病名	症例数
睡眠時無呼吸	14
前庭機能障害	5
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭口頭炎	1

部署別業務実績

【診療協同部】

- 放射線技術科 51
- 臨床検査技術科 56
- リハビリテーション技術科 60
- 臨床工学技術科 64
- 栄養科 69

【薬剤部】 71

【看護部】 78

【医療安全管理部】 82

【感染制御部】 83

【事務部】

- 企画課 84
- 医事課 86
- 総務課 87
- 施設課 88

【医療情報部】 89

【保健事業部】 90

【地域医療福祉連携部】 93

■ 放射線技術科

1. 平成27年度部門目標

- ・円滑なMR I 装置の更新
- ・医療被曝低減への取り組みの実施
- ・専門知識の習得による信頼性の高い放射線検査の提供
- ・経営の安定化に寄与する体制の構築
- ・他部門との連携強化

2. 主な取り組み

①MR I 装置の更新

- ・他施設へのMR I 患者の紹介は、マニュアルを作成しトラブルもなくスムーズに行われた。
- ・MR I 担当責任者を、メーカーの集中トレーニングに参加させるとともに、人員をMR I に集中的に配置し、短期間で操作を習得した。
- ・ワークステーションを、脳神経外科・内科外来・各病棟・医局など主要な場所に設置しフレキシブルに業務ができる体制を構築した。
- ・院外広報誌「知ったより」平成27年10月号、平成28年1月号に掲載し、患者さんに紹介した。

②医療被曝低減への取り組み

- ・撮影方法の統一
撮影法を協議・見直しを行い、再現性のある画像提供を可能にした。
- ・撮影条件の見直し
撮影条件の見直しを行い、被ばく低減と画質向上を行った。
- ・被曝線量の測定
被ばく線量計算ソフトPCXMCにて被ばく線量を測定することにより、患者の被ばく線量を把握
- ・プロテクターの管理
プロテクターの点検を1回/月実施（数・汚れ・透視によるキズの有無をチェック）

③経営安定化に寄与する新たな取組

- ・電子カルテ上に「CTオーダー依頼の付箋」を添付し依頼もれの減少を図る。
昨年度の、肝・胆道系・肺気腫に追加して、今年度は癌及び主要の病名がつくもの、大動脈瘤・肺塞栓症・脾のう胞 と対象病名を追加して付箋を添付した。
昨年度の付箋添付と同じくして、CT件数が持続して増加している。
- ・CTCの実施
新たな取組として、CTC（CT-Colonography）を平成27年11月より開始
大腸検査の選択肢を、増やすことができた。
- ・整形外科術中透視への立会いを実施

④安心安全な放射線検査の提供

- ・全造影検査時のチューブを、耐圧チューブへ全面的に変更
- ・技術や知識・管理の向上を目的とした認定資格の取得
今年度、新たに1名がマンモグラフィー検診精度管理中央委員会の認定技師資格を取得し、女性技師全員が有資格者となった。
医療情報技師資格取得 1名

- ・脳疾患におけるMR I、CT画像評価について、患者さんを対象に講演を実施
- ・安心安全な環境の構築

乳房撮影室に簡易ベッドを設置し、乳房圧迫により気分の悪くなる患者さんへの対策を実施

3. 人員体制

(平成28年3月31日現在)

診療放射線技師	9名(女性3名、男性6名)
放射線(1Bブロック)看護師	4名
SPD(午前)	1名
受付事務員(1Bブロック)	2名(午後1名)
放射線科代務医師(読影)	3名(月：午後、火・金：終日 各1名)

4. 画像診断関連機器一覧 平成27年度

撮影室	装置	メーカー	取得年月日
一般撮影 ⑥	撮影装置	島津 UD150L-40(50KW)	2009/7/30
	画像処理装置	コニカミノルタ CS-5	2009/7/30
	読み取り装置	コニカミノルタ REGIUS 190(カセットリーダー)	2009/7/30
	FPD撮影装置	コニカ PLAUDR C-30(立位リーダー)	2009/7/30
	FPD撮影装置	コニカミノルタ PLAUDR C-50(臥位リーダー)	2009/7/30
一般撮影 ⑦	撮影装置	島津 UD150L-40(50KW)	2009/7/30
	画像処理装置	コニカミノルタ CS-5	2009/7/30
	読み取り装置	コニカミノルタ REGIUS 190(カセットリーダー)	2009/7/30
	FPD撮影装置	コニカミノルタ PLAUDR C-30(立位リーダー)	2009/7/30
	FPD撮影装置	コニカミノルタ PLAUDR C-50(臥位リーダー)	2009/7/30
マンモ ⑧	撮影装置	SIEMENS MAMMOMAT1000	2009/7/30
	画像処理装置	コニカミノルタ CS-5	2009/7/30
	読み取り装置	コニカミノルタ REGIUS 190(カセットリーダー)	2009/7/30
骨塩定量 ⑧	撮影装置	アロカ Dichroma Scan DCS-600EXV	2009/7/30
健診センター (胸部撮影)	撮影装置	島津 RADIOTEX CH-200	2009/7/30
	画像処理装置	コニカミノルタ CS-5	2009/7/30
	FPD撮影装置	コニカミノルタ PLAUDR C-30(立位リーダー)	2009/7/30
ポータブル	回診型撮影装置	島津 MobileArtEvolution	2010/6/1
	回診型撮影装置	島津 MobileArtEvolution	2011/4/10
	読み取り装置	コニカミノルタ REGIUS 110(カセットリーダー)	2009/7/30
外科用イメージ	OPE用透視装置	SIEMENS SIREMOBIL Compact L	2007/8/10

撮影室	装置	メーカー	取得年月日
T V ②	撮影装置	東芝 ZEXIRA II Version (I.I.)	2009/7/30
	撮影制御装置	東芝 ADR-1000A	2009/7/30
T V ⑨	撮影装置	東芝 ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	2009/7/30
	撮影制御装置	東芝 HDR-1000A	2009/7/30
C T ⑤	撮影装置	東芝 TSX-101A Aquillion64	2007/5/7
	ワークステーション	アミン ZIOSTATION610	2007/5/7
	ワークステーション	アミン ZIOSTATION2Crassic	2012/7/21
	テラステーション	バッファローTerastationPro	2009/7/7
	Xe-CT 測定装置	安西 コールドキセノンガス吸入装置 AZ-725N	1996/11/10
M R I ④	撮影装置	Pilips Ingenia1.5T	2015/9/25
	ワークステーション	AZE バーチャルプレイス風神 RM-01123791	2015/9/25
	生体情報モニタ	コニカミノルタヘルスケア Invivo Essentil	2015/9/25
アンギオ ③	撮影装置	SIEMENS AXIOM Artis dTA	2009/7/30
	ポリグラフ	日本光電 RMC-4000M	2008/8/4
	ワークステーション	SIEMENS LEONARDO	2009/7/30
デジタイザ	film 読み取り装置	Array AOC Scan1.4	2009/7/30
プリンター	ドライイメージャー	コニカミノルタ ドライブロ 793	2009/7/30
検 像	画像検像装置	インフォコム Ev-stasion	2009/7/30
出張ポータブル	携帯型X線撮影装置	日立 PHT-1003 2011/12/1 機器故障のため修理不能	2002/2/1
篠島診療所	診断用X線装置	島津エクシープロMパック	2011/11/1
	読み取り装置	コニカミノルタ REJIUS 190 (カセットリーダー)	2007/12/1
	現像機	コニカミノルタ ドライイメージャー	2007/12/2

5. 平成27年度 放射線技術科撮影件数

全検査件数

項目	27年度	26年度	対比%
一般撮影	26,536	27,956	94.9%
マンモ	1,532	1,383	110.8%
TV検査	3,482	3,274	106.4%
血管検査	64	96	66.7%
CT検査	8,543	7,994	106.9%
MR I 検査	4,758	5,308	89.6%
骨塩定量	901	893	100.9%
画像処理	1,526	1,268	120.3%
術中透視	29	0	—
合計	47,371	48,172	98.3%

健診検査件数

項目	27年度	26年度	対比%
胸部	2481	2443	101.6%
マンモ	889	827	107.5%
胃透視	874	860	101.6%
胃内視鏡	987	939	105.1%
CT検査	244	262	93.1%
MR I 検査	445	666	66.8%
骨塩定量	307	278	110.4%
合計	5240	5336	98.2%

放射線利用料

項目	27年度		26年度		対比%	
	利用 延人数	利用料 (円)	利用 延人数	利用料 (円)	利用 延人数%	利用料%
単純撮影	14,599	38,608,628	16,255	43,327,306	89.8%	89.1%
特殊撮影	637	3,579,940	552	3,102,240	115.4%	115.4%
造影剤使用撮影	261	1,612,268	257	1,690,725	101.6%	95.4%
CT	5,677	71,278,570	5,260	67,080,270	107.9%	106.3%
MR I	3,722	54,684,883	3,910	57,720,481	95.2%	94.7%
CT・MR I 診断料及び 重複していない人員数	8,604	38,424,150	8,384	37,623,825	102.6%	102.1%
骨塩定量	588	816,200	611	844,200	96.2%	96.7%
合計	25,484	209,004,639	26,845	211,389,047	94.9%	98.9%

6. 発表

平成28年2月6日 西知多総合病院

平成27年度 知多地区放射線技師会 冬季研修会

「線量最適化を目的とした頭部単純CTの見直し」

知多厚生病院 磯貝征寛

【検査科の理念】

私たちは、知多南部圏の基幹病院としての機能充実のため、臨床検査部門がいかに診療支援をはたすかを絶えず追求し、信頼される検査室づくりを目指します。

【検査科の取組み】（【基本方針】）

- 1、人材育成の対策強化。
- 1、チーム医療への貢献。
- 1、検査精度の向上。
- 1、検査コストの削減、収益の増益。

【具体的な取組み】

- ・学会・研修会・の参加、学会発表することによりスキルアップを図る。
- ・院内研修（検査内）による若手指導・勉強会を毎月開催する。
- ・健診部門支援技師（超音波検査担当者）の新たな技師育成。
- ・院内感染対策への支援とレベルアップに努めます。
- ・技師レベル向上に努め、質の高い検査報告に取り組みます。
- ・内部精度管理・外部精度管理の充実を図ります。
- ・外部委託検査と交渉しコスト削減を行います。
- ・生理部門の応援体制の強化を図ります。

【学会発表】

第47回日本臨床検査自動化学会（神奈川県・パシフィコ横浜）

平成27年10月8日（木）～10日（土）

『全自動凝固測定装置CS1600とCA1500との比較検討』

久保田 勝俊

第64回日本農村医学会（秋田県・秋田県民会館）

平成27年10月22日（木）23日（金）

『当院におけるSGLT2阻害薬が臨床検査値に与える影響』

杉浦 有委美

【検査科稼働表】

別紙

【認定技師】

梅村 壽男	細胞検査士
	国際細胞検査士
大岩 れい子	超音波検査士（消化器領域）
	超音波検査士（循環器領域）
	超音波検査士（体表臓器領域）
	超音波検査士（健診領域）
	超音波検査士（血管領域）
山本 喜之	緊急臨床検査士
	救急検査認定技師
山下 愛	上級健康食品管理士
	日本糖尿病療養指導士
	超音波検査士（循環器領域）
中根 久美子	細胞検査士
	国際細胞検査士
	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
小出 明奈	第一種衛生管理者
	緊急臨床検査士
	メンタル心理カウンセラー
植田 祐介	認定心電図検査技師

検査科実施 稼働件数		平成26年度		平成27年度	
		件数	前年対比%	件数	前年対比%
一般検査	尿	36,555	97.8	47,156	129.0
	便	3,812	98.8	4,114	107.9
	体液	485	75.9	322	66.4
血液検査	血液	116,670	101.3	118,115	101.2
輸血検査	輸血	3,064	101.8	2,748	89.7
臨床化学	化学1	813,913	100.4	828,032	101.7
	化学2	26,481	104.5	31,003	117.1
	血液ガス	1,165	97.2	892	76.6
	負荷試験	77	110.0	61	79.2
微生物検査	一般細菌	12,309	101.8	11,501	93.4
	微生物核酸検査	0	--	0	--
	その他	660	92.7	683	103.5
免疫検査	免疫	51,981	102.8	52,734	101.4
病理	病理組織	1,792	108.9	2,015	112.4
	細胞診	3,177	104.3	3,054	96.1
生理検査	肺機能	3,578	102.9	3,730	104.2
	心電図	7,359	97.0	7,709	104.8
	超音波	4,348	103.7	4,719	108.5
	脳波	104	69.3	181	174.0
	その他	3,451	83.7	3,434	99.5
その他	病理解剖	1	50.0	2	200.0
	採 血	30,038	101.4	30,816	102.6
	輸血製剤管理	1,436	84.0	1,200	83.6
	その他	130	73.4	123	94.6
稼働件数合計		1,122,586	100.6	1,154,344	102.8

検査科実施 稼働点数		平成26年度		平成27年度	
		点数	前年対比%	点数	前年対比%
一般検査	尿	1,269,451	99.6	1,619,232	127.6
	便	143,806	99.4	155,453	108.1
	体液	6,251	60.0	3,431	54.9
血液検査	血液	2,885,486	102.1	3,008,578	104.3
輸血検査	輸血	167,484	104.4	144,752	86.4
臨床化学	化学1	10,711,712	100.7	10,964,236	102.4
	化学2	3,864,929	101.1	4,392,871	113.7
	血液ガス	172,494	96.0	130,232	75.5
	負荷試験	15,400	110.0	12,200	79.2
微生物検査	一般細菌	1,382,557	103.8	1,279,976	92.6
	微生物核酸検査	0	--	0	--
	その他	0	--	0	--
免疫検査	免疫	2,766,945	100.7	2,852,948	103.1
病理	病理組織	1,897,670	113.3	2,017,580	106.3
	細胞診	521,110	104.7	494,980	95.0
生理検査	肺機能	339,910	102.9	354,350	104.2
	心電図	1,187,380	99.8	1,160,130	97.7
	超音波	2,057,440	101.9	2,255,570	109.6
	脳波	132,100	80.6	127,830	96.8
	その他	569,660	82.5	566,510	99.4
その他	病理解剖	25,000	50.0	50,000	200.0
	採 血	600,760	126.8	616,320	102.6
	輸血製剤管理	0	--	0	--
	その他	0	--	0	--
稼働点数合計		30,717,545	101.6	32,207,179	104.8

判断料 件数		平成26年度		平成27年度	
		件数	前年対比%	件数	前年対比%
検査判断料	尿・糞便等検査	9,623	92.3	10,201	106.0
	血液学的検査	30,105	92.4	30,479	101.2
	生化学的検査（Ⅰ）	29,468	91.8	30,061	102.0
	生化学的検査（Ⅱ）	9,134	98.3	9,951	108.9
	免疫学的検査	14,779	90.4	15,392	104.1
	微生物学的検査	4,010	80.9	3,753	93.6
	病理学的検査	2,901	107.7	2,286	78.8
	呼吸機能検査	284	79.3	316	111.3
	脳波検査	106	50.2	129	121.7
	神経・筋検査	22	41.5	35	159.1
検査判断総件数		100,432	92.1	102,603	102.2

その他加算 件数	平成26年度		平成27年度	
	件数	前年対比%	件数	前年対比%
病理診断料	219	28.4	1,119	511.0
検体検査管理加算Ⅰ	38,900	102.4	39,623	101.9
検体検査管理加算Ⅳ	581	15.3	366	63.0
パルスドブラ法加算	58	20.7	69	119.0
乳幼児加算	136	122.5	111	81.6
時間外緊急院内検査加算	1,655	88.2	1,680	101.5
生化学入院時初回加算	105	4.7	128	121.9
外来迅速加算	33,090	98.8	35,245	106.5
輸血管理料Ⅱ	199	92.6	233	117.1
輸血適正使用加算	199	92.6	233	117.1
合計 件数	75,142	92.8	78,807	104.9

判断料 点数		平成26年度		平成27年度	
		点数	前年対比%	点数	前年対比%
検査判断料	尿・糞便等検査	327,182	92.3	346,834	106.0
	血液学的検査	3,763,125	92.4	3,809,875	101.2
	生化学的検査（Ⅰ）	4,243,392	91.8	4,328,784	102.0
	生化学的検査（Ⅱ）	1,315,296	98.3	1,432,944	108.9
	免疫学的検査	2,128,176	90.4	2,216,448	104.1
	微生物学的検査	601,500	80.9	562,950	93.6
	病理学的検査	435,150	107.7	342,900	78.8
	呼吸機能検査	39,760	79.3	44,240	111.3
	脳波検査	19,080	50.2	23,220	121.7
	神経・筋検査	3,960	41.5	6,300	159.1
検査判断総点数		12,876,621	92.1	13,114,495	101.8

その他加算 点数	平成26年度		平成27年度	
	点数	前年対比%	点数	前年対比%
病理診断料	87,600	28.4	447,600	511.0
検体検査管理加算Ⅰ	1,556,000	102.4	1,584,920	101.9
検体検査管理加算Ⅳ	290,500	15.3	183,000	63.0
パルスドブラ法加算	11,600	20.7	13,800	119.0
乳幼児加算	1,904	122.5	1,554	81.6
時間外緊急院内検査加算	182,050	88.2	184,800	101.5
生化学入院時初回加算	2,100	4.7	2,560	121.9
外来迅速加算	1,458,830	100.7	1,560,040	106.9
輸血管理料Ⅱ	23,980	101.4	53,900	224.8
輸血適正使用加算	13,080	101.4	29,400	224.8
合計点数	3,627,644	65.7	4,061,574	112.0

		平成26年度		平成27年度	
		件数	前年対比%	件数	前年対比%
委託件数	保険収載件数	13,918	98.3	14,034	100.8
	未保険収載件数	784	54.3	798	101.8
	管理料件数	0	--	0	--
総件数		14,702	94.2	14,832	100.9

		平成26年度		平成27年度	
		件数	前年対比%	件数	前年対比%
委託支払額	保険項目支払小計	21,523,899	85.8	14,401,448	66.9
	未保険項目支払計	2,456,370	69.1	2,456,943	100.0
	管理料支払計	0	--	0	--
総支払い額		23,980,269	83.7	16,858,391	70.3

委託検査収入	総保険点数請求額	30,555,470	81.7	29,327,600	96.0
	利益差	6,575,201	75.0	12,469,209	189.6

消費額	薬品費	67,795,534	101.2	68,297,110	100.7
	医療材料費	5,027,128	116.1	4,625,110	92.0
薬品費材料費合計		72,822,662	102.1	72,922,220	100.1

■ リハビリテーション技術科

◎主な取り組み、現状

- 1) 確実な実施入力
- 2) 新人教育プログラム：2年次の運用と3年次の構築
- 3) 連携の強化（訪問、病棟間）

◎実施件数（単位数）理学療法、作業療法、言語聴覚療法 別紙

◎依頼科別・疾患療法別件数 別紙

◎学会発表

平成27年6月5日～7日 東京国際フォーラム

第50回日本理学療法学術大会

演題名 「温泉による溺水症例で人工呼吸器離脱に難渋した一症例」

発表者 大橋 朗

平成27年10月3日～4日 金沢市文化ホール

第31回東海北陸理学療法学術大会

演題名 「当院における大腿骨近位骨折患者の在宅復帰に関する要因についての検討」

発表者 山田 純一

共同演者 山岸 幸平、榊原 実希、森本 和宏

平成28年3月13日 刈谷総合文化センター

第25回愛知県理学療法学術大会

演題名 「COPDの急性増悪によりCO2ナルコーシスを来たし、一日の身体活動量を調節することで離床を獲得できた症例」

発表者 佐野 貴洋

共同演者 山岸 幸平、森本 和宏、大橋 朗

平成28年3月13日 刈谷総合文化センター

第25回愛知県理学療法学術大会

演題名 「大腿骨近位部骨折における受傷前活動範囲と退院時歩行能力の関係」

発表者 山岸 幸平

共同演者 山田 純一、榊原 実希、森本 和宏

◎研究会等その他発表

平成27年11月26日 市立半田病院

愛知県理学療法士会知多ブロック症例検討会

演題名 「大腿骨転子部骨折で中電気筋力が側方安定性に関与しなかった症例」

発表者 服部香那子

平成28年3月3日 市立半田病院

愛知県理学療法士会知多ブロック症例検討会

演題名 「分離運動が可能であるのに歩行時振り出しができない視床出血症例」

発表者 松本大樹

平成27年度実績（実施単位数）

月	外来 診療 日数	理学療法 14～12			作業療法 8			言語聴覚療法 4				訪問 2	
		外来	入院	療法士 一人当 たり/ 日	外来	入院	療法士 一人当 たり/ 日	外来	入院	摂食機 能療法	療法士 一人当 たり/ 日	訪問件 数	療法士 一人当 たり/ 日
4	21	626	3,362	13.6	264	1,911	13.5	147	694	170	12.0	195	4.6
5	18	513	3,449	15.7	222	1,895	15.3	133	746	68	13.2	180	5.0
6	22	572	4,071	15.1	275	2,235	14.8	151	1,041	57	13.5	204	4.6
7	22	573	4,246	15.6	273	2,276	15.0	165	916	105	13.5	205	4.7
8	21	605	3,822	15.1	266	2,195	15.2	177	757	169	11.1	185	2.9
9	19	523	3,664	15.7	222	2,078	15.7	141	781	144	14.0	162	2.8
10	21	559	4,141	16.0	270	2,281	15.8	136	694	198	12.2	187	4.5
11	18	563	3,662	17.4	249	1,936	15.8	146	616	174	13.0	163	4.5
12	20	569	3,642	16.2	278	1,902	14.2	147	726	146	12.7	148	3.7
1	19	531	3,315	15.6	257	2,054	15.8	126	682	126	12.3	153	4.0
2	20	570	3,323	16.2	296	2,115	15.7	137	777	159	13.4	155	3.9
3	22	589	3,519	15.6	284	2,326	15.4	177	852	128	13.1	179	4.1
総数	243	6,793	44,216	15.2	3,156	25,204	15.2	1,783	9,282	1,644	13.1	2,116	4.35
		51,009			28,360			12,709					
対前年比		1.17			1.27			1.32				2.05	
退院前訪問 リハ指導		151 (+14)			123 (+37)								
地域協力事業		30 (+3)			26 (+5)			8 (+8)					

*1 外来診療日数は、土曜日は入院患者のみ訓練を行っているため、病院の外来診療日数より少ない。
平成27年度の外来診療日数は、平成26年度より1日少ない

*2 療法士一日当たり一人当たりの実施単位数は、年毎の比較のため職員の特休・有休は考慮せず、
単純に外来診療日数で除した数で表す。（（外来＋入院）÷外来診療日数）

*3 地域協力事業とは、地域介護予防活動支援事業やシルバーヘルス事業等の介護予防事業、障害児
の小学校や保育園での生活・学習・就学支援、高校野球メディカルサポートである。

*4 実施単位数に影響するその他の因子は、出張、カンファレンス、時間内会議などであるが、それ
らは加味していない。

*5 理学療法士1名が11月13日に退職

*6 理学療法士1名が2月1日より産休

*7 平成27年度の増員は理学療法士3名、作業療法士1名、言語聴覚士2名

◆増員による効果

理学療法士 2,414 単位/1人/年

作業療法士 6,078 単位/1人/年

言語聴覚士 3,105 単位/1人/年

*平成26年1月産休よりの復職者があり対前年比較に影響

依頼科別実施単位数

種目	整形外科		脳神経外科		内科		小児科		その他		介護
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	
運動器	9,396	20,228	18	527	208	5,195	22	0	32	456	144
	97.1%	76.6%	0.2%	2.0%	2.1%	19.7%	0.0%	0.0%	0.3%	1.7%	
呼吸器	0	0	0	41	0	2,899	0	6	0	57	5
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	96.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	
脳血管	361	439	2,575	20,038	337	659	1,030	0	146	22	23
	8.1%	2.1%	57.9%	94.7%	7.6%	3.1%	23.2%	0.0%	3.3%	0.1%	
脳血管 (廃用)		90		65		2,412		0		298	0
	0.0%	3.1%	0.0%	2.3%	0.0%	84.2%	0.0%	0.0%	0.0%	10.4%	
がん	0	0	0	0	0	70	0	0	0	417	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	
介護											2,545
	9,757	20,757	2,593	20,671	545	11,235	1,052	0	178	1,250	2,717
実施単位数 (対前年)	878	1,604	385	4,895	159	514	156	0	-105	-1,404	-1
	69.1%	36.7%	18.4%	36.5%	3.9%	19.8%	7.4%	0.0%	1.3%	2.2%	4.8%
割合 (対前年)	14.8	5.1	-8.8	-6.9	0.2	-2.4	5.6	0.0	-3.9	-1.1	

※上段：件数、下段：割合

※脳血管のその他：耳鼻科

※脳血管（廃用）のその他：外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科

◎主な取り組み

- 1) 医療機器の保守・点検・管理を計画的に実施し、医療安全に貢献する。
(医療機器定期点検の年間スケジュールを作成し、保守・点検・管理を実施する)
- 2) 医療機器の取り扱い方法、トラブルの対応方法など安全使用に繋がる勉強会を定期的に開催し医療安全の向上を図る。
(医療機器：人工呼吸器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ等の安全使用に関係する勉強会を計画実施する)
- 3) 医療機器・医療材料の適正な管理により、コスト削減を図る。
(臨床工学技術科で管理している医療機器や医療材料の定数見直しを行う)
(医療材料の安全性や使いやすさ等、検討し低価格の医療材料への変更を提案する)
- 4) 医師・看護師・他職種との連携を図りながら臨床支援業務を実施し医療サービスを提供する。
- 5) 内視鏡手術・検査への業務参加。(医療機器の正常動作確認・立ち会い業務)
(内視鏡関連業務として、内視鏡システムの保守・点検・管理を実施する)
(内視鏡を使用する手術や検査時、手術開始時または定期的に医療機器の接続や動作点検を行う)
- 6) 確実に効率的な医療機器の管理方法を検討する。
- 7) エンドトキシン吸着、顆粒球吸着療法、持続緩徐式血液濾過透析、腹水濾過濃縮再静注療法、血漿交換、維持透析などの血液浄化療法を業務調整等行いながら実施する。
- 8) 維持透析患者受入れに伴う血液透析を実施する。
- 9) 循環器関連業務(心臓カテーテル検査・ペースメーカー植込み等)、人工呼吸器関連業務を実施する。
- 10) 医療機器に関する医療安全情報の収集と発信を行う。

【学会・院外講習会・研修会】

1. 愛知県厚生連臨床工学技士会 第8回通常総会・研修会【参加・発表】
平成27年5月16日 参加：杉浦正生、大倉嗣也、押谷亮平
2. 第25回日本臨床工学会【参加】
平成27年5月23・24日 参加：押谷亮平
3. 人工呼吸器技術講習会（ニューポート e360）【参加】
平成27年6月20日 参加：大倉嗣也
4. 呼吸療法セミナーⅠ【参加】
平成27年7月4日 参加：大倉嗣也
5. 東海 CHDF 検討会【参加】
平成27年8月22日 参加：杉浦正生、押谷亮平
6. ハマサーボドレイン メンテナンストレーニング【参加】
平成27年9月8日 参加：大倉嗣也
7. 知多半島循環器セミナー【参加】
平成27年10月8日 参加：押谷亮平
8. いちのみやNPPV研究会【参加】
平成27年10月24日 参加：杉浦正生
9. ハマサーボドレイン メンテナンストレーニング【参加】
平成27年11月12日 参加：押谷亮平
10. 基礎から学ぼう呼吸管理 日本光電【参加】
平成28年2月27日 参加：押谷亮平
11. 電波利用安全について
平成28年3月10日 参加：杉浦正生

【院内研修会】

1. モニターの取り扱い勉強会【主催】
平成 27 年 4 月 27 日 主催：臨床工学技術科
2. 新人看護師研修 輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会【講師】
平成 27 年 5 月 13 日 講師：杉浦正生、大倉嗣也
3. 新人看護師研修 救急処置技術勉強会【講師】
平成 27 年 5 月 14 日 講師：大倉嗣也、押谷亮平
4. 新人看護師研修 物品管理勉強会【講師】
平成 27 年 5 月 15 日 講師：大倉嗣也
5. 閉鎖式保育器勉強会【主催】
平成 27 年 5 月 26 日 主催：臨床工学技術科
6. 新人看護師研修 人工呼吸器勉強会【講師】
平成 27 年 6 月 18 日 講師：大倉嗣也
7. 除細動器勉強会【主催】
平成 27 年 6 月 26 日 主催：臨床工学技術科
8. 人工呼吸器（e360）勉強会【主催】
平成 27 年 6 月 29 日 主催：臨床抗悪技術科
9. 人工呼吸器（e360）勉強会【主催】
平成 27 年 7 月 9 日 主催：臨床工学技術科
10. NIPPV 勉強会【参加】
平成 27 年 7 月 10 日 参加：大倉嗣也
11. AED 勉強会【講師】
平成 27 年 7 月 17 日 講師：大倉嗣也、押谷亮平
12. 輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会【主催】
平成 27 年 7 月 28 日 主催：臨床工学技術科

13. 医療安全全体研修会【講師・参加】

平成 27 年 8 月 20・24 日 講師：杉浦正生、押谷亮平 参加：大倉嗣也

14. 心電図・ペースメーカー勉強会【講師】

平成 27 年 8 月 18 日 講師：大倉嗣也

15. 除細動器勉強会【主催】

平成 27 年 8 月 31 日 主催：臨床工学技術科

16. ネーザルハイフロー勉強会【参加】

平成 27 年 9 月 4 日 参加：押谷亮平

17. パルスオキシメーター勉強会【主催】

平成 27 年 9 月 28 日 主催：臨床工学技術科

18. InBody 高精度体成分分析装置【参加】

平成 27 年 10 月 11 日 参加：杉浦正生、押谷亮平

19. NIPPV 勉強会【主催】

平成 27 年 11 月 9 日 主催：臨床工学技術科

20. 人工呼吸器（ニューポート e360）勉強会【主催】

平成 27 年 11 月 25 日 主催：臨床工学技術科

21. モニターの取り扱い勉強会【主催】

平成 27 年 12 月 16 日 主催：臨床工学技術科

22. IABP（補助循環装置）勉強会【主催】

平成 27 年 12 月 17 日 主催：臨床工学技術科

23. 医療安全全体研修会【講師】

平成 28 年 1 月 21 日 講師：押谷亮平

24. 閉鎖式保育器勉強会【主催】

平成 28 年 2 月 19 日 主催：臨床工学技術科

25. 業務改善活動報告会【参加】

平成 28 年 2 月 20 日 参加：杉浦正生、

26. 除細動器勉強会【主催・講師】

平成 28 年 3 月 16 日 主催：臨床工学技術科 講師：押谷亮平

27. モニター勉強会【講師】

平成 28 年 3 月 29 日 講師：杉浦正生

【血液浄化療法関連業務】

- ・GCAP（顆粒球吸着療法）：5 回
- ・LCAP（白血球除去療法）：1 回
- ・PMX-DHP（エンドトキシン吸着）：4 回
- ・CART（腹水濾過濃縮再静注療法）：16 回
- ・CHDF（緩徐式血液濾過透析）：11 回
- ・HD（血液透析）：11 回

【ペースメーカ関連業務】

- ・ペースメーカチェック：1 5 3 回

【資格取得】

- ・人工呼吸器（ニューポート e360）メンテナンス資格取得（大倉嗣也）
- ・低圧持続吸引器（ハマサーボドレイン）メンテナンス資格取得（大倉嗣也・押谷亮平）

■ 栄 養 科

◎主な取り組み

- ・栄養食事指導件数増加への取り組み

電子カルテから特別食の対象患者を抽出し、入院栄養食事指導の実施につなげた。

- ・特別食加算増加への取り組み

治療食のミキサー形態「Hミキサー食」を新設し6月より提供を開始した。

- ・摂食嚥下機能に対応したメニュー提案

調理師が病棟パントリーに出向き、患者の喫食状況を確認し食べやすい料理の提供に努めるとともに、摂食・嚥下障害委員会に参加し新しいメニュー提案を行った。

- ・インシデント・アクシデント減少への啓蒙

①アクシデント再発防止のためのグループディスカッション(KYT) ②アクシデントの要因分析を行うためのワークショップ(RCA演習)等の方法から、アクシデント事例を検討し再発防止に努めた。

- ・地域住民への保健活動

健康保持・増進を目的に、地域住民対象の調理実習を定期的に開催するとともに、ミニレクチャーの内容をまとめた資料を作成し説明を行った。

◎実績

給食数（患者食・賄食）

患者食

食 種	平成 26 年度		平成 27 年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
常 食	36,610	19.1	35,566	19.0
軟 食	62,872	32.7	49,871	26.6
流 動 食	1,080	0.6	1,427	0.8
特別食 A	50,314	26.2	66,303	35.4
特別食 B	41,099	21.4	34,413	18.2
合 計	191,975	100.0	187,580	100.0

賄 食

食 種	平成 26 年度		平成 27 年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
職 員 食	57,209	99.5	54,460	99.4
付 添 食	261	0.5	348	0.6
合 計	57,470	100.0	54,808	100.0

◆栄養指導及び相談件数

	栄養指導及び相談件数	食事指導料加算件数
外 来 栄 養 食 事 指 導	1,010	971
入 院 栄 養 食 事 指 導	483	488
集 団 栄 養 食 事 指 導	3	3
糖 尿 病 透 析 予 防 指 導	28	59
そ の 他 の 栄 養 相 談	41	
小 児 科 健 診 相 談	30	
保 健 指 導	91	
生 活 改 善 調 理 実 習	196	

◆その他の加算延べ件数

栄養マネジメント加算（件）	869
---------------	-----

■ 薬 剤 部

主な取り組み

- 1) 医薬品、医療材料、臨床試薬等について、更に購入の効率化を図る。
- 2) D P C病院として効率化されたC Pの作成支援を行う。
- 3) 多くの学会に参加し最新の情報を収集するとともに、各種認定取得など資質向上に務める。
- 4) 診療協同部との更なる連携強化を図る。
- 5) Q I の公開に伴い、抗生剤使用状況や治療成績公開に取り組む。
- 6) 病棟業務実施加算の継続（全病棟）と薬剤師の常駐に努める。
- 7) 認知症、骨粗鬆症について積極的に関与し、診療支援を行う。
- 8) 病病連携、病診連携、薬薬連携、在宅薬剤指導など地域連携業務の取り組みを充実させる。
- 9) 離島医療支援と「おくすり講座」を継続する。
- 10) 日本文化連「治験ネットワーク」からの新たな治験の案件取得に取り組む。
- 11) 在宅薬剤管理指導件数の増加を目指す。
- 12) 外来における服薬指導を充実させる。

【業績目録】

◎学会発表

演題名・発表者名・共同演者名・学会名・日時

【発表】

平成25年11月12日～11月13日 つくば国際会議場

第63回 日本農村医学会学術総会

知多半島において病院薬剤師が実施した地域連携

～当院における薬薬連携、在宅患者訪問薬剤管理指導の取り組みについて～

三浦 毅

【発表】

平成26年9月27日～9月28日 名古屋国際会議場

第24回 日本医療薬学会年会

1. 甘草製剤による偽アルドステロン症と当院における現状報告

吉澤 亜紗美

2. 当院における注射用抗菌薬使用量と緑膿菌の感性率の評価報告

久田 瑛吉

3. 病院薬剤師（スポーツファーマシスト）におけるドーピング防止活動の一例

小出 賢吾

4. 酸化マグネシウム製剤による高マグネシウム血症と当院における現状報告

末吉 賢吾

5. 白内障手術を受ける患者を対象とした当院における術前集団説明の取り組み

颯田 真子

◎研究会等その他発表

演題名・発表者名・共同演者名・研究会名、その他名称・日時

【発表】

平成26年5月10日 足助病院

第21回 愛知NST研究会 キャッスルプラザホテル

膵液外分泌に対する経腸栄養の影響

高松真衣

平成26年9月20日 足助病院

平成26年度 第2回相互啓発研修会

治験業務における薬剤師の関わり

高松真衣

投薬状況の推移

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
外来処方せん枚数	98361	99,851	100,217	81,552	91,028	81,306	72,758	70,767	73,227	70,683	66,210
調剤数	241822	243,145	244,486	198,887	217,380	192,906	177,516	171,692	159,619	163,584	149,047
調剤延数	7279995	6,997,358	6,770,070	5,254,885	5,526,954	4,967,381	4,446,303	4,060,841	3,383,661	3,217,715	2,635,898

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
入院処方せん枚数	16983	18,439	18,841	16,112	19,733	22,292	20,427	22,617	23,765	23,585	21,486
調剤数	38390	39,200	42,283	36,674	42,296	48,330	44,216	48,350	50,487	49,818	47,796
調剤延数	322846	331,259	378,361	324,933	362,035	435,202	389,460	409,190	443,051	401,637	406,478

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
院外処方せん枚数	32594	36,503	39,061	34,589	46,472	50,395	53,684	56,257	56,932	59,985	67,031
分業率	24.89%	27.10%	28.05%	29.78%	34.20%	39.0%	42.5%	46.0%	43.7%	45.9%	50.3%

付加価値業務

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
薬剤情報提供(外来患者)	74896	74,401	73,522	71,629	64,620	56,695	50,010	48,660	50,660	48,254	43,786
薬剤管理指導(入院患者)	4544	3,511	2,997	3,732	3,801	4,354	4,083	2,998	3,811	3,437	3,261
無菌製剤処理	1393	1,407	1,798	3,053	4,290	4,351	2,996	3,372	3,955	5,018	4,451

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
注射セット(定期・臨時)	18,322	-	29,040	63,131	54,299	60,824	17,438	15,980	15,871	16,496	16,265
化学療法注射せん	1,343	-	1,371	1,280	1,465	1,248	931	947	1,140	1,419	1,407

診療材料消費・構成比率

診療材料消費・構成比率

年度比較	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度	平成16年度	平成15年度
衛生材料	4.0	4.8	5.4	4.9	3.2	3.7
フィルム感光紙	8.8	9.5	9.1	9.7	9.3	9.6
循環器用、脳外科用	29.1	17.1	18.3	17.7	21.8	17.3
注射器、注射針	4.3	4.9	4.2	4.0	3.2	3.7
ガラス、陶器製品	0.7	0.6	0.7	0.9	0.8	0.9
ビニール・チューブ・カテーテル類	17.6	24.0	21.1	17.1	17	15.9
整形治療材料	16.2	17.1	19.2	23.8	22.5	26.6
縫合針、縫合糸	3.9	4.6	5.0	4.7	5.0	3.7
酸素・窒素ガス類	7.5	9.0	9.3	8.5	8.4	7.9
眼内レンズ	2.7	2.8	1.9	2.6	3.5	3.8
その他	5.4	5.5	5.8	6.0	5.3	6.9
合計	100	100.0	100	100	100	100 %

消費金額	265,511,259	229,533,945	240,533,859	228,726,117	240,239,829	190,692,800 円
------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	---------------

平成21年度より構成分類を変更	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
衛生材料	8.9	9.6	10.8	9.1	7.8	6.9	6.4
綿花製品	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2
リント・ガーゼ包帯関係	0.9	1.0	1.1	0.9	1.0	0.9	1.0
絆創膏関係・褥瘡関係	0.8	0.8	0.9	0.8	1.1	0.2	0.4
ドレープ関係	1.1	1.1	1.2	1.1	1.1	1.1	0.8
ギプス材料関係	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4
手術キット製品	0.8	0.8	0.9	0.4	0.6	0.5	0.5
絆創膏関係・褥瘡関係(償還有)	0.6	0.6	0.6	0.8	0.6	0.8	0.4
その他・止血用	4.1	4.8	5.4	4.6	3.2	2.1	2.4
その他の診療科関連	19.5	19.9	18.3	12.6	12.9	12.2	12.6
眼内レンズ	6.2	6.6	7.8	3.3	4.5	4.4	3.0
内視鏡関連	8.0	8.9	7.2	5.1	4.5	3.0	2.3
フィルム・感光紙	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1
組織代用布関連	2.2	2.7	2.4	1.9	2.1	3.0	1.7
人工心肺関連	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器・泌尿器・気管ステント	3.1	1.7	0.8	2.2	1.7	1.6	2.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
循環器用・脳外科用	8.5	13.3	13.2	18.8	17.9	18.0	18.3
イントロデューサー	0.2	0.2	0.3	0.5	0.5	0.6	0.6
造影・超音波・診断用カテーテル	0.6	0.8	0.6	1.4	1.7	1.7	1.6
治療用カテーテル	0.4	0.6	0.7	1.4	1.4	1.1	0.6
PTCAカテーテル	0.1	0.1	0.2	0.0	0.1	0.5	0.6
ペースメーカー・ICD(部品含む)	2.6	2.1	5.0	3.8	3.2	4.2	3.1
ガイドワイヤー(消化器含む)	3.2	5.4	3.9	7.9	6.6	5.3	5.5
PTCAガイディングカテーテル	0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.5	0.5
血管内ステント	0.5	0.9	1.1	2.2	2.8	3.0	4.8
その他	0.8	1.0	1.2	1.3	1.4	1.0	1.1
注射器・注射針	3.2	3.5	3.8	1.0	3.2	3.2	3.3
デスポ注射器	0.7	0.9	1.2	0.6	1.1	1.3	1.3
デスポ注射針	0.6	0.7	0.5	0.9	0.7	0.6	0.6
留置針関係	0.9	0.8	0.9	0.2	0.9	0.8	0.8
生検用関係	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.1	0.1
真空採血管関係	0.7	0.7	0.7	0.2	0.2	0.2	0.3
その他	0.3	0.4	0.3	4.1	0.2	0.2	0.1
透析・血液浄化	1.2	1.0	2.2	3.4	3.9	3.3	3.1
ダイアライザー・フィルター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
透析用回路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
血液浄化関連	1.2	0.9	2.2	4.0	3.8	3.2	3.1
CAPD関連	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
透析用留置針	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0
ビニール・チューブ・カテーテル類	16.4	16.8	17.4	17.5	17.9	16.9	15.7
人工血管	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2
人工弁	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手袋	2.1	2.1	2.4	1.9	2.0	0.7	1.7
ビニール・チューブ類(償還有)	5.1	5.6	5.0	6.0	6.4	6.8	6.6
ビニール・チューブ類	2.4	2.7	2.9	3.0	3.3	2.7	2.1
バルンカテーテル(泌尿器用)	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2
ポリ・固形製品・パック類	1.6	1.8	2.1	2.5	2.3	2.1	1.7
その他	3.7	3.3	3.7	2.8	2.7	2.3	2.1
整形外科治療材料	21.7	16.7	16.3	15.8	16.8	17.3	21.2
骨ネジ	1.9	1.8	1.8	1.7	0.9	1.8	1.9
固定用具	0.9	0.2	0.0	0.2	0.1	0.8	0.1
プレート	2.0	1.7	1.3	0.7	0.6	0.9	1.7
髄内釘関連	4.2	4.3	3.6	3.2	5.1	3.6	4.7
鋼線・ワイヤー類	0.2	0.1	0.0	0.3	0.1	0.1	0.0
人工骨頭・関節(部品含む)	10.9	7.4	8.7	9.2	9.3	9.2	10.9
脊椎関連	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	1.2
人工骨	0.2	0.7	0.6	0.3	0.2	0.6	0.5
その他	1.5	0.5	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
縫合針・縫合糸	3.6	4.1	4.3	3.8	4.0	4.5	3.3
縫合針・糸	1.9	2.2	2.3	1.9	2.3	2.3	1.5
自動吻合縫合器	1.6	1.7	1.9	1.7	1.7	2.0	1.6
その他	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2
その他	17.2	17.3	13.8	15.1	15.7	17.0	16.0
酸素・窒素ガス類	2.6	2.9	3.1	3.9	3.0	5.0	6.9
切開関連	2.2	2.1	1.7	1.3	1.3	1.5	1.1
記録紙	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4
紙製品	0.5	0.6	0.9	0.3	0.2	0.2	0.2
投薬材料	1.9	1.9	1.4	1.2	1.3	1.2	1.6
歯科材料	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
検査関連・硝子・陶器製品	0.7	0.8	0.7	1.1	1.7	1.6	1.5
その他	8.8	8.6	5.7	6.8	6.3	7.7	4.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

消費金額合計 244,330,491 250,038,723 240,934,885 283,277,300 289,664,104 286,422,438 261,343,616

主要薬品薬効別構成比率

	平成27年度	平成26年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
神経系および感覚器官用医薬品	10.6	11.0	10.7	10.7	10.1	9.5	9.3	9.2	9.3	9.2	9.1
中枢神経系用薬	6.4	6.4	6.6	6.9	6.6	5.9	5.8	5.7	5.5	5.8	6.1
末梢神経系用薬	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
感覚器官用薬	3.8	4.2	3.8	3.4	3.1	3.2	3.1	3.1	3.4	3.0	2.6
個々の器官系医薬品	31.7	34.1	35.1	32.5	20.2	20.4	21.8	30.5	29.0	28.2	27.4
循環器官用薬	11.7	12.6	13.2	12.7	12.5	12.7	13.9	12.6	12.3	11.4	10.1
呼吸器官用薬	1.4	1.3	1.5	1.4	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	1.7	2.0
消化器官用薬	6.6	7.3	7.5	6.7	6.2	6.2	6.5	5.6	5.5	5.1	5.3
ホルモン剤	5.2	6.1	6.0	5.3	4.9	5.2	6.0	5.7	4.9	5.6	5.9
泌尿生殖器および肛門用薬	3.1	2.9	2.9	2.6	2.4	2.3	2.5	2.1	1.9	1.7	1.5
外皮用薬	3.7	3.8	4.0	3.8	3.5	3.3	3.2	2.9	2.8	2.7	2.6
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
代謝性医薬品	23.2	23.6	24.8	24.0	23.9	22.4	20.5	20.7	20.8	21.2	23.8
ビタミン剤	1.6	1.6	1.9	1.8	1.6	1.7	1.9	1.8	1.9	1.9	1.8
滋養強壮変質剤	1.4	1.7	2.1	2.3	2.4	2.7	2.3	2.6	2.9	3.2	3.5
血液・体液用薬	8.4	8.7	8.9	8.4	9.0	7.8	7.3	7.0	5.8	5.3	5.3
人工透析用薬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他代謝性医薬品	11.8	11.6	11.9	11.5	10.9	10.2	9.0	9.3	10.2	10.8	13.2
組織細胞機能用医薬品	14.1	13.6	11.9	12.4	12.6	12.8	13.7	15.0	15.3	14.9	13.1
その他の細胞賦活用薬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
腫瘍用薬	11.7	10.9	8.8	9.4	9.7	9.7	10.3	11.3	12.0	11.7	10.5
アレルギー用薬	2.4	2.7	3.1	3.0	2.9	3.1	3.4	3.7	3.3	3.2	2.6
生薬および漢方処方に基づく医薬品	2.0	2.0	0.0	1.8	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5
生薬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
漢方製剤	2.0	2.0	2.1	1.8	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病原生物に対する医薬品	12.3	7.6	8.6	9.6	11.3	12.8	11.4	13.5	14.2	11.7	15.6
抗生物質製剤	2.1	2.5	3.9	4.6	5.0	5.6	5.6	5.9	6.4	8.0	8.4
化学療法剤	8.8	3.2	2.4	2.6	2.5	2.8	3.2	3.2	3.1	3.3	2.3
生物学的製剤	1.4	1.9	2.3	2.4	3.8	4.4	2.6	4.4	4.7	4.6	4.9
治療を目的としない医薬品	-0.6	1.0	-1.2	2.2	2.8	2.9	3.6	4.1	4.3	4.3	4.5
調剤用薬	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1
診断用薬	1.3	1.3	0.6	1.9	2.5	2.6	3.2	3.7	3.9	3.8	4.0
その他	-1.9	-0.4	-1.9	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4
麻薬	0.6	0.9	0.9	0.7	0.6	0.9	0.7	0.6	0.8	0.6	0.8
アルカロイド系麻薬	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.4	0.2	0.4
非アルカロイド系麻薬	0.4	0.6	0.6	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他(試薬等)	6.1	6.2	6.2	6.3	6.6	6.5	6.6	5.5	5.3	4.7	5.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

年度別消費実績比較

単位:千円

	内服薬	注射薬	外用薬	計
平成12年度	279,144	466,009	60,545	805,698
平成13年度	262,673	415,779	46,964	725,416
平成14年度	250,696	372,594	51,841	675,131
平成15年度	250,042	405,423	51,057	706,522
平成16年度	289,545	419,953	66,728	776,226
平成17年度	336,839	381,626	72,236	790,701
平成18年度	387,854	381,613	79,548	849,015
平成19年度	427,287	363,614	81,551	872,452
平成20年度	463,185	373,633	84,766	921,584
平成21年度	504,410	338,688	90,589	933,687
平成22年度	614,802	479,334	115,090	1,209,226
平成23年度	601,247	407,363	106,579	1,115,189
平成24年度	678,265	373,854	118,918	1,171,037
平成25年度	723,630	318,384	128,436	1,170,450
平成26年度	736,997	308,890	129,901	1,175,788
平成27年度	783,519	263,429	125,458	1,172,406

■ 看護部

平成27年度 学会・研究会発表

◎ナースिंगスキル日本版 活用セミナー

平成27年10月30日 名古屋井門名古屋ビル

「ナースिंगスキル導入と活用の実際」 近藤 貴代

「ノート機能活用の実際」 榊原香代子

◎愛知県厚生連 看護研究発表会

平成27年11月29日 名古屋国際会議場 白鳥ホール

「車椅子Y字ベルト廃止に向けた支援」

～行動観察による代替策の実施より～ 晝川 詠子

◎固定チームナースング研究会 第15回中部地方会

平成27年11月23日 ウィンクあいち

「急性期における退院支援」

～カンファレンスの充実化を目指して～ 榊原 沙世子

【平成27年度 新人看護師研修】

1. 新採用者・ビギナー研修

月	日	曜日	時間	場所	研修名	講師	研修参加者		
							看護部	他部門	
4	1	水	8:30～17:00	会議室	厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連			
	2	木	8:30～17:00	会議室	新採用者入職オリエンテーション	教育研修会			
	3	金	8:30～17:00	会議室	新採用者入職オリエンテーション				
	6	月	8:30～17:00	会議室	新採用者入職オリエンテーション				
	7	火	8:30～17:00	会議室1.2	看護部オリエンテーション		18	0	
	8	水	9:00～17:00	会議室1.2	感染予防技術①②③④⑤⑥		14	5	
	9	木	9:00～17:00	会議室1.2	安全確保の技術①②③		13	5	
	10	金	9:00～12:30	会議室1.2	●演習1 環境調整技術①②活動休息援助 技術①②⑤		16	0	
			13:30～17:00	感染病床	清潔・衣生活援助技術①⑤⑥				
	15	水	9:00～12:00	会議室1.2	症状・生体機能管理技術①⑧		13	0	
			13:00～17:00	会議室1.2	看護記録について		15	0	
	16	木	9:00～17:00	会議室1.2	食事援助技術①②③ 清潔・衣生活援助技術③		14	5	
	17	金	9:00～17:00	会議室1.2	排泄援助技術① 創傷管理技術①② 活動休息援助技術②		14	5	
	22	水	9:00～17:00	会議室1.2	与薬の技術⑧① 症状・生体機能管理技術⑥		15	0	
	23	木	9:00～12:30	会議室1.2	呼吸・循環を整える技術①②③ / PM部署		14	5	
	24	金	13:00～17:00	会議室1.2	●演習2 技術チェック・GW		16	0	
		7	木	9:00～17:00	会議室1.2	排泄援助技術②③④⑤	看護部	15	0
		8	金	9:00～17:00	会議室1.2	症状・生体機能管理技術②③④⑤⑦		15	0
		13	水	9:00～10:00	会議室1.2	電子カルテ情報収集		14	0
				10:00～17:00		与薬の技術②③④⑤		14	0
		14	木	13:00～17:00	会議室1.2	救命救急処置技術①②③④⑤⑦		14	0
		15	金	9:00～12:00	会議室1.2	看護過程の展開		14	0
				13:00～17:00	感染病床	物品管理・コスト管理 ●演習3 技術チェック・GW		16	0
	6	4	木	14:00～17:00	会議室1.2	苦痛の緩和・安全確保の技術①②③④ 死後のケア①	13	0	
18		木	14:00～17:00	会議室1.2	呼吸・循環を整える技術④⑤⑥	14	0		
7	2	木	14:00～17:00	会議室1.2	薬剤等の管理①② 与薬の技術⑥⑦	15	0		
	16	木	15:00～17:00	会議室1.2	与薬の技術⑨⑩	14	0		
8	13	木	15:00～17:00	会議室1.2	医療安全 KYT (フォローアップ研修)	14	0		
9	17	木	15:00～17:00	会議室1.2	退院支援について RUNRUN会	15	0		
10	15	木	14:00～17:00	会議室1.2	与薬の技術② 血管確保留置方法 (フォローアップ研修)	16	0		
11	19	木			※看護過程 事例実践記録提出	—	—		
2	18	木	15:00～17:00	新大看護師・ チューター・課 長	※事例を通して看護を振り返る(発表会) RUNRUN会	20	0		
合計							385	25	

2. レベルⅠ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	25	木	10:00～12:00	メンバーシップ	看護部	13
			13:00～15:00	コミュニケーション		13
			15:00～17:00	看護過程		13
8	6	木	13:00～15:00	医療安全		14
			15:00～17:00	看護倫理		15
9	24	木		※看護過程看護計画サマリー記録提出		—
1	8	金		※看護倫理レポート提出		—
	14	木	15:00～17:00	事例を通して看護倫理を考える(発表会)		20
						合計

3. レベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	11	木	10:00～12:00	リーダーシップ	看護部	13
			13:00～15:00	コミュニケーション		13
			15:00～17:00	コーチング		13
7	9	木	13:00～15:00	現任教育		13
			15:00～17:00	災害時の対応		13
9	30	水	15:00～17:00	看護研究	外部講師	15
合計						80

4. レベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	21	木	10:00～12:00	看護過程	看護部	10
			13:00～15:00	リーダーシップ		9
			15:00～17:00	コーチング		9
7	23	木	10:00～12:00	看護管理		10
			13:00～15:00	看護教育		9
			15:00～17:00	看護倫理		9
8	27	木	15:00～17:00	看護研究	外部講師	10
11	5	木	15:00～17:00	医療安全 事故防止取り組み事例報告会	看護部	15
合計						81

5. 他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	27	土	9:00～13:00	看護研究発表会	外部講師	80
7	23	木	17:30～18:30	クリパス学習会	小森医師	30
9	2	水	16:00～17:30	効果的な学習計画のために「GIO・SBOについて」(課長・係長	高橋医師	25
10	2	金	17:30～19:00	看護必要度学習会	看護部	36
10	29	木	17:30～19:00	固定チーム学習会		32
12	28	水	17:15～18:15	第1回WLB学習会(INDEX調査・休暇取得・時間外)		64
1	19	火	16:00～17:00	実施指導者・フォローアップ研修会		15
1	20	水	17:15～18:15	第2回WLB学習会(育児・介護制度)		30
1	25	月	17:30～19:00	看護必要度学習会		52
2	29	月	16:00～19:00	課長・係長成果報告会		25
3	1	火	16:00～17:00	次年度臨地実習指導者担当者研修	看護部	17
3	10	木	16:00～17:00	次年度実地指導者・チューター担当者研修		18
					合計	424

6. 看護補助者研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
9	3	木	16:00～17:15	入浴・陰洗・オムツ交換時のスキンケア	看護部	10
	17	木	16:00～17:15			5
10	8	木	16:00～17:15	廃棄物・洗浄・シーツ交換時の感染対策		7
	22	木	16:00～17:15			9
						合計

7. その他

●第3回 創傷コース開催 受講者15名(当院11名・他施設4名) ※別紙参照

平成 27 年度 看護研究発表

日時：平成 28 年 7 月 24 日（日） 時間：9：00～12：30

受付：8：30～場所：会議室

講師：日本福祉大学 看護学部看護学科 学部長 教授 山口桂子先生

【 口演 1 群 座長： 菅原 係長 9：00 ～ 9：50 】

時間	発表者	演 題	評価者
9：00 ～9：15	4 階病棟 吉田理紗	乳がん術後患者の考える患肢の安静の捉え方 ～生活への影響から今後の看護介入を検討する～	手術室 水野由美
9：15 ～9：30	外来 丹羽恵美	ゴセレリン酢酸塩投与時の腹部冷却法による疼痛緩和の効果	2 階病棟 沖田美香
9：30 ～9：45	2 階病棟 横山美穂	妊娠継続しながら勤務を続ける看護師の思いに関する調査 ～A 病院看護師に対するインタビューを通じて～	5 階病棟 吉野良美

【 口演 2 群 座長： 荻巣 昌子 9：50～ 10：40 】

時間	発表者	演 題	評価者
9：50 ～10：05	6 階病棟 吉田健一	糖尿病患者のセルフケア行動を促進するエンパワメントアプローチ ～各行動変容ステージにおける関わり～	外来 斉藤智子
10：05 ～10：20	3 階病棟 上野直美	看護師の内服管理支援の現状 ～回復期リハビリテーション病棟における内服管理方法の検討～	外来 柳沢みずず
10：20 ～10：35	3 階病棟 入山奈緒美	入院前の ADL が自立していた患者が、 入院中に転棟転落に至った要因分析	4 階病棟 中野みさと

【 休 憩 ： 10：40～10：50 】

【 講 評 ： 山口桂子先生 10：50～12：30 】

*発表者 1 名 15 分（看護研究発表時間：7 分、評価 3 分、質疑応答 5 分）

*当日参加者には軽食（パン）を配布します。

■ 医療安全管理部

◎主な取り組み、現状

- ・ 医療安全報告の分析（量的・質的）
- ・ 医療安全カンファレンスによるPDCAサイクル
- ・ リスクパトロールによる医療安全対策実施後の評価、潜在リスクの把握
- ・ 部署内研修（KYT、他）の実施

◎院内全体研修会の開催

前期：平成27年8月20日・8月24日 参加者269人

当院における事例発表、医薬品安全使用講習、医用機器安全使用講習

後期：平成28年1月21日・1月29日 参加者122人

当院における事例発表、医薬品安全使用講習、医用機器安全使用講習

◎医療事故対応マニュアル改正

医療事故調査制度の施行に伴う変更

◎医療安全報告書

医療安全報告書レベル変更

平成27年度 712件（その内、レベル3b以上の医療事故8件）

◎苦情、相談報告書

平成27年度 63件（その内、面談15件、電話対応5件、管理職含む
検討会2件）

◎重大事故、紛争

医療事故（医療事故調査制度）0件、医療事故判定会1件

証拠保全1件（管理職含む検討会2回）

■ 感染制御部

主な取り組み

1) 関係機関・地域の医療機関との連携の強化

● 知多半島医療圏感染対策連携会議へ参加

第1回 平成27年5月20日

第2回 平成27年8月19日

第3回 平成27年11月18日

第4回 平成28年2月17日

● 南知多病院と連携カンファレンスの実施

第1回：平成27年10月23日 場所：知多厚生病院
インフルエンザ、感染性腸炎に対する対策の確認
南知多病院職員が針刺しをした場合の受診について確認
第2回：平成27年12月4日 場所：南知多病院
南知多病院職員が針刺しをした場合の対応について

● 相互ラウンドの実施

平成27年11月4日 院内ラウンドのために常滑市民病院を訪問

平成27年11月13日 常滑市民病院ICTが院内ラウンドのために来院

● 保健所感染症審査会へ出席

毎月第2、4水曜日

2) 感染防止対策の情報提供

国内外の発生動向の情報提供

インフルエンザ・感染胃性腸炎の流行期に予防策を実施

3) 研修会開催

平成27年6月10日、29日 テーマ「院内ラウンドでの発見」

平成28年1月12日、2月3日 テーマ「インフルエンザと感染性胃腸炎について」

4) 患者や市民への啓発活動

平成27年12月15日 大地の丘で感染症研修会を実施

5) 感染管理機能の強化

・環境ラウンドの実施

・持続点滴由来血流感染、SSI、細菌検査部門、手指消毒各サーベランスの実施

6) 感染防止物品の見直し

・血ガスキットの変更

◎学会発表

平成27年11月21日～11月23日 パシフィコ横浜

第25回 日本医療薬学会年会

演題「院内ESBL産生*E. coli*の抗菌薬感受性率」

発表者 久田 瑛吉

■ 事務部（企画課）

1. 主な取り組み

1) 効率的な病床運営の検討

- ・病床運営管理委員会にて毎月の病棟別収入や利用率について報告し効率的な病床運営について検討した。
- ・回復期リハ入院料2維持のため関連部署に協力を依頼した。また、利用率アップについても分析を進め、方策を検討した。
- ・介護療養型機能強化型加算の取得に向け検討した。

2) 次年度事業計画の策定

- ・各部門と次年度の事業計画についてヒアリングを行い、情報収集に努めた。また診療科の収益については各診療科代表部長と上半期実績をもとにヒアリングを行い、次年度予算を作成した。

3) 産業まつりへの参加

- ・美浜町産業まつりはもとより、平成26年度よりJA健康推進活動の一環として参加した武豊町産業まつりへ継続し参加した。
- ・美浜町・武豊町産業まつりでは骨密度測定、血糖測定、健康相談などを催し、地域住民の健康への意識醸成を図った。

4) 認知症サポートチームの本稼働

- ・平成26年度に愛知県の「認知症対応力向上事業」に取り組み、今年度「認知症対応モデル病院」に認定された（愛知県のホームページにも公開されている）。
- ・平成27年10月に認知症サポートチーム検討会を平立ち上げ、認知症サポートチームによるラウンドを定期的の実施するとともに症例検討やラウンドの運用方法、マニュアルの整備に取り組んだ。

5) クリニカルインディケーターの充実

- ・平成27年6月に厚生労働省が推奨する7指標についてホームページにて公開した。
- ・7指標以外の病院独自指標の公開に向け、企画課・医事課・医療情報部と検討した。

6) 人間ドック機能評価受審への準備

- ・平成28年度中の人間ドック機能評価受審に向けて保健事業部と検討を開始した。
- ・多くの評価項目に対し役割分担を決め、現状把握と改善に向け協議した。

7) その他

- ・病院広報誌100号記念号の発刊（広報委員会）
病院広報誌「知ったより」が100号となったため記念特集や表紙のイメージチェンジについて検討し100号記念号を発刊した。100号記念号を含め年4回発刊した。

職員用広報誌の「ちっタイムズ」について新入職員を紹介する特別号を含め年3回発刊した。また、平成26年度年報を発刊した。

- 業務検討委員会

各グループの業務改善活動を報告する「業務改善報告会」の円滑な運営などについて検討した。

事務部の各課代表者より経費削減を目的としたプロジェクトチームを結成し用紙費の削減に取り組み、業務改善報告会にて報告した。

病院機能評価の更新（平成29年6月期限）に向け協議し、医療の質の維持と内部でのチェック体制の構築を前提に更新を延期することを決定した。

- 経営管理

月次ごとに収支分析を行い、企画・運営会議などを通じて職員へ経営状況について情報発信した。

■ 事務部（医事課）

主な取り組み

1) 査定・返戻件数減少への取り組み

- ・入院担当者全員と外来担当者の代表にて、全ての査定理由を洗い出し情報を共有し対策を提案する会議を設けた。お互い任せきりにならず協力し合うことで査定件数、返戻件数の減少に努めた。
- ・アクセスやべてらん君でのチェック方法を見直し、システムチェックを強化した。

2) 診療報酬改定への対応

- ・診療報酬改定説明会へ参加し情報収集を行った。そこから得た情報より当院に関連する新規算定項目を洗い出し、施設基準、算定方法などをまとめた。また他部署との調整を行い、当院に合った運用の構築を提案した。
- 算定漏れが無いように医事課内での勉強会や説明会を開催し、診療報酬改定に備えた。
また、全体への周知として全職員向けの診療報酬改定説明会を行った。

■ 業績目録

◎ 学会発表

【発表】

平成27年10月22日～23日 秋田県

第64回日本農村医学会学術総会

演題名 「効率的かつ地域の実情にあったクリニカルパスの構築」と「クリニカルパス
PDCA サイクルの実行」を目指すなかで事務員が関われること

発表者 白井 幸樹

■ 事務部（総務課）

主な取り組み

- 1) 当院の方向性並びに収支状況を踏まえて、各部署とのヒアリングを実施し、必要な人員を把握するとともに、要員計画への反映と同計画に基づく要員確保に努めた。
- 2) マイナンバー制度導入に向けて、特定個人情報の取り扱いについて検討し、適切な管理について職員周知を行った。
- 3) 職員における感染症リスク軽減に向けて、インフルエンザ並びにB型肝炎ワクチン接種を行うとともに、平成27年度については、感染症4種（麻しん・風しん・水痘・流行性耳下腺炎）に係るワクチン接種を、抗体を持たない全職員に対して実施した。
- 4) 患者満足度の向上を図るため外来及び入院患者アンケートを実施し、院内環境の改善に努めた。
- 5) 職員の接遇向上を目指し、接遇研修会を開催するとともに、新採用者等を対象とした各種オリエンテーションを実施するなど、職員教育の充実に努めた。
- 6) 保育所における預け入れ児の増加と夜間・休日保育の充実に努めるため、保育職員を確保するとともに、各種研修会等へ参加し、保育の質向上を図った。

■ 事務部（施設課）

1. 主な取り組み

1) 災害拠点病院災害連携訓練の開催

南知多町と連携し災害拠点病院として災害連携訓練を開催した。当院から距離がある南知多町保健センターに設置した救護所からの搬送訓練を実施した。また、全体の流れを把握するためにエマルゴトレインシステムを利用した机上訓練を開催した。

2) 超電導磁気共鳴診断装置の更新

超電導磁気共鳴診断装置の更新を実施し、画像が悪く読影診断に支障をきたしていたが更新したことでより鮮明な画像を提供できるようになり、診療機能の向上に努めた。

3) 災害発生時の体制整備

災害が発生した場合の被害レベル別の行動方針を定めるため、事業継続計画（BCP）の作成を行なった。

4) 費用削減に向けた取り組み

LED電球への交換を行ない、使用電力量の削減および契約電力の削減ができた。また、水処理薬剤の運用方法の見直しを行ない、費用削減に努めた。

■ 医療情報部

主な取り組み

- 1) 医療情報システムの安定稼働に努めた。
- 2) 医療情報システム障害時訓練を実施し、障害時対応能力の向上を図った。
- 3) トナーのリサイクル品使用による費用削減。
- 4) 医療情報システムの更新に向けたベンダーの選定。
- 5) 医療情報システム更新に向け、機能と費用のバランス検討。
- 7) 診療記録の質向上のため、点検項目見直しによる点検の強化。
- 8) 警察等からの依頼で検体を提供する場合の同意と金額の見直しを実施。

■ 業績目録

◎主な機能追加

項 目	機 能 詳 細	月
ケア項目追加	【確認】脳室ドレナージフィルター濡れ あり・なし 【観察→神経系】Brunnstrom Stage I II III IV V	4 月
記事タイトル追加	「看護ケア記録」を追加	7 月
権限追加	ケアワーカー、看護補助者を介護福祉士と同等の権限を追加	7 月
科コード追加	科コードに「介護士」を追加	7 月
帳票：項目追加	看護必要度患者分類別構成（一般小のみ）に、別帳票として プラス3階病棟、5階病棟（療養病床）を追加	8 月
記事タイトル追加	「胃瘻前嚥下評価記録」追加	1 2 月
職種追加	「日本福祉大学」を追加	1 月
情報室権限追加	実際には実施していない注射や処置を実施済にしまった場合に、削除・中止ができるよう権限を追加	3 月

◎学会発表

【発表】

平成27年10月22日～23日 秋田県

第64回日本農村医学会学術総会

演題名 ビックデータの活用 ～入院患者管理システムの開発～

発表者 山田 佳明

■ 保健事業部

主な取り組み

・健康管理活動

人間ドック	月～金・土（第1・3）
生活習慣病予防検診	月～金・土（第1・3）
特定健診	月～金・土（第1・3）
各種検診	月～金・土（第1・3）
乳がん・子宮がん 集団検診	6月～ 午前枠実施開始 8月～ 午前、午後枠開始2月まで

（内訳）

市町村	月・木
J A組合員	月
特定保健指導	月～金

・地域健康推進活動

産業医契約事業所 メンタルヘルス研修

日 程：平成 27年 7月14日、23日

参加人数： 223名/2日

外部講師 大同特殊鋼株式会社 総括産業医 星崎診療所所長 斉藤政彦 先生

J A共済健康管理集団保養活動派遣（7月～）

看護師又は保健師同行6回

平成27年7月28日、8月25日、9月29日、11月24日、

平成28年1月19日、3月1日

美浜町産業祭まつり出展（J Aあいち知多美浜事業部 支援事業）協力

美浜町フラワーフェスティバル、産業まつり 平成27年11月14日（土）、15（日）

- ・骨密度測定 1台 （306名/2日）
- ・血糖測定 （160名/1日）
- ・医師による健康相談（111名/2日）
- ・栄養士による生活習慣相談 （38名/1日）
- ・認知症チェック（リハビリ）（81名/2日）
- ・睡眠時無呼吸（SAS）DVD放映「いびきのサイン見逃していませんか」
- ・パネル展示、ミニレクチャー紹介

武豊町産業まつり（JAあいち知多武豊事業部 支援事業）

平成27年11月14日（土）、15日（日）

- ・骨密度測定（390名/2日）
- ・血糖測定（167名/1日）
- ・医師による健康相談 医師（52名/2日）
- ・薬剤師によるお薬相談 薬剤師（7名/1日）
- ・栄養士による生活習慣病相談（42名/1日）
- ・乳がん触診体験、パネル展示「乳がんについて」
- ・病院紹介 睡眠時無呼吸（SAS）DVD放映
「いびきのサイン見逃していませんか」
- ・パネル展示、ミニレクチャー紹介

※保健事業部の他、診療部門、薬剤部門、看護部門、診療協助部門、地域連携部門、事務部門 総勢 45名 参加

■業績目録

◎学会発表

演題名・発表者・共同演者名・学会名・日時

【発表】

平成27年7月30日～31日 千葉県 パセイフィコ横浜

第56回日本人間ドック学会学術大会

演題名 「人間ドック受診者の診察時の足病変－糖尿病内科外来受診者との比較検討－」

発表者 丹村敏則

◎研究会等その他発表

演題名・発表者・共同演者名・学会名・日時

【講演】

平成27年5月14日 愛知県半田市 クラシティ半田

医療病診連携談話会

演題名 「最新の糖尿病治療」

発表者 丹村敏則

【講演】

平成27年9月10日 愛知県 知多厚生病院

第62回知多郡医師会合同カンファランス

演題名 「最新の糖尿病診療－質の良い糖尿病管理の仕方」

演 者 丹村敏則

【講演】

平成27年12月9日 愛知県 半田市クラシィ半田

第3回知多半島地域連携研修会

演題名 「最新の糖尿病診療について」

演 者 丹村敏則

【講演】

平成28年1月14日 愛知県厚生連 渥美病院

田原市医師会生涯研修会

演題名 「糖尿病治療－薬物療法から療養指導まで」

演 者 丹村敏則

【講演】

平成28年2月10日 愛知県半田市 アイプラザ半田

知多薬剤師会勉強会

演題名 「最新の糖尿病診療について」

演 者 丹村敏則

【講演】

平成28年2月12日 愛知県岡崎市 岡崎市民病院

岡崎地域医療連携後援会

演題名 「役に立つ漢方薬の使用」

演 者 丹村敏則

【講演】

平成28年2月10日 愛知県 愛知県学校給食総合センター

愛知県栄養士会合同研修会

演題名 「栄養指導・栄養教育に必要な心理社会的なアプローチ技法について」

演 者 丹村敏則

■ 地域医療福祉連携部

【センター概要】

平成26年4月に地域医療部門（病診連携室・医療福祉相談室）と老人福祉事業部門（居宅介護支援事業所・南部知多訪問看護ステーション）が統合され、地域医療福祉連携部（地域連携課・介護管理課・医療福祉相談課・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション）となった。

主な取組み

1. 美浜町・南知多町・武豊町の開業医に、副院長をはじめとする医師や医療情報部と18件訪問し、連携強化に努めた。
2. 紹介患者の報告書を早期に返書することで開業医との連携強化を図った。
3. 院内の退院支援業務の効率化を目指し、MSWの介入方法の修正を図った（全件介入の中止）
4. 各課の業務マニュアル（回復期病棟転院マニュアル・介護保険センター業務マニュアル）を見直し、標準化した。
5. 関係職種とのカンファレンス・ケース検討を重ね、在宅療養へのシームレスな連携を図った。
6. 住民教育を目的に住民公開講座を2回開催した。

第6回 平成27年7月4日（土） 講師：村元雅之

テーマ：『筋肉を維持し、癌を予防する食生活』『近年の外科手術の進歩』

第7回 平成28年2月6日（土） 講師：冨本茂裕

テーマ：『心筋梗塞の予防・MRIで診断する心疾患』

7. ケアマネジャー向けの医療講座を2ヶ月に1回（第2月曜日）企画し開催した。
8. 美浜町の包括ケア会議や南知多町の地域ケア会議に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題や社会資源の提示をした。

◆地域連携課・介護管理課

◎職員配置

事務3名（うち1名兼務）、看護師1名（兼務）

◎主な業務内容

1. 紹介患者の診察・各種検査依頼の予約調整
2. 診療情報提供書・報告書の管理
3. 医療機関・事業所からの各種照会の管理

◎紹介実績（別資料）

◆医療福祉相談課

◎職員配置

ソーシャルワーカー6名

◎平成27年度 患者サポート体制相談窓口 相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27年度	8	10	9	12	12	8	7	11	3	6	2	0	88
26年度	1	4	0	4	3	1	5	10	1	13	7	1	50

◎相談援助件数（延べ件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	1,041	1,069	1,076	1,113	1,031	919	1,052	936	859	824	983	986	11,889
26年度	678	648	731	901	904	964	970	892	930	1,080	956	1,137	10,791

◎会義・出張等の件数

会議・出張など（延べ件数）	
研修会（院内・院外）	115
委員会	50
国土交通省短期入院事業に関する業務（出張・訪問面接）	1
院内リハビリカンファレンス	100
退院支援カンファレンス	281
総合相談に関するカンファレンス	33
療養病床入退所判定会	130
退院検討会（一般床）	310
地域連携に関する会議 （シームレスケア連携会 有床病床連携会医療・介護ネットワーク研究会）	16

◎実習生受入れ

平成27年6月 4日 見学実習 日本福祉大学 社会福祉学部3年生 11名
 平成28年3月 8日 見学実習 日本福祉大学 社会福祉学部3年生 1名
 平成28年3月 15日 見学実習 日本福祉大学 社会福祉学部3年生 1名
 平成28年3月 29日 見学実習 日本福祉大学 社会福祉学部3年生 1名

◆知多厚生病院介護保険センター（居宅介護支援事業所）

◎職員配置

介護支援専門員内訳：看護師 3 名(主任介護支援専門員 2 名)

社会福祉士 1 名（管理者および主任介護支援専門員）

◇ケアプラン作成件数（予防含む：予防は 1 名＝0.5 件で計算）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
27 年度	108	103	103.5	104	103.5	102.5	102.5	107	109.5	103.5	104.5	102.5	1,254
26 年度	98	99	103.5	103	101.5	110.5	111.5	115.5	113.5	107.5	105	103	1,271.5
対前年比%	110	104	100	101	102	92.8	91.9	92.6	96.5	96	100	99.3	98.6

◇一人当たり担当件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
26 年度	98	99	103.5	103	101.5	110.5	111.5	115.5	113.5	107.5	105	103	1,271.5
27 年度	108	103	103.5	104	103.5	102.5	102.5	107	109.5	103.5	104.5	102.5	1,254
対前年比%	110	104	100	101	102	92.8	91.9	92.6	96.5	96	100	99.3	98.6

◇訪問調査件数（美浜町委託事業）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
27 年度	4	4	5	5	4	3	2	1	3	4	3	1	39
26 年度	9	0	6	3	5	4	2	0	5	5	5	3	47

◆訪問看護ステーション

◎職員配置

常勤看護師 6 名(4 月～6 月：4 名 7 月～8 月と 1 月～2 月 5 名)、パート看護師 3 名

理学療法士 2 名、事務 1 名

◎訪問実績（別資料）

■業績目録

◎学会発表

平成 27 年 10 月 22 日

第 64 回日本農村医学会学術総会

演題名 『ケアマネジャー・施設相談員等を対象とした医療講座開催』

発表者 藤田牧子

病診連携紹介実績

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
美浜町	榊原医院	2		1	1							4
	ときしグリーン歯科	7										7
	新美医院	1					1			2		4
	(医) 浜田整形外科・内科クリニック	5		4	2	9	2	2		1	10	35
	前田医院	27		2		4	1					34
	(医) ふれあい会 美浜クリニック	91								1		92
	渡辺病院			3	1			2	1		4	11
南知多町	特別養護老人ホーム あい寿の丘	14		1								15
	アルファクリニック 歯科	1										1
	(医) 上床医院	6		3	1	1		1				12
	大岩医院<内海>	13			1	2		1	1			18
	(医) 大岩医院<豊浜>	40	1	10	13	19	5	3	1	2	2	96
	篠島診療所	12	1		1	5				1	1	21
	白井医院	32		3		10	3	2			3	53
	大地の丘	19										19
	夏目医院	2				3		1		1	3	10
	特別養護老人ホーム ひだまり	4										4
	みどりの風 南知多病院	34		12	11	4	13	3	5	2	2	86
武豊町	石川医院	7		2			2	1	1		1	14
	石川病院	2			1							3
	奥村医院			1								1
	介護老人保健施設 榊原	3			1	4	1					9
	(医) 榊原整形外科				1	1						2
	じこう医院	3		1		2	3	2		1	1	13
	耳鼻咽喉科武豊醫院	1									1	2
	杉石病院	1					2		2	1		6
	日油株式会社愛知事業所診療所	3										3
	なかしまキッズクリニック		2				1					3
	なしの木眼科									1		1
	よしかねクリニック	2		6								8
	内科・外科 渡辺医院	1					1				1	3
	わたなべ小児科						1					1

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
半田市	あいクリニック	1										1
	乙川さとうクリニック	1										1
	クリニック・パパ					1						1
	知多クリニック	1										1
	中野整形外科	1		3								4
	新美眼科医院									4		4
	半田市立半田病院	12		5	4	3		1				25
	藤田病院	1			1							2
	結生クリニック				1							1
常滑市	さかきばら整形外科クリニック				1							1
	さざんかの丘	2										2
	瀧田医院分院	3										3
	常滑市民病院	3		30								33
阿久比町	ちた整形外科クリニック				1							1
	メディコ阿久比	7										7
知多市	いぜき内科クリニック	1										1
	ナガイセントラル歯科	2										2
	知多市民病院					1						1
東海市	小嶋病院				1							1
大府市	共和病院			2		1						3
名古屋市	愛知県がんセンター中央病院			1								1
	大同病院	1										1
	名古屋記念病院	1										1
	名古屋市立大学病院	5			1	1			1		1	9
	名古屋市立東部医療センター					1						1
	名古屋市立緑市民病院			1								1
	名古屋大学医学部附属病院	1										1
その他県内	安城更生病院	1										1
	健康支援センターウェルポ	1		1					1			3
	近藤医院					1						1
	刈谷豊田総合病院			1								1
	トヨタ記念病院			1								1
	藤田保健衛生大学病院	2	1								1	4

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
県外	健和会病院	1										1
	(財) 天理よろづ相談所病院				1							1
	合計	381	5	94	45	73	36	19	13	17	31	714

各委員会活動

篠島診療所運営委員会	101
手術部運営委員会	102
放射線運営委員会	105
救急・診療委員会	106
健康管理支援センター運営委員会	107
臨床検査技術科運営委員会	109
栄養管理委員会	110
保育所運営委員会	111
生活改善支援センター運営委員会	112
母子支援センター運営委員会	114
地域医療福祉連携センター運営委員会	116
リハビリテーション科運営委員会	118
資材委員会	119
倫理委員会	122
治験審査委員会	123
購買委員会	124
物品管理委員会	125
医療安全対策委員会	126
安全衛生委員会	131
防災対策委員会	132
院内感染対策委員会	133
廃棄物管理委員会	135
輸血療法委員会	136

医療ガス安全管理委員会	140
広報委員会	141
教育研修委員会	143
図書管理委員会	144
臨床研修管理委員会	145
臨床研修委員会	146
患者サービス向上委員会	147
医療情報システム委員会	148
診療情報管理委員会	151
コンプライアンス委員会	154
在宅療養支援委員会	155
アグリス・ヘルスネット検討委員会	157
人事考課制度推進委員会	159
クリニカルパス委員会	160
N S T委員会	163
糖尿病教育委員会	167
肝臓病教育委員会	170
摂食・嚥下障害委員会	172
緩和ケア委員会	174
化学療法委員会	176
スキンケア委員会	177
医師業務軽減検討委員会	184
保険診療委員会	185
D P C コーディング部会	190
業務検討委員会	192
病床運営管理委員会	194

■ 篠島診療所運営委員会

1. 目的

篠島診療所の運営に関する事項について協議し、離島における病院附属診療所としての円滑な運営を図ることを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成27年7月30日	・委員会名簿について ・篠島診療所収支状況について ・篠島診療所の運営について
2	平成28年2月8日	・委員会名簿について ・篠島診療所収支状況について ・平成28年度へき地医療研修について ・平成28年4月以降の篠島診療所の体制について ・篠島診療所の運営について

3. 平成27年度の活動要約

篠島診療所の円滑な運営を目指し、収支状況や運営状況について確認した。

■ 手術部運営委員会

1. 目的

- 1) 手術患者の安全・安心な管理ができる
- 2) 手術部・滅菌センターの安全・安心な運営ができる

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月3日	・前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・手術室の虫対策について ・手術点数と麻酔科点数について ・手術室材料・各科の不動在庫について ・手術部運営委員会規程の確認 ・麻酔科診察日以降に麻酔科以来の手術が入った場合の対応 ・消毒薬の説明会について
2	平成27年5月1日	・前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・手術室の虫対策について ・リスク報告 ・手術部運営委員会規程の変更 ・手術の順番について ・3月の棚卸し結果報告
3	平成27年6月5日	・前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間 ・麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・手術室の虫対策について ・医療安全報告 ・手術機器の滅菌について ・定期手術スケジュールについて
4	平成27年7月3日	・前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・手術室の虫対策について ・医療安全報告 ・平成28年度固定資産取得計画について

回数	開催日	内容
5	平成 27 年 8 月 7 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 医療安全報告 ・ ヒビディール製造中止に伴う消毒薬の説明 ・ 医療安全全体研修会
6	平成 27 年 9 月 4 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 麻酔科術前診察用紙の変更について ・ 麻酔科医師確保について
7	平成 27 年 10 月 2 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 手術安全チェックリストについて
8	平成 27 年 11 月 6 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 医療安全報告 ・ 超緊急帝王切開の訓練 ・ 人員の減少により手術時間の遅れや救急対応を断る状況も発生している ・ 手術安全チェックリストについて
9	平成 27 年 12 月 4 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 医療安全報告 ・ 来月の委員会開催日時について ・ 手術安全チェックリストについて
10	平成 28 年 1 月 (文書開催)	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について

回数	開催日	内容
1 1	平成 28 年 2 月 5 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 医療安全報告 ・ 手術時間について確認 ・ 手術安全チェックリストについて
1 2	平成 28 年 3 月 6 日	・ 前月の医療機器購入品・手術件数・手術時間の報告 ・ 麻酔科診察・麻酔科医師予定の報告 ・ 手術室の虫対策について ・ 医療安全報告 ・ 手術時間について報告 ・ 手術安全チェックリストについて ・ 麻酔科管理の手術時間変更について ・ 委員の変更について

3. 平成 27 年度活動要約

安全な手術の提供をしていく為に

1. 麻酔科に関わること
2. 手術器械・材料の検討
3. 手術室の虫対策
4. 医療事故の共有

上記 4 点を行った。

■ 放射線運営委員会

1. 目的

- ① 病院長の諮問に答えて答申を行う。
- ② 病院長に対し放射線部門のあり方に対し提言を行う。
- ③ 放射線部門に関わる検査、診療及び、放射線施設・医療機器に関する各種事項を協議する事で、適正な運営を図る事を目的とする。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 6 月 18 日	・ MR I 装置更新の進捗状況 ・ ワークステーションの機種選定 ・ MR I 更新時の MR I を必要とする患者さんへの対応 ・ 平成 26 年度放射線技術科件数の報告 ・ 平成 27 年度固定資産取得申請の結果について ・ 平成 28 年度固定資産取得申請について
2	平成 27 年 9 月 17 日	・ ワークステーション設置場所について ・ インジェクター使用時の耐圧チューブへの変更について ・ CTC 用炭酸ガス送気装置設置報告 ・ MR I 更新の進捗状況ならびに、設置直後の運用について ・ CT・MR I の読影レポートについて

3. 平成 27 年度の活動要約

- (ア) ワークステーションの機種選定と設置場所の決定
- (イ) MR I 更新期間における、MR I を必要とする患者さんへの対応策の決定と関連部署への周知
- (ウ) MR I 設置直後の運用について
- (エ) インジェクターを使用した造影検査時のチューブを、全て耐圧チューブへ変更することを決定し職員へ周知
- (オ) 平成 28 年度取得希望する放射線関連の固定資産の決定
- (カ) CTC (CT-Colonography) 実施に向けた検討

■ 救急・診療委員会

1. 目的

- ①外来及び救急の適切な体制の確立とその運営に努める
- ②診療の質の向上を目指し、必要な教育・研修についてもその任を負う

2. 平成 27 年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 14 日	・救急車件数報告（断った件数：1 件） ・BLS 部会報告 ・救外でのエラストマー針使用について
2	平成 27 年 5 月 12 日	・救急車件数報告（断った件数：1 件） ・BLS 部会報告 ・血液ガス分析キットの変更について ・コールワン事例報告
3	平成 27 年 6 月 9 日	・救急車件数報告（断った件数：6 件） ・BLS 部会報告 ・事故の加害者・被害者の搬送について ・D-MAT 用エコーの管理について ・合同症例検討会（知多南部救急隊） 参加者：38 名
4	平成 27 年 7 月 14 日	・救急車件数報告（断った件数：1 件） ・BLS 部会報告 ・休日夜間の検査データを渡す手順について
5	平成 27 年 8 月 11 日	・救急車件数報告（断った件数：3 件） ・BLS 部会報告 ・診療のある土曜日の午後の救急対応について ・地域のイベントの予定の把握について
6	平成 27 年 9 月 8 日	・救急車件数報告（断った件数：7 件） ・BLS 部会報告 ・救急搬送用バックについて ・転院搬送時の同乗について確認
7	平成 27 年 10 月 13 日	・救急車件数報告（断った件数：6 件） ・BLS 部会報告 ・高エネルギー外傷事例報告 ・当直帯の受診者・救急車件数の増加に伴う当直体制の検討

8	平成 27 年 11 月 10 日	・救急車件数報告（断った件数：2 件） ・BLS 部会報告 ・小児の救急受け入れについて ・救急隊からのホットラインへの連絡について ・整形外科の救急対応について ・超緊急カイザー訓練 11/21(土)開催予定について
9	平成 27 年 12 月 8 日	・救急車件数報告（断った件数：6 件） ・BLS 部会報告 ・救急患者の受け入れについて
10	平成 28 年 1 月 12 日	・救急車件数報告（断った件数：2 件） ・BLS 部会報告 ・年末年始の救急状況報告 ・転院搬送の同乗について ・ノロウイルス検査について
11	平成 28 年 2 月 9 日	・救急車件数報告（断った件数：2 件） ・BLS 部会報告 ・Ai 同意書について ・北朝鮮による人工衛星の打ち上げ予告に関連する情報提供について
12	平成 28 年 3 月 8 日	・救急車件数報告（断った件数：5 件） ・BLS 部会報告 ・各病棟の救急カート内の薬品について ・来年度の救急診療委員会について（委員会名、規程の変更）

3. 平成 27 年度の活動要約

1) 救急受け入れ状況の確認

- ・救急車受け入れ件数：1726 件
- 救急車断り事例件数：50 件
- ・搬送率：97.2%

2) BLS 研修実施状況

- ・BLS 研修回数：6 回（新人研修を含む）
- 参加者数（見学者含む）：140 名
- ・BLS シミュレーション研修：16 回
- 参加者数：101 名

■ 健康管理支援センター運営委員会

1. 目的

地域における医療・保健・福祉との連携による健康管理活動を基に、地域住民の健康保持増進・疾病予防・疾病の早期発見を目的とし、啓蒙、指導、経年管理を通じ、永年的な健康管理を担う“健康管理支援センター”の構築・運営を目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年6月25日	・委員会規程変更（委員以外の参加）について ・人間ドック施設機能評価受審について 江南厚生病院見学報告 機能評価部会結成について ・南知多町脳ドック入札結果について ・保健活動集計に各種教室を掲載する
2	平成27年10月19日	・職員の人間ドック募集、乳がん検診について ・平成28年度健診単価 について ・平成28年度乳・子宮がん検診、胃がん検診について ・CT計測法による内臓脂肪測定オプション追加について ・大地の丘インフルエンザ価格について ・今後の健康管理支援センター運営会議開催回数について
3	平成28年1月29日	・今後の課題「高齢者のドック」について、委員長より説明 ・健康管理支援センター「基本方針」「健診受診者の権利」について ・ドック項目一部変更。胸部X P 2方向へ変更について ・子宮頸部細胞診検査の材料変更の検討について ・平成28年度農協健保コース変更について ・CT内臓脂肪計測オプション検査開始について ・平成28年度武豊町共済受け入れについて

3. 平成27年度の活動要約

例年と同様、次年度ドックの検査項目について検討した。又、人間ドック実施施設機能評価受審の承認。機能評価受審に向けて、検査項目の標準化、評価判定区分の統一化を図った。昨年、南知多町の脳ドックを受託したが、今年は入札されなかった。同時に、放射線科MRI更新があり8月21日から9月30日までの間、脳ドックの受け入れができず、脳ドックに関しては、前年比収入減となった。しかし、ドック価格を見直しドック、一部のオプション価格の値上げを行ったため全体の収益は3%の伸びとなった。

■ 臨床検査技術科運営委員会

1. 目的

臨床検査の適正な活用と質の向上を目的とし、その運営について協議し病院の発展に寄与することにある。

2. 平成27年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成27年8月11日	・平成26年度の臨床検査技術科経営分析の評価報告 1) 施設内検査コスト分析 2) 外部委託検査コスト分析 ・平成26年度インシデント・アクシデント件数と分析資料の説明 ・要員計画報告 ・血管エコー検査枠変更について ・トロンボテスト中止について ・外部委託費の変更について
2	平成27年12月9日	・27年度上半期経営分析 1) 施設内検査コスト分析 2) 外部委託検査コスト分析 ・27年度外部精度管理報告について ・超音波検査枠追加について ・Ca補正值の追加について ・その他 - パニック値見直しについて

3. 27年度活動要約

- ・外部委託料金の3割削減を達成
- ・トロンボテスト中止
- ・アルブミン低値患者のCa補正值の追加（Payneの式）
- ・パニック値の変更
- ・外部精度管理の報告等、本会議で立案・協議を行い新たに着手

■ 栄養管理委員会

1. 目的

患者給食の改善並びに院内における栄養管理業務の円滑な運営と、その質の向上を図ることを目的とする。

2. 27年度の検討内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月28日	・特別食加算増加への取り組みについて ・入院時食事療養費標準負担額増加への検討
2	平成27年7月28日	・喫食・嗜好調査の集計結果について ・「3分菜」名称廃止に伴う食種名の変更について
3	平成27年10月27日	・元旦のお餅の提供について ・「3分菜」名称廃止に伴う食種名の変更について
4	平成28年1月26日	・喫食・嗜好調査の集計結果について ・栄養食事指導件数増加への取り組みについて

3. 平成27年度の活動要約

① 特別食加算の増加への取り組み

治療食のミキサー形態「Hミキサー食」を新設し6月より提供を開始した。

② 喫食・嗜好調査結果から調理業務を修正

患者の意見を踏まえ、食事の改善点を検討し調理業務の修正を行った。

③ 「3分菜」名称廃止に伴う食種名の変更

同一の食種名「3分菜」を、咀嚼嚥下機能の食事形態の「ソフト食」と、消化機能による「U3分粥（潰瘍食）」「G3分粥（胃切除後段階食）」に食種名を変更した。

④ 栄養食事指導件数増加への取り組みについて

電子カルテから特別食の対象患者を抽出し、入院栄養食事指導の実施につなげた。

■ 保育所運営委員会

1. 目的

院内保育所『かもめ園』の管理運営に関する事項について協議し、円滑な管理運営を図ることを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成27年4月30日	・年間行事について ・保育所との合同レクリエーション実施について
2	平成27年7月17日	・お楽しみ会について ・保育料金の改正について
3	平成27年10月16日	・お楽しみ会について ・病児保育マニュアル追加事項について ・アンケート実施について
4	平成28年1月15日	・アンケート結果について ・保育所日誌の仕様変更について

3. 平成27年度の活動要約

保育の質向上を目指して保護者へのアンケート調査を実施した。その結果に基づき保育内容の改善と充実に取り組んだ。

■ 生活改善支援センター運営委員会

1. 目的

- ① 予防、治療、介護という医療、保健、福祉のすべての分野での支援活動に関係し「世界健康半島」の理念に基づき知多半島全域のJA組合員ならびに地域住民を対象にした健康づくりに貢献する。
- ② JA組合員ならびに地域住民への主体的な参加を支援するための活動に関して検討する。
- ③

2. 平成27年度の活動内容

【委員会検討内容】

回数	開催日	内容
1	平成27年6月1日	・ 下半期のミニレクチャーのテーマについて ・ ミニレクチャー参加者へのアンケートについて
2	平成27年9月7日	・ 調理実習日の充実について
3	平成27年12月7日	・ 調理実習日の充実について ・ 次年度の活動計画について
4	平成28年3月7日	・ 次年度の活動計画について ・ 参加者のアンケートについて

【調理実習実施状況】 10:00～13:00

開催日	内容	担当	参加人数
4月 17・24・5/1	食費を効率よく！冷凍食材で今夜のおかず	栗本	13
5月 15・22・29	血管の若さを保つ食事	片岡	20
6月 19・26・7/3	肌荒れを防ぐおすすめレシピ	藤田	20
7月 17・24・31	ビタミンB群たっぷり！夏バテ予防料理	栗本	20
8月 21・28・9/4	おいしい料理へのひと工夫	片岡	20
9月 18・25・10/2	1人分でも無駄なし「ふだんご飯」	藤田	15
10月 16・23・10/3	もうひと工夫！朝ごはん	栗本	21
11月 20・27・12/4	老いも若きも足りないカルシウムの多い料理	片岡	22

開催日	内容	担当	参加人数
12月 18・25	青背魚嫌いのための克服レシピ	片岡	13
1月 15・22・29	疲労感がある時に追加する料理（鉄分）	藤田	18
2月 19・26・3/4	肉好きの方のコレステロール対策	片岡	14
3月 18・25	毎日健康！快調レシピ	藤田	11

【ミニレクチャー実施状況】 13:00～14:00

開催日	内容	担当	参加人数
4月17日	糖尿病を再認識しよう	梶医師 青山保健師	23
5月15日	高血圧の怖いところ	富本医師 山本和看護師	31
6月19日	活動的な年寄りになろう	村元医師 森本理学療法士	29
7月17日	小児の食物アレルギーについて	安井医師 岩田管理栄養士	17
8月21日	薬と上手に付き合うために	畔柳薬剤師 岩田管理栄養士	17
9月18日	脂肪肝について	高橋医師 青山保健師	20
10月16日	増加している失明！加齢黄斑変性	好中医師 片山管理栄養士	24
11月20日	骨粗鬆症対策	長谷川医師 作業療法士	26
12月18日	脳梗塞を防ぐ生活	福島医師 高橋放射線技師	24
1月15日	舌でみる健康	丹村医師 石川薬剤師	13
2月19日	コレステロール値が高いといけないの？	富本医師 深見管理栄養士	23
3月18日	胃の病（ピロリ菌について）	西崎医師 後藤薬剤師	19

3. 平成27年度の活動要約

調理実習の充実

- ・健康保持・増進を目的に、ミニレクチャーの内容を資料にまとめ説明を行った。

■ 母子支援センター運営委員会

1. 目的

母子支援センター運営に関する事項について協議し、その効果的な運営を図ることを目的とする。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 20 日	・平成 27 年 2 月 3 月セミナー室利用状況報告 ・平成 26 年度母子支援センター利用数報告 ・4 月より母乳育児相談室利用料金変更 ・母子支援活動内容検討
2	平成 27 年 6 月 15 日	・4 月、5 月セミナー室利用状況報告 ・ベビーマッサージ教室参加者へのサービス検討
3	平成 27 年 8 月 17 日	・6 月、7 月セミナー室利用状況報告 ・ベビーマッサージ・ヨーガの掲示物変更
4	平成 27 年 10 月 19 日	・8 月、9 月セミナー室利用状況報告 ・マタニティーヨーガ：JA ポイント対与対象
5	平成 27 年 12 月 21 日	・10 月、11 月セミナー室利用状況報告 ・11 月よりマタニティーヨーガ運営再開 ・1 月より母親教室運営再開予定 ・ALSO 研修参加報告
6	平成 28 年 2 月 15 日	・12 月、1 月セミナー室利用状況報告 ・愛知県看護協会職能集会参加報告 - 産後ケア入院の取り組みについて

3. 平成 27 年度の活動要約

1) 毎月のセミナー室利用状況から取り組み事項の検討を実施

- ① 母親教室：今年度より分娩件数の減少及び分娩取扱対象者を経産婦としたことと、病棟助産師が毎日外来で妊産婦の健診サポートおよび指導を行うことから、利用者は大幅に減少することが見込まれた為、3 期に分けていた母親教室を今年度より 3 期の 1 回のみとした。

1 期、2 期に関する内容は、外来通院時に個別指導で実施する事に変更し、質の担保を図った。10 月より初産婦の分娩受け入れも開始し、平成 27 年度の母親教室の利用は、初産婦 4 件のみであった。

- ② 乳育児相談室：利用状況は、平成 24 年 55 名/年、25 年 85 名/年、26 年 105 名/年と増加傾向であったが、平成 27 年度は 48 名/年と昨年度より 54%減であった。ただし、有料での利用件数に至っては 21 件/年あり 23%減で留まった。減少理由は、当院での出産件数が減少したこと、対象者が経産婦であり初産婦に比べ産後継続的な母乳支援が必要ないことと推察されるが、有料利用者の減少率が緩やかであったことから、母乳育児相談室での母乳育児相談は、支援が必要な方に対しての産後の継続的な関わりに繋がっていると判断される。

平成 27 年度改正後金額：3240 円（税込み）

改正時期：平成 27 年 4 月 1 日で運用

- ③ ベビーマッサージ：平成 27 年度は 41 名/年と平年より若干少ない利用数であった。昨年度と同様、当院で出産されていない方も利用しており地域の育児支援に繋がっている。
- ④ マタニティーヨーガ：内容を改め 11 月より再開し、毎月の活動とした。利用者は限定していないが初産婦のみ 9 名/年であった。

2) 来年度の活動について

- ①昨年度と同様、産婦人科医が常勤 1 名となるため、当院で出産可能な方は、ノーリスクの方とし、10 名/月までの分娩制限は継続する。病棟助産師が外来での診療・指導に携わるようになり、妊娠期からの継続的な関わりや分娩前の情報共有がさらに充実したメリットを活かし、少子化のなかでも安全安心な子育てが出来る環境を微力ながら提供していきたい。

以上

■ 地域医療福祉連携センター運営委員会

1. 目的

- 1). 地域医療福祉連携センターの運営に関する事項について協議をし、円滑な運営を図る。
- 2). 地域における医療と介護の連携課題を院内で共有することで、連携の大切さを職員に認識してもらう。
- 3). 2)のような連携課題を改善するための具体的な対策を検討していくことで、より良い医療が提供できるようにする。
- 4). 地域医療福祉連携センターの活動を院内に周知する。

2. 平成 27 年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成 27 年 5 月 20 日	・ 委員会規程 委員会名簿 年報 ・ 各部署実績報告 ・ 総合相談窓口相談実績報告 ・ 短期入院事業受け入れマニュアル ・ 短期入院受け入れ状況報告 ・ 医療講座アンケート結果 ・ 住民公開講座（7 月予定について）
2	平成 27 年 6 月 17 日	・ 総合相談窓口内規改正
3	平成 27 年 8 月 19 日	・ 各部署実績報告 ・ 総合相談窓口相談実績報告 ・ 短期入院事業受け入れ状況 ・ 医療講座アンケート結果 ・ 住民公開講座（2 月予定について） ・ 病院及び施設訪問中間報告 ・ 知多厚生病院運営協力委員会資料について ・ 総合相談フローチャート ・ 地域包括ケア研修会について
4	平成 27 年 11 月 18 日	・ 各部署実績報告 ・ 総合相談窓口相談実績報告 ・ 短期入院事業受け入れ状況報告 ・ 医療講座アンケート結果 ・ 住民公開講座（2 月予定について） ・ 病院及び施設訪問中間報告 ・ MSW 業務について ・ 地域包括ケア研修会アンケート結果

回	開催日	内容
5	平成 28 年 2 月 17 日	・各部署実績報告 ・総合相談窓口相談実績報告 ・短期入院事業受け入れ状況報告 ・自動車事故対策費補助金交付による物品購入報告 ・医療講座アンケート結果 ・住民公開講座（2 月結果） ・病院及び施設訪問最終報告

3. 平成 27 年度の活動要約

- ・総合相談窓口内規改正・短期入院事業受け入れマニュアル改正に取り組んだ。
- ・ケアマネジャー向けの医療講座開催した（偶数月）。
- ・住民公開講座を定期開催した（年 2 回）。
- ・病院及び施設の訪問により紹介患者の獲得に取り組んだ。
- ・地域のお寺との連携に取り組んだ（地域包括ケア研修）。

■ リハビリテーション科運営委員会

1. 目的

リハビリテーションに関わる診療の適正な活用と質の向上、および適正な運営を図ること

2. 平成27年度の活動

回	開催日	内容
1	平成27年4月8日	・平成26年度業務実績 ・平成27年度介護報酬改訂に伴う訪問リハへの影響 ・平成27年度部署目標 ・平成28年度採用計画
2	平成27年8月12日	・平成27年度業務実績の推移 ・新規訪問リハ利用者の制限 ・運動器不安定症への対応 ・平成28年度採用計画 ・機構図の見直し
3	平成27年12月10日	・平成27年度業務実績の推移 ・業務改善（リハ実施単位数の確認）の経過報告 ・平成28年度採用状況 ・がんのリハ研修

3. 平成27年度の活動要約

・機構図を変更し、訪問リハを地域医療福祉連携部の訪問看護ステーション内へ移動させ、業務の流れを整理した。

■ 資材委員会

1. 目的

- ①新規医薬品、検査用試薬、診療材料の採否の決定
- ②医薬品、検査用試薬、診療材料の効率的利用の検討
- ③医薬品、診療材料、及び医療情報の伝達
- ④保険査定

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	主な内容
1	平成27年4月10日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・「糖尿病治療薬」分類一覧 ・新医薬品の投与制限解除 ・添付文書改訂情報 ・効能効果の追加について ・保険査定報告
2	平成27年5月8日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・入院時、採用していない薬剤を持参した場合の対応 ・日本中毒情報センターへの問い合わせ番号の変更案内 ・新医薬品の投与制限解除 ・現在検討中の後発薬剤 ・採用医薬品集の発行について ・保険査定報告
3	平成27年6月12日	・新規医薬品、診療材料の採否について ・カリウム製剤の運用マニュアルについて ・効能・効果の追加 ・現在検討中の後発薬剤 ・添付文書改訂情報 ・保険査定報告
4	平成27年7月10日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・現在検討中の後発品薬剤 ・効能・効果の追加について ・添付文書改訂情報 ・保険査定報告
5	平成27年8月14日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・投与前後に生食フラッシュを推奨する注射薬一覧 ・添付文書改訂情報 ・保険適応可能な適応外薬（公知申請品目）について ・経過措置品目に上がっている薬剤 ・保険査定報告

6	平成 27 年 9 月 11 日	・新規医薬品、診療材料の採否について ・新医薬品の投与制限解除について ・効能・効果の追加について ・現在検討中の後発品薬剤 ・保険査定報告
7	平成 27 年 10 月 9 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・添付文書改訂情報 ・効能・効果の追加について ・保険査定報告
8	平成 27 年 11 月 13 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・自主回収のお知らせ ・添付文書改訂情報 ・新医薬品の投与制限解除について
9	平成 27 年 12 月 11 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・効能・効果の追加について ・添付文書改訂情報 ・現在検討中の後発品薬剤 ・後発品への変更薬剤 ・出荷調整薬剤のお知らせ ・保険査定報告
10	平成 28 年 1 月 8 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・効能・効果の追加・削除について ・現在検討中の後発品薬剤 ・後発品への変更薬剤 ・保険査定報告
11	平成 28 年 2 月 12 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・新医薬品の投与制限解除について ・効能・効果の追加・削除について ・添付文書改訂情報 ・現在検討中の後発品薬剤 ・後発品への変更薬剤 ・採用中止希望薬品 ・保険査定報告
12	平成 28 年 3 月 11 日	・新規医薬品、診療材料、検査試薬の採否について ・添付文書改訂情報 ・現在検討中の後発品薬剤 ・後発品への変更薬剤 ・院外専用薬の削除希望薬品 ・保険査定報告

3. 平成27年度の活動要約

- ア) 新規仮採用医薬品は 52 品目を承認した。
規格追加・採用復活・変更、製薬メーカー及び剤型変更は 21 品目を承認した。
また新規採用に伴う中止医薬品 34 品目を採用中止とした。
- イ) 新規申請診療材料は 47 品目を承認し、規格変更は 1 品目を承認した。
新規採用に伴う中止診療材料 12 品目を採用中止とした。
- ウ) 新規申請検査試薬は 25 品目を承認し、18 品目を採用中止とした。
- エ) 後発医薬品への切り替えは 58 品目を承認した。

■ 倫理委員会

1. 目的

医師・診療に携わる者が行う医学研究及び医療行為において、患者の人権擁護の立場から倫理的配慮が図られているかどうかを審議することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年8月10日	・高齢者における心不全マーカー（NT-proBNP, BNP）の有用性の検討 ・山間部と海沿いでの比較検討について

3. 平成27年度の活動要約

「高齢者における心不全マーカー（NT-proBNP, BNP）の有用性の検討 山間部と海沿いでの比較検討について」に対する審議を行い、了承された。

■ 治験審査委員会

1. 目的

「医薬品の臨床試験の実施基準に関する省令（GCP省令）」に基づき、医薬品の製造承認、及び一部変更申請時に提出すべき資料の収集、また製造販売後の臨床試験などに関する計画・実施・モニタリング・監査・記録・解析・報告などに関する遵守事項を定めて、被験者の人権・安全及び福祉を保護し、かつ臨床試験の科学的な質と成績の信頼性を確保することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
12	厚生連病院共同 治験審査委員会 (IRB) 平成27年4月20日 平成27年5月21日 平成27年6月17日 平成27年7月16日 平成27年8月20日 平成27年9月17日 平成27年10月29日 平成27年11月19日 平成27年12月17日 平成28年1月21日 平成28年2月18日 平成28年3月17日	「糖尿病性腎症 対象疾患 ARB又はACE阻害剤の投与を受けている2型 糖尿病性腎症患者」 (内分泌代謝科 丹村敏則) 治験薬 選択的ETA (endothelin-A) 受容体拮抗剤 ※実績 ・原契約例数：4例 ・追加契約例数：1例 ・総同意取得例数：6例 ・原契約実施例数：5例(うち、観察期脱落例数：1例、治療期例数：3例→4例、完了例数：0例、中止例数：1例→0例 ※プロトコル改訂に伴い、中止例が再開) ・追加契約実施例数：1例(うち、観察期脱落例数：1例、治療期例数：0例、完了例数：0例、中止例数：0例)

(西暦2015年4月1日～2016年3月31日)

3. 平成27年度の活動要約

平成27年度の活動内容に示した件について、審査して了承された。

■ 購買委員会

1. 目的

事業年度における固定資産（器械・備品・車輛）取得要望品を適正に審議し、効率的に固定資産取得を行うことを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年9月9日	・平成27年度固定資産取得結果について ・平成28年度固定資産取得について ・その他

3. 平成27年度の活動要約

平成27年度固定資産取得状況一覧表に基づき取得結果を報告した。平成28年度固定資産予算枠に対し、各部署申請者より申請理由を説明後、固定資産取得品の選定を委員会として行った。

■ 物品管理委員会

1. 目的

診療材料、医療器具、医療器具備品、消耗品、事務用品等院内で取り扱う物品に関し、効率的な供給やコスト削減を目指し、協議し常時改善することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年7月9日	・文書開催 ・協議事項特になし
2	平成27年11月11日	・事務物品請求シートの変更について ・年末年始のSPD運用法について ・事務請求分の購入内容について

3. 平成27年度の活動要約

平成27年度は、SPDの運用法について経年化による業務の曖昧さが出現し始めたので現行運用法の再確認を行うと共に、業務改善案を事務局より提案し協議を行った。より安価な物品購入について、また効率的な運用を目指し年間を通じ協議を行った。その他年間を通じ事務物品請求の内容検証を行った。

■医療安全対策委員会

1. 目的

患者の安全を守り、医療事故・紛争の予防対策等の推進を図る

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 22 日	●医療安全報告分析表について（3 月分、H26 年度分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(3 月分、前月迄の追加分) ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 ●H27 年度 医療機器の安全な取り扱い勉強会日程表（上半期） ●H27 年度 医療安全対策委員巡回予定 ●H27 年度 事前検討部会担当予定 ●その他 書籍案内、研修会案内
2	平成 27 年 5 月 27 日	●医療安全報告分析表について（4 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(4 月分、前月迄の追加分) ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 ●医療事故調査制度 ●その他 研修会案内
3	平成 27 年 6 月 24 日	●医療安全報告分析表について（5 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(5 月分、前月迄の追加分) ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 前期医療安全全体研修実施要項 ●医療事故調査制度 ●医療安全管理室長会議（6 月）報告 ●その他 研修会案内

回数	開催日	内容
4	平成 27 年 7 月 22 日	●医療安全報告分析表について（6 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（6 月分、前月迄の追加分） ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 ●医薬品安全使用に関する手順書の改訂について ●医療安全管理指針の見直しについて ●医療安全報告書のレベル変更について ●その他 研修会案内
5	平成 27 年 8 月 26 日	●医療安全報告分析表について（7 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（7 月分、前月迄の追加分） - 患者誤認防止策について ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 ●医薬品安全使用に関する手順書の改訂について ●医療安全管理指針の見直しについて ●医療安全報告書のレベル変更について ●医療事故調査制度について ●その他 書籍案内、研修会案内
6	平成 27 年 9 月 24 日	●医療安全報告分析表について（8 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（8 月分、前月迄の追加分） ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 - 前期医療安全全体研修アンケート結果 ●医薬品安全使用に関する手順書の改訂について ●医療安全管理指針の見直しについて ●医療安全報告書の変更について ●医療安全管理室長会議（9 月）報告 ●生体情報モニタラームデータ収集・解析について ●その他 書籍案内、研修会案内

回数	開催日	内容
7	平成 27 年 10 月 28 日	●医療安全報告分析表について（9 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(9 月分、前月迄の追加分) ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 ●医薬品安全使用に関する手順書の改訂について ●医療安全管理指針の改正について ●保健所立入り検査報告について ●その他 書籍案内、研修会案内
8	平成 27 年 11 月 25 日	●医療安全報告分析表について（10 月分、4 月～9 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(10 月分、前月迄の追加分) - 患者誤認防止策 ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 - 前期医療安全全体研修会欠席者への周知 - 後期医療安全全体研修会実施要項 ●医療安全管理指針の改正について ●医療事故調査制度に関わる評価報告書の流れ ●その他 医療事故調査制度 10 月の状況 - 書籍案内、研修会案内
9	平成 27 年 12 月 22 日	●医療安全報告分析表について（11 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告(11 月分、前月迄の追加分) - ヨード造影剤検査時に休薬が必要なビグアイド系薬 - MRI 検査注意事項 ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●医療事故情報収集等事業報告書 ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 - 後期医療安全全体研修会実施要項 ●医療安全管理室長会議（12 月）報告 ●その他 医療事故調査制度 11 月の状況 - 研修会案内

回数	開催日	内容
10	平成 28 年 1 月 27 日	●医療安全報告分析表について（12 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（12 月分、前月迄の追加分） 2 回チャレンジルール ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 後期医療安全全体研修会 ●医療事故対応マニュアル改正案 ●その他 医療事故調査制度 12 月の状況 研修会案内
11	平成 28 年 2 月 24 日	●医療安全報告分析表について（1 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（1 月分） ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 後期医療安全全体研修会アンケート結果 ●医療事故対応マニュアル改正案 ●その他 医療事故調査制度 1 月の状況 研修会案内
12	平成 28 年 3 月 23 日	●医療安全報告分析表について（2 月分） ●医療安全報告事前検討部会の報告（2 月分、前月迄の追加分） ●Good job ●医療安全対策委員巡視報告 ●医療安全情報について ●H27 年度 委員会目標 委員会活動計画 活動評価 ●医療安全管理室長会議（3 月）報告 ●その他 医療事故調査制度 2 月の状況 研修会案内

3. 平成27年度の活動要約

- 医療安全報告書提出数は712件、前年比107.5%であった。その内、医療事故報告件数は8件であった。
- 医療安全カンファレンス報告書を活用し、医療安全のPDCAサイクルを機能させた。カンファレンス実施件数169件であった。
- 全体研修2回実施した。研修会参加率は、前期研修62%、後期研修69%。研修会欠席者に対しては、各部署の委員が、資料配付と共に説明した。
- 体験型医療安全研修は、MEが計画的に実施し、述べ参加者数は179名であった。
- 部署内研修会の報告件数は13件であった。
- マニュアルの改訂
医療安全管理指針
医療事故対応マニュアル
- 医療安全報告書レベル変更
- 医療事故調査制度に関わる評価報告書の運用

■ 安全衛生委員会

1. 目的

職員の業務上の災害防止及び健康増進を図ること。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 27 日	・平成 27 年度定期健康診断について ・メンタルヘルスケア研修会について
2	平成 27 年 5 月 25 日	・平成 27 年度定期健康診断について ・メンタルヘルスケア研修会について
3	平成 27 年 6 月 22 日	・平成 27 年度定期健康診断について
4	平成 27 年 7 月 24 日	・平成 27 年度定期健康診断について（受診状況）
5	平成 27 年 8 月 24 日	・B型肝炎ワクチン接種（1・2 回目）について
6	平成 27 年 9 月 28 日	・インフルエンザ予防接種について
7	平成 27 年 10 月 26 日	・インフルエンザ予防接種について ・平成 27 年度特定業務従事者健診について
8	平成 27 年 11 月 24 日	・インフルエンザ予防接種について（反省点等） ・B型肝炎ワクチン接種（3 回目）について
9	平成 27 年 12 月 28 日	・感染症 4 種の対応について
10	平成 28 年 1 月 25 日	・感染症 4 種の対応について ・平成 28 年度メンタルヘルスケア研修会について
11	平成 28 年 2 月 22 日	・B型肝炎ワクチン接種（3 回目）について ・感染症 4 種ワクチン接種（1 回目）について ・平成 28 年度新規採用者雇入健診について
12	平成 28 年 3 月 28 日	・平成 28 年度年間スケジュールについて ・感染症 4 種ワクチン接種（2 回目）について ・平成 28 年度定期健康診断について

3. 平成 27 年度の活動要約

平成 26 年度からの検討事項となっていた感染症 4 種（風しん・麻疹・水痘・ムンプス）の対応について、愛知県厚生連の基準による 1 回目の予防接種を実施した。

また、2 回目の予防接種日程について協議し、翌年度の実施を決定した。

■ 防災対策委員会

1. 目的

知多厚生病院における火災、震災その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図ることを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年8月3日	・H27年度広域医療搬送訓練について ・南知多町地域災害拠点病院災害訓練について ・トリアージタグ購入について
2	平成27年12月9日	・南知多町・地域災害拠点病院災害連携訓練に関する検証結果について ・南知多町・地域災害拠点病院災害連携訓練反省会について ・平成27年度第2回総合防災訓練について ・非常用備蓄品配置数チェック表について
3	平成28年3月29日	・消防計画改正（案）・防災マニュアル改正（案）について ・防災対策小委員会の活動報告について ・知多半島医療圏医療救護活動計画について ・防災対策に関する年間計画について ・平成28年度大規模地震時医療活動訓練について

3. 平成27年度の活動要約

平成27年度災害拠点病院災害訓練実施要綱について協議を行い、災害訓練当日までの進め方を確認した。また全体の流れを把握できるようエマルゴトレインシステムを実施し、職員の啓発に努めた。災害拠点病院災害訓練実施後は訓練の検証結果を報告するとともに次年度に向けた課題を確認した。また、消防法に基づく総合防災訓練の実施内容確認及び訓練実施後の検証を行った。

■ 院内感染対策委員会

1. 目的

院内感染の予防と感染症発生時に迅速かつ適切なる対応を積極的に行い、院内衛生の万全を期すること。

2. 平成 27 年度の活動内容

院内感染対策委員会（毎月第 1 木曜日 16：45～定例で開催）

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 3 日	新入職員研修 講師：仮屋看護師
2	平成 27 年 5 月 7 日	二指腸鏡による多剤耐性菌の伝播についての厚生労働省からの通知を踏まえ、内視鏡検査の同意書の内容を変更した。又、内視鏡カメラ培養検査を実施し、以後 1 年単位で実施する事とした
3	平成 27 年 6 月 4 日	韓国で発生している東呼吸器症候群（MERS）の対応策の実施
4	平成 27 年 7 月 2 日	エボラ出血熱、東呼吸器症候群（MERS）の対応策の実施
5	平成 27 年 08 月 6 日	アウトブレイクマニュアルを追加変更
6	平成 27 年 9 月 3 日	既製医薬品の開封後の使用期限一覧と院内製剤使用期限一覧の修正
7	平成 27 年 10 月 1 日	採尿バックが低床タイプではなく感染対策上問題があることから低床タイプの採尿バックに変更
8	平成 27 年 11 月 29 日	結核対策のマニュアルを変更 11 月 9 日からノロウイルス対策として次亜塩素酸ナトリウムによる環境消毒を実施。ノロウイルス対策用として消毒剤「ルビスタ：塩素系消毒剤」を採用 平成 27 年度愛知県新型インフルエンザ等対策総合訓練で情報伝達訓練を実施
9	平成 27 年 12 月 13 日	感染制御部の業務一覧を作成 「医療従事者の汚染事故時の感染症検査に関する承諾書」「HIV 予防薬服用同意書」について、※1 部印刷をして必要事項を記載後にコピーした物を渡す。原本はスキャナー後、医事課で管理。に文章を変更。
10	平成 27 年 1 月 7 日	エボラ出血熱、東呼吸器症候群（MERS）の対応策を終了 インフルエンザ、ノロウイルス等の職員の健康管理に対する注意喚起の実施
11	平成 27 年 2 月 4 日	スワブパットから低価格のアルウエット one 2 エタノールに変更
12	平成 27 年 3 月	検査結果連絡体制についてマニュアルを作成

3. 研修会等

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 17 日	ランチミーティング「消毒薬について」
2	平成 27 年 4 月 22 日	ランチミーティング「バンコマイシン注と TDM について」
3	平成 27 年 5 月 20 日	ランチミーティング「エボラウイルス感染症について」
4	平成 27 年 6 月 17 日	ランチミーティング「テイコプラニンについて」
5	平成 27 年 6 月 10 日 平成 27 年 6 月 29 日	全体研修会テーマ：「院内ラウンドでの発見」 講師：仮屋小百合 参加人数：281 人
6	平成 27 年 8 月 19 日	ランチミーティング「アネメトロ注射について」
7	平成 27 年 9 月 16 日	ランチミーティング「塩酸バンコマイシン散について」
8	平成 27 年 10 月 21 日	ランチミーティング「消毒薬全般について」
9	平成 27 年 11 月 18 日	ランチミーティング「ラピアクタ注射について」
10	平成 27 年 12 月 9 日	ランチミーティング「イナビル吸入について」
11	平成 27 年 12 月 16 日	ランチミーティング「ファンガード注について」
12	平成 28 年 1 月 20 日	ランチミーティング「カンサイダス注について」
13	平成 28 年 1 月 12 日 平成 28 年 2 月 3 日	全体研修会テーマ：「インフルエンザと感染性胃腸炎について」 講師：高橋委員長、仮屋看護師 参加人数：255 名
14	平成 28 年 2 月 24 日	ランチミーティング「アムビゾーム注射について」
15	平成 28 年 3 月 9 日	ランチミーティング「タゾピペ配合静注用バッグ 4.5」
16	1 回/3 ヶ月	名古屋市立大学病院との Web セミナー「NCU Infection Seminar」)

4. 平成 27 年度の活動要約

例年と同様に職員のインフルエンザ対応としては予防投与を速やかに実施した。又、新型ノロウイルスの出現により、ノロウイルス感染によるアウトブレイクの危険性があったことから、職員に対する検査を積極的に行なった結果、感染・保菌の栄養科職員を未然に発見でき就業停止にすることができた。

エボラ出血熱、中東呼吸器症候群 (MERS) の対応策も段階的に実施することができ、大きな混乱をもたらす事はなかった。

■ 廃棄物管理委員会

1. 目的

廃棄物処理及び清掃に関する法律に従って、適正に管理及び処理することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成28年2月10日	・産業廃棄物排量について ・産業廃棄物処理実績・処理計画について ・産業廃棄物処理現地確認について ・産業廃棄物処理マニュアル変更について ・その他

3. 平成27年度の活動要約

昨年度の産業廃棄物排出量より、今年度の廃棄物全体の排出量が削減されており、院内における排出量削減の意識が高まってきたことを確認した。

法律に基づき特別管理産業廃棄物・産業廃棄物昼間処理施設現地確認を行ない適切に処理されていることを確認した。平成28年度は当院の視察場所は加藤建設(株)（埼玉県日高市）の予定であることを報告した。

産業廃棄物処理マニュアルは、人事異動に伴い管理体制組織図（特別管理産業廃棄物実施責任者の変更）を見直した。また、感染対策および医療安全の観点より針捨てボックスの変更を行なった。

■ 輸血療法委員会

1. 目的

輸血療法の適応、血液製剤の選択、輸血・検査項目・輸血実施時の手続き、血液製剤の保管管理、院内での血液製剤の使用状況、適正使用の徹底、輸血療法に伴う事故や副作用・合併症対策等について検討し、適正な輸血療法を推進すること。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月23日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況(H27年2月・3月) ・輸血感染症の実施状況(H27年2月・3月分) ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告(H27年2月・3月分) ・輸血用製剤の査定・再審結果報告 ・輸血時副作用発生報告 ・同意書の取得条件について ・血液製剤および血漿分画製剤投与下の観察記録について ・副作用発生時の対応について
2	平成27年5月26日	・同意書取得条件について ・血液製剤および血漿分画製剤投与下の観察記録について ・ルート確保について
3	平成27年6月25日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況(H27年4月・5月分) ・輸血感染症の実施状況(H27年4月・5月分) ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告(H27年4月・5月分) ・輸血用製剤の査定・再審結果報告 ・副作用発生報告 ・新鮮凍結血漿の病棟使用時における運用について ・緊急時輸血依頼時の対応について ・輸血副作用報告体制の構築について ・血液製剤投与下における観察推奨項目について
4	平成27年9月31日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況(H27年6月・7月分) ・輸血感染症の実施状況(H27年6月・7月分) ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告(H27年6月・7月分) ・輸血用製剤の査定・再審結果報告

		・副作用発生報告 ・血液製剤使用に関する説明の確認および同意書の一部変更について ・ルートに関する事例報告（2F 病棟） ・輸血用製剤投与下の観察推奨項目について ・輸血用血液製剤の検査室出庫から患者投与開始までの時間調査について
5	平成 27 年 10 月 27 日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況（H27 年 8 月・9 月分） ・輸血感染症の実施状況（H27 年 8 月・9 月分） ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告（H27 年 8 月・9 月分） ・輸血用製剤の査定・再審結果報告 ・輸血前感染症検査について ・患者および患者家族に対する説明に関する事例報告（6F 病棟） ・自己血輸血について
6	平成 27 年 11 月 5 日	・副作用発生時報告チャートについて ・輸血用観察項目と関わるマニュアルについて ・輸血用血液製剤の搬送方法について ・自己血輸血について
7	平成 27 年 12 月 3 日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況（H27 年 10 月 11 月分） ・輸血感染症の実施状況（H27 年 10 月・11 月分） ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告（H27 年 10 月・11 月分） ・輸血用製剤の査定・再審結果報告 ・副作用発生報告 ・副作用発生時処置オーダーについて ・輸血用血液製剤の搬送容器について ・複製剤投与時の報告書運用について ・輸血療法勉強会開催（案）について ・有効期限に関する事例報告（6F 病棟）
8	平成 28 年 1 月 26 日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況（H27 年 12 月分） ・輸血感染症の実施状況（H27 年 12 月分） ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告（H27 年 12 月分） ・輸血用製剤の査定・再審結果報告

		・副作用発生報告 ・管理料更新について ・輸血療法マニュアル全面改定について ・輸血用血液製剤の検査室在庫から患者投与開始までの時間調査報告
9	平成 28 年 3 月 3 日	・輸血製剤・血漿分画製剤の使用状況 (H28 年 1・2 月分) ・輸血感染症の実施状況 (H28 年 1・2 月分) ・廃棄血の本数及び廃棄金額の報告 (H28 年 1・2 月分) ・輸血用製剤の査定・再審結果報告 ・副作用発生報告 ・次年度の委員会運営について ・科学的根拠に基づいたアルブミン製剤使用のガイドラインについて

3. 平成 27 年度の活動要約

- ① 輸血療法の適応、院内での血液製剤の使用状況、適正使用の徹底
- ② 「輸血管理料Ⅰ」施設基準維持に向けたデータの抽出および検討
- ③ 輸血用製剤の査定、再審結果報告
- ④ 輸血療法における医療安全報告書の対応策の検証
- ⑤ 副作用発生時報告チャートの設定
- ⑥ 輸血用血液製剤投与時の観察時間および項目の検討
- ⑦ 緊急時輸血における対応の検討
- ⑧ 自己血採血における検討
- ⑨ 輸血用血液製剤の搬送容器の検討
- ⑩ 輸血療法マニュアルの全面改定
- ⑪ 輸血療法勉強会の開催 (3/3, 3/11)
 - 「平成 27 年度 副作用発生報告」
 - 「ここが知りたい！輸血副作用観察のポイントと対処」
- ⑫ 輸血療法委員会からのお知らせ回覧
 - No. 3 輸血同意書・観察記録について
 - No. 4 FFP 融解・ルート確保運用変更について
 - No. 5 血漿分画製剤名称変更・効能追加、再採用
 - No. 6 血液製剤依頼箋・報告書運用 (複数単位)
 - No. 7 血液製剤の有効期限について

- No. 8 副作用発生時報告体制について
- No. 9 緊急時輸血対応マニュアルについて
- No. 10 血液製剤における出庫から実施時間までの調査報告
- ※「No. 1 血液型・抗体 Sc 同日採血時の注意」および
No. 2 輸血前感染症運用変更」については前年度回覧した。

■ 医療ガス安全管理委員会

1. 目的

医療ガス（診療の用に供する酸素・各種麻酔ガス・吸引・医療用圧縮空気・窒素等）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成28年2月15日	・医療ガス安全管理委員会名簿について ・平成27年度医療ガス設備保守点検結果報告について ・平成28年度医療ガスに関する年間計画について ・医療ガス啓蒙教育 ・その他

3. 平成27年度の活動要約

医療ガス設備保守点検結果の報告および翌年度の点検計画について協議を行った。
医療ガスに関する啓蒙教育として「医療ガス保安管理技術者講習会及び継続講習会受講者アンケートによる酸素ボンベ関係における転倒・破損・故障・事故事例」についての職員教育を実施した。

■ 広報委員会

1. 目的

地域住民に向けた病院の広報活動に関する事項について提案・協議し、円滑な病院運営に役立てること。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月17日	・委員会規程・委員会名簿について ・広報委員会年間スケジュールについて ・『知ったより』7月号について ・『ちっタイムズ』第3号について ・ホームページの修正について ・26年度年報作成依頼について ・LINKED 病院広報プラザについて
2	平成27年5月15日	・『知ったより』7月号について ・ホームページ更新について ・広報委員会年報について
3	平成27年6月19日	・『知ったより』10月号について ・『ちっタイムズ』第4号について ・広報委員会年報について
4	平成27年7月17日	・『知ったより』10月号について ・『ちっタイムズ』第4号について ・『こうせい』10月号「職員紹介」について
5	平成27年8月21日	・『知ったより』10月号について ・『ちっタイムズ』第4号について ・院内の写真撮影について ・ホームページのアクセスカウンター設置について
6	平成27年9月16日	・『知ったより』1月号について ・院内の写真撮影について
7	平成27年10月16日	・『知ったより』1月号の編集について ・『ちっタイムズ』第5号について ・院内の写真撮影について
8	平成27年11月20日	・『知ったより』1月号について ・『ちっタイムズ』第5号について ・年報送付先について
9	平成27年12月18日 (文書開催)	・『知ったより』100号完成版報告 ・ホームページ閲覧数報告(11月分) ・ホームページ修正状況について

回数	開催日	内容
10	平成28年1月15日	・『知ったより』4月号について ・『ちっタイムズ』第5号について
11	平成28年2月19日	・『知ったより』4月号について
12	平成28年3月18日	・『知ったより』7月号について ・『こうせい』について ・『ちっタイムズ』第6号について

3. 平成27年度の活動要約

- ・病院広報誌『知ったより』や院内広報誌『ちっタイムズ』の発刊を主として活動。
- ・『ちっタイムズ』の発刊を年2回から年3回に増やした。
- ・ホームページにアクセスカウンターを設置し、毎月のホームページ閲覧数報告を開始した。
- ・ホームページで掲載している写真（現場や機器等）が古くなっている部署があったため、写真を撮り直した。

■ 教育研修委員会

1. 目的

- ・全職員に共通して必要と考えられる教育・研修について、その体制・計画立案・実施・結果評価・評価フィードバックをすることで、より高度なチーム医療の構築を目指すこと。
- ・患者自身の医療への主体的な参加を支援するための活動（講演会・健康教室開催等）に関して検討すること。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年5月22日	・平成26年度新規採用者オリエンテーションの報告について ・新入職員メッセージの送付について ・インターンシップの受入れ（予定）について
2	平成27年7月24日	・中途採用オリエンテーションについて ・平成27年度職場体験学習について
3	平成27年8月28日	・平成27年度職場体験学習のアンケート結果について ・日本農村医学会出席者について
4	平成27年11月27日	・中途採用オリエンテーション（12月）について ・平成27年度日本農村医学会報告会について ・平成28年度事業所内集合研修予定の提出について
5	平成28年2月26日	・平成28年度新規採用者オリエンテーションについて

3. 平成27年度の活動要約

4月に新規採用者オリエンテーションを実施した。

その他、7月から8月にかけて地元中学生、高校生を対象とした職場体験実習の受け入れを行うとともに、1月には日本農村医学会報告会を開催した。

■ 図書管理委員会

1. 目的

- ・図書室運営に関する事項について協議し、円滑な運営を図ること。
- ・図書購入・貸出について必要な手続きを定め、遂行すること。

2. 平成27年度の活動内容

活動実績なし。

■ 臨床研修管理委員会

1. 目的

知多厚生病院及び関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成28年3月29日	・平成27年度初期研修医修了評価について ・平成27年度初期研修医ローテーション結果について ・平成28年度初期研修医採用者について ・平成28年度臨床研修プログラムについて

3. 平成27年度の活動要約

平成27年度をもって初期研修を修了する初期研修医の評価を行い、修了認定について了承を得た。

■ 臨床研修委員会

1. 目的

研修医が所期の目的を達成するために、臨床研修プログラム、部署間・職種間との連携、研修医の処遇等を充実させることを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年8月7日	・新たな専門医制度について ・医師会幹事会研修会開催について ・知多厚生病院見学ツアーについて ・平成27年度臨床研修に関する活動報告について
2	平成28年3月29日	・平成28年度初期研修医採用者について ・知多厚生病院臨床研修指導医について ・平成27年度初期研修医ローテーション結果について ・各診療科の初期研修プログラムの見直しについて ・平成28年度へき地医療臨床研修受入れ予定について ・平成28年度海南病院研修医受入れ（篠島診療所）予定について ・平成28年度初期研修医マッチング予定について

3. 平成27年度の活動要約

初期研修医確保に向けて、各種説明会等へ参加した。

■ 患者サービス向上委員会

1. 目的

『患者さんから選ばれる病院』を目指し、より良い患者サービスを提供し、患者満足度の向上を図ること。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月9日	・平成27年度委員会年間予定について
2	平成27年5月14日	・外来患者アンケートについて ・外来患者アンケート実施要領について
3	平成27年6月11日	・外来患者アンケートについて ・平成27年度接遇研修計画について
4	平成27年7月9日	・待ち時間調査について ・第1回接遇研修会について
5	平成27年8月13日	・待ち時間調査結果について ・入院患者アンケートについて ・第1回接遇研修会アンケート結果について
6	平成27年9月10日	・外来患者アンケート結果について ・入院患者アンケート実施について
7	平成27年11月12日	・入院患者アンケート結果について
8	平成27年12月10日	・身だしなみラウンドについて ・平成28年度CS委員会年間目標について ・第2回接遇研修会について
9	平成28年1月14日	・平成28年度CS委員会年間目標について ・患者サービス向上研修会について
10	平成28年3月10日	・平成28年度CS委員会年間目標について ・第2回接遇研修会アンケート結果について

3. 平成27年度の活動要約

外来患者及び入院患者に対してアンケートを実施し、結果を広報誌「知ったより」に掲載した。

患者接遇向上のために外部講師を招き、新人職員、全職種を対象とした接遇研修会を実施した。

各部署を回り、身だしなみラウンドを実施した。

■ 医療情報システム委員会

1. 目的

医療情報の管理・運営の向上を目指し、医療情報システムが円滑かつ安定稼動することにより、病院の発展に寄与することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月20日	・ 前回議事内容について ・ N E Cシステム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 医療情報システム委員会名簿について ・ 医療情報システム障害時緊急連絡網について
2	平成27年5月18日	・ 前回議事内容について ・ N E Cシステム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 画像システムのプログラムメンテナンスについて ・ 医療情報システム更新における電子カルテメーカーの選定について
3	平成27年6月15日	・ 前回議事内容について ・ N E Cシステム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 医療情報システムの障害報告について ・ 医療情報システム障害時緊急連絡網について ・ システム障害時院内放送例文について ・ 電子カルテシステム定期点検について
4	平成27年7月27日	・ 前回議事内容について ・ N E Cシステム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について
5	平成27年8月17日	・ 前回議事内容について ・ N E Cシステム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について

回数	開催日	内容
6	平成 27 年 9 月 28 日	・ 前回議事内容について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 予約（診察・検査）取得期間延長について ・ 開業医訪問（中間報告）について
7	平成 27 年 10 月 28 日	・ 前回議事内容について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 医療情報システム委員会名簿について ・ 医療情報システムマスタ担当者一覧について ・ 予約（診察・検査）取得期間延長について ・ 電子カルテシステム定期点検について ・ 医療・介護・回復期必要度参照機能について
8	平成 27 年 11 月 16 日	・ 前回議事内容について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 予約（診察・検査）取得期間延長について ・ 電子カルテシステム定期点検について ・ 生理検査システム定期点検について ・ 医療情報システム障害時訓練について
9	平成 27 年 12 月 21 日	・ 前回議事内容確認について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 医療情報システム障害時緊急連絡網について ・ 2015 年末年始における電子カルテシステム関連運用について ・ 電子カルテ障害訓練アンケート集計結果について

回数	開催日	内容
10	平成 28 年 1 月 18 日	・ 前回議事内容確認について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ システム更新スケジュールについて ・ 医療情報システム委員会委員について ・ 医療情報システムマスタ担当者について ・ システム障害時訓練について
11	平成 28 年 2 年 15 日	・ 前回議事内容確認について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について ・ 2016 年 1 月 17 日発生システム障害報告について ・ 次期システム希望端末台数について
12	平成 28 年 3 年 16 日	・ 前回議事内容確認について ・ N E C システム定例会からの報告について ・ 医療情報室からの報告について ・ 定型文書追加修正について

3. 平成 27 年度の活動要約

医療情報システムの障害対応、機能強化、システム運用の検討・改善、次期電子カルテメーカーの選定、部門システムメーカーの検討を行った。電子カルテシステム障害訓練は、外来ブロックを変更しながら半年ごとに定期的に実施した。

次期医療情報システムについて、限られた予算のなかで職員の要望をできるだけ反映させることを目的に、委員会をヒアリングやフィードバックの場として活用した。

■ 診療情報管理委員会

■ 診療情報管理委員会

1. 目的

診療情報管理業務は、医療の安全を保守するために、診療記録を適切に管理し活用することにより医療の質を向上させることを目的とする。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 30 日	・ 第 12 回診療情報管理委員会議事録について ・ 退院サマリー記入状況について ・ 統計資料について ・ 診療録質的点検について ・ 診療記録開示件数について ・ 診療情報管理委員会規程（案）について ・ 診療情報管理規程（案）について ・ 診療情報管理室マニュアル（案）について ・ 診療録等記載マニュアルについて
2	平成 27 年 5 月 25 日	・ 第 1 回診療情報管理委員会議事録について ・ 退院サマリー記入状況について ・ 統計資料について ・ 診療録質的点検について ・ 診療情報管理委員会名簿について
3	平成 27 年 6 月 22 日	・ 第 2 回診療情報管理委員会議事録について ・ 退院サマリー記入状況について ・ 統計資料について ・ 診療録質的点検について ・ 診療情報管理委員会規程（案）について ・ クリニカルインディケーター公開について ・ 退院サマリー作成のお願いについて
4	平成 27 年 7 月 27 日	・ 第 3 回診療情報管理委員会議事録について ・ 退院サマリー記入状況について ・ 統計資料について ・ 診療録質的点検について ・ 電カルのカルテ記載について ・ 鎮静剤を使用した胃カメラについて

回数	開催日	内容
5	平成 27 年 8 月 24 日	・第 4 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・クリニカルインディケーター公開について ・地域医療連携システム（I D－L I N K）について ・画像・検査結果について ・カルテ記載について
6	平成 27 年 9 月 29 日	・第 5 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・医療事故調査制度施行に伴う診療録の記載について ・カルテ記載について
7	平成 27 年 10 月 26 日	・第 6 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・平成 2 7 年度上半期診療記録開示件数について ・カルテ記載（コピペ）について ・医療事故調査制度に関する評価報告書および記載について
8	平成 27 年 11 月 30 日	・第 7 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・警察からの依頼で行う検体等の提供について ・退院サマリーの退科日入力制限について
9	平成 27 年 12 月 28 日	・第 8 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・警察の依頼で行う検体等の提供に関する同意書について ・診療録質的点検項目について

回数	開催日	内容
10	平成 28 年 1 月 25 日	・第 9 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・死亡確認後の警察から依頼された検体等の提供について ・疾患別統計資料について
11	平成 28 年 2 月 29 日	・第 10 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について
12	平成 28 年 3 月 28 日	・第 11 回診療情報管理委員会議事録について ・退院サマリー記入状況について ・統計資料について ・診療録質的点検について ・退院サマリー記載のお願いについて ・警察から依頼された検体等の提供について

3. 平成 27 年度の活動要約

- ・カルテ記載に関して、記載されていないことがあること、また開示に耐え得るカルテ記載になっていないことがあることから「診療録等の記載マニュアル」を全医師に配布し医局会で周知した。また、「診療録管理体制加算」の施設基準の算定条件を満たすために、退院サマリーの作成が重要であることも合わせて周知した。
- ・警察等からの依頼で検体を提供する場合の同意と金額が曖昧だったため、検討をした。
- ・質的点検項目を見直し、入院診療計画書に 1 項目追加、退院サマリーは 1 項目削除した。
- ・統計資料の提示に関しては、項目を決め半期に一度前年対比を分かりやすくグラフ化して提示した。

■ コンプライアンス委員会

1. 目的

法令、道徳、社会規範、倫理、内部規定について公正かつ公平な業務遂行を行うために、全職員がコンプライアンスに関する認識を深め、共通に遵守することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回	開催日	内容
1	平成27年7月13日	・個人情報取扱台帳の提出について ・行動規範の自己点検に使用する「自己点検シート」について ・「職場環境に関するアンケート調査」について ・不当要求防止責任者講習会の受講について
2	平成27年9月25日	・平成27年度コンプライアンス・プログラムの進捗状況について ・農水省常例検査の検査指摘事項に関する対応について
3	平成27年12月21日	・マイナンバー制度の導入に伴う関連諸規程等の制定及び改正について ・自己点検シートによる行動規範の自己点検結果について ・職場環境に関するアンケート調査の結果について ・農水省常例検査の検査指摘事項に関する対応について ・職員に関する懲戒の決定について ・個人情報等に関わる職員周知について
4	平成28年3月24日	・平成28年度コンプライアンス・プログラムについて ・平成27年度コンプライアンスに関する取り組み状況について

3. 平成27年度の活動要約

「自己点検シート」の活用により、職員自身の振り返りを促すとともに、周知活動を繰り返し実施し、コンプライアンス遵守の環境を整備した。また、近年のパワーハラスメント問題への対応を進めるため、「職場環境に関するアンケート」を実施した。

平成28年1月から利用が開始されるマイナンバー制度の円滑な導入に向け、特定個人情報の管理等について職員周知を実施した。

■ 在宅療養支援委員会

1. 目的

患者とその家族が安心して在宅療養に移行できるシステムを検討する。

2. 平成 27 年度活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 27 日	・平成 27 年度委員会規程・名簿・目標・活動計画提示 ・平成 26 年度年報提示 ・「訪問看護指示書作成の流れ」について ・在宅患者訪問薬剤管理指導料について ・退院支援事例検討について
2	平成 27 年 5 月 22 日	・個人目標の確認 ・「訪問看護指示書作成の流れ」について ・在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導について ・退院支援事例検討
3	平成 27 年 6 月 22 日	・「退院支援の進め方」について ・退院支援事例検討 ・在宅委員会マニュアル一部差し替え
4	平成 27 年 7 月 24 日	・訪問看護利用者医療材料払い出しについて ・在宅患者訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導の対象者について ・「身元保証のない方の医療提供」
5	平成 27 年 8 月 28 日	・ビギナー研修「退院支援」
6	平成 27 年 9 月 25 日	・個人目標中間評価提出
7	平成 27 年 10 月 30 日	・回復期病棟入所の流れについて
8	平成 27 年 11 月 27 日	・一般床から回復期病棟への流れについて ・「退院困難リスク評価用紙」について ・アドバンスケアプランニングとエンドオブディスカッションの研修報告
9	平成 27 年 12 月 25 日	・次年度の委員会運営について ・マニュアル差し替え「回復期病棟対象者」「一般床から回復期への流れについて」 ・「訪問看護利用の手順」読み合わせ
10	平成 28 年 1 月 22 日	・マニュアル差し替え「入院時における居宅・訪問看護への連絡方法」「訪問看護利用の手順」「訪問看護指示書について」 ・『療養病床入所の流れ』の読み合わせ ・個人目標最終評価提出
11	平成 28 年 2 月 26 日	・療養病床入所に伴う案内 ・退院指導パンフレット作成・修正担当部署検討 ・平成 27 年度委員会目標評価
12	平成 28 年 3 月 24 日	・平成 28 年度目標・日程・活動計画の検討 ・診療報酬改定に伴う退院支援の流れ変更点の案内

3. 活動のまとめ

- ・毎月、訪問看護（リハビリ）・居宅より退院後の経過報告により連携で良かったこと、不足しておいたことを共有した。
- ・毎月、退院困難患者の情報を共有するとともに、退院支援カンファレンスの各病棟の取組み状況を報告した。
- ・退院支援事例検討により退院困難事例の支援を振り返った。
- ・退院支援の仕組みの見直しや在宅支援委療養委員会マニュアルの見直しを行った。

■ アグリス・ヘルスネット検討委員会

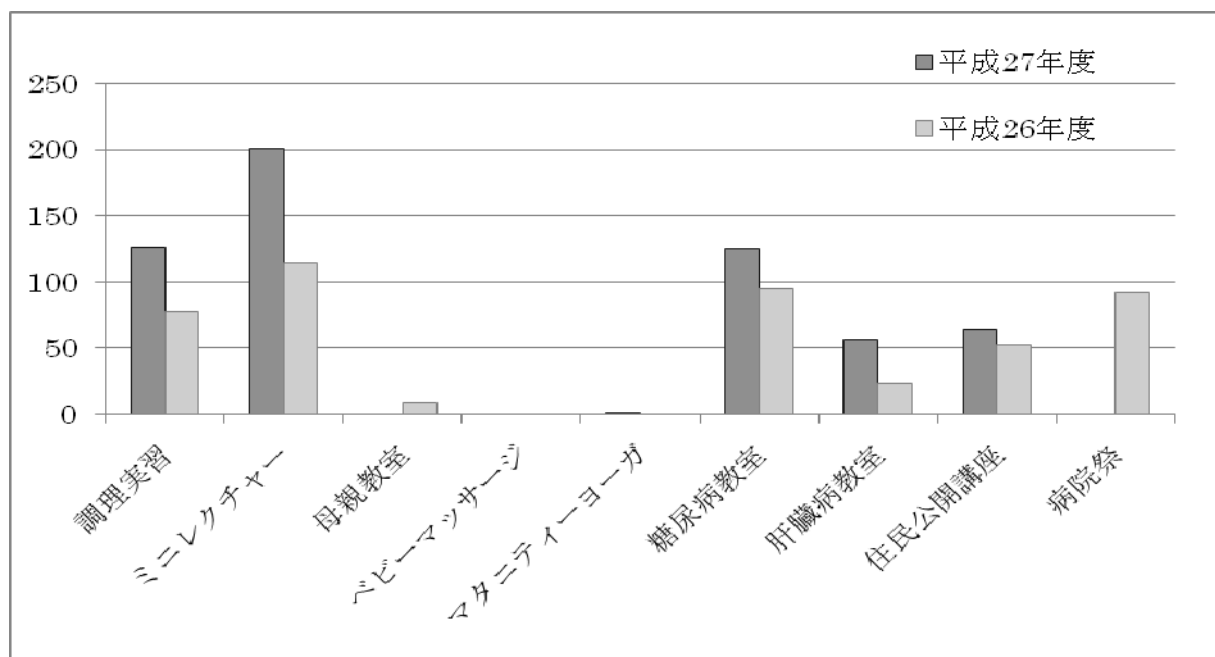
1. 目的

J Aあいち知多組合員およびその家族の健康を守り、安心して暮らせる地域社会づくりに貢献することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容（J Aあいち知多ポイントカード ポイント付与件数）

単位:件

月 ポイント付与項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調理実習	8	9	10	13	10	12	15	11	14	8	5	11	126
ミニレクチャー	16	20	21	9	12	17	17	23	21	8	21	16	201
母親教室													0
ベビーマッサージ													0
マタニティーヨーガ										1			1
糖尿病教室	18		17		13		28		26		23		125
肝臓病教室		5		11		9		10		10		11	56
住民公開講座				29							35		64
計	42	34	48	62	35	38	60	44	61	27	84	38	573



3. 平成27年度の活動要約

- ・当院で行う各種健康教室などでのポイント付与は継続し、今年度は新たにマタニティヨーガもポイント対象に加え利用拡大を図り、J Aあいち知多組合員の支援を行った。年間のポイント付与総件数は573件となり、前年比123.7% (+110件) となった。
また、人間ドック受診時にJ Aポイントカードを持参した方への割引件数は485件と、こちらも前年と比べ増加 (+69件) となった。当院での利用が定着してきたと考えられる。
- ・地域への貢献の点では美浜町と武豊町産業まつりへJ Aあいち知多健康づくり一環として参加し、血糖、骨密度測定や認知症診断、健康相談、栄養相談などを実施し、地域住民の健康への意識醸成に寄与した。

■ 人事考課制度推進委員会

1. 目的

人事考課制度の運用面に関する課題・問題点を協議・検討し、制度の円滑な運用を図ることを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年5月21日	・平成27年度人事考課者・被考課者について ・人事考課結果の処遇反映方法の見直しについて
2	平成28年2月15日	・平成26年度人事考課結果について ・平成27年度人事考課・平成28年度目標課題設定スケジュールについて

3. 平成27年度の活動要約

人事考課及び目標課題の設定を円滑に行えるよう、制度の周知を実施した。また、人事考課結果の処遇反映方法の見直しについて、職員周知を実施した。

■ クリニカルパス委員会

1. 目的

- ①パスの運用方式を統一し、本来のクリニカルパスの利点である医療の効率化・均質化をより一層高める。
- ②パスの適応疾患を拡大し、普及に努める事で病院全体の医療レベルの向上を図る。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月23日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・バリエーション編集欄の活用について ・委員会規程の見直し
2	平成27年5月28日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・パスメンバーの確認 ・アウトカムの活用について ・バリエーション編集欄の活用について ・パス終了のマニュアルと今後の運用について ・PDCAサイクル実践日と方法について
3	平成27年6月25日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・パスメンバーの確認 ・アウトカムの活用について ・PDCAサイクル実践日と方法について ・クリニカルパス勉強会案内文について
4	平成27年7月23日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクル実践日について ・患者用パス作成について ・ロキソプロフェン錠 60mg への切替について ・クリニカルパス勉強会実施（17：30～） テーマ「クリニカルパスの概要について」

回数	開催日	内容
5	平成 27 年 8 月 27 日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクル実践日について ・患者用パス作成について ・パス分析機能オプションについて ・パス離脱時の運用について
6	平成 27 年 9 月 24 日	・パスデータ管理について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクル実践日について ・患者用パス作成について ・パス分析機能オプションについて ・パス離脱時の運用について
7	平成 27 年 10 月 26 日	・パスデータ管理について ・パス公開中件数について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクル実践日について ・患者用パス作成について
8	平成 27 年 11 月 20 日	・パスデータ管理について ・パス公開中件数について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクル実践（17：30～）
9	平成 27 年 12 月 24 日	・パスデータ管理について ・パス公開中件数について ・クリニカルパス改善報告・新規クリニカルパスについて ・PDCAサイクルの実行後のクリニカルパス ・パス中止運用について ・クリニカルパスバリエーション入力方法について
10	平成 28 年 1 月 28 日	・パスデータ管理について ・パス公開中件数について ・パス作成中の経過報告 ・パス中止運用について ・パスの削除、中止、終了の入力方法 ・パスメンバーの変更について

回数	開催日	内容
1 1	平成 28 年 2 月 25 日	・パスデータ管理について ・手術件数、入院収入、入院患者数について ・パス公開中件数について ・内科パス追加の報告 ・BOM マスタ購入について ・パス中止運用について ・パス有効終了日の延長について ・平成 28 年度メンバー変更の確認
1 2	平成 28 年 3 月 24 日	・パスデータ管理について ・手術件数、入院収入、入院患者数について ・パス公開中件数について ・NECV について ・BOM と NECV 導入時のパス作業について ・パス中止運用について ・診療報酬改定後のクリニカルパスへの影響について ・委員会規程の見直し、委員の変更について

3. 平成 27 年度の活動要約

7 月に勉強会を開催した。(対象「全職種」、テーマ「クリニカルパスの概要について」)

小児科、皮膚科のパスも起動することができた。

1 1 月に PDCA サイクルを実施した。(対象パス①細菌性肺炎・～中等症 (セフトリ Na) ②急性腎盂腎炎③大腸切除術) 看護師主体となりバリエーションデータの抽出等事前準備を行い、PDCA の Check (パス検討・評価)、Plan (修正) を他職種にて見直すことができた。

MegaOak HR パス分析ソフト (NECV)、Basic Outcome Master (BOM) 導入に向け、目的・システム機能の活用方法を理解し、観察項目と看護ケア項目の紐づけ作業が重要であると認識できた。

今年度は当院クリニカルパスがまた一歩進んだ年となった。

■ NST委員会

1. 目的

知多厚生病院に関わるすべての患者を対象として、栄養障害のある患者をもれなく抽出し、統一した基準にて栄養管理を行う。

2. 27年度の活動内容

【定期開催】偶数月第3木曜日 16:30～

回数	開催日	内容
1	平成27年4月16日	・委員交代について ・ラコール フレーバー中止のお知らせ ・NST加算、INBODY算定状況の報告
2	平成27年6月18日	・NSTハンドブック 更新について ・知多半島摂食嚥下パス ・NST加算、INBODY算定状況の報告
3	平成27年8月20日	・NST新規専任者 ・外部研修生の受け入れについて ・MUSTスコアの運用について ・胃瘻連携手帳の運用手順について ・知多半島摂食嚥下連絡表改訂について ・NST加算、INBODY算定状況の報告
4	平成27年10月15日	・委員交代について ・褥瘡患者のNST介入について ・NST加算、INBODY算定状況の報告
5	平成27年12月17日	・TPNルート変更について ・全回診について ・NST介入基準について ・NST加算、INBODY算定状況の報告
6	平成28年2月18日	・診療報酬改定について ・来年度の勉強会について ・NST加算、INBODY算定状況の報告

【院内勉強会】 奇数月 第3木曜日 17:30～18:30

回数	開催日	内容 (担当者)	参加人数
1	平成27年5月21日	症例から栄養の基礎を学ぶ (外科 村元)	28
2	平成27年7月16日	輸液について (薬剤部 小出) 血液データによる栄養評価 (検査科 山本)	21
3	平成27年9月17日	がんについて (栄養科 木島)	12
4	平成27年11月19日	病態別栄養剤 (5階 田中) 栄養介入の基準 (6階 沖田・榊原)	16
5	平成28年1月21日	便秘と治療薬・宿便 (2階 知崎) 健康的ダイエット (3階 吉田)	18
6	平成28年3月17日	PTからみたNST (PT 中村) 腸内フローラ (4階 上原)	21

【ランチミーティング(勉強会)】 毎月第1・3木曜日 12:30～13:15

回数	開催日	内容	参加人数
1	平成27年4月2日	パレプラス 輸液について	22
2	平成27年4月16日	経腸栄養の基礎	30
2	平成27年5月7日	抵抗活力アミノ酸 シスチン&テアニン	24
3	平成27年5月21日	コラーゲンペプチドと褥瘡	21
4	平成27年6月7日	コラーゲンペプチドと創傷治癒	20
5	平成27年6月18日	リパクレオンについて	26
6	平成27年7月2日	腸内環境とオリゴ糖	28
7	平成27年7月16日	誤嚥性肺炎と半夏厚朴湯	23
9	平成27年8月20日	急性期栄養管理～最近の話題～	28
10	平成27年9月3日	栄養補助食品 クリミールについて	26
11	平成27年9月17日	アルギニンと創傷治癒について	21
11	平成27年10月1日	嚥下調整食学会分類 2013～概要と運用～	22
12	平成27年10月15日	高精度体成分分析装置 (InBodyS10) と栄養評価	28
13	平成27年11月5日	栄養剤と感染	19
14	平成27年11月19日	嚥下機能とプロセスリードモデル	27
15	平成28年12月18日	がんとONS (経口的栄養補給)	30
16	平成28年1月21日	アルギニンについて	22
17	平成28年2月4日	リハビリ栄養について	26
18	平成28年3月21日	ラックビーと腸内環境	31
19	平成28年3月17日	グルタミンについて	30

【病棟回診】毎週木曜日 13：30～（療養型は毎月1回第2木曜日）

【学会発表】

平成27年6月27日 第14回 知多半島栄養サポートフォーラム

「脂質構成と疾患について」演者；小出賢吾

平成27年7月24～26日 第16回 アジア静脈経腸栄養学会

「A New Jejunostomy Method with much less Leakage of Intestinal Fluid, named “Roux-Y jejunostomy”」演者；村元雅之

平成27年7月25・26日 第9回 日本静脈経腸栄養学会東海支部学術集会

「ロイシン高配合栄養剤を用いた高齢リハビリ患者の栄養介入効果の検討」

演者；木島綾乃

平成27年10月22・23日 第64回 日本農村医学会学術総会

「腸液漏れの少ない空腸瘻造設術」演者；村元雅之

平成28年2月25・26日 第31回 日本静脈経腸栄養学会学術集会

「胃癌術後の周術期体重および筋肉量は不顕性浮腫により高く誤認されることが多い- 体組成測定による検討-」演者；村元雅之

「ロイシン高配合栄養剤を用いた高齢リハビリ患者の栄養介入効果の検討」

演者；木島綾乃

3. 平成27年度の活動要約

定期委員会、ランチミーティング、NST 勉強会は上記の通り開催し、院内全体の栄養に関する知識の向上を図った。病棟回診については以下の手順によりNSTメンバーが栄養不良患者の抽出をし、チーム全体で栄養管理を行なった。また、学会参加や発表を積極的に行い、院内だけでなく院外へも栄養に関する新たな情報を発信し貢献できるよう努めている。

- (1) 栄養スクリーニング
- (2) 栄養アセスメント、身体計測(INBODY 体組成測定)
- (3) 病棟回診
- (4) 栄養治療提案
- (5) 栄養治療計画書兼報告書の作成、患者または家族への説明

栄養サポートチーム加算の算定状況については下記の通りである。

InBody(体液量測定)の実施状況については以下の通りである。

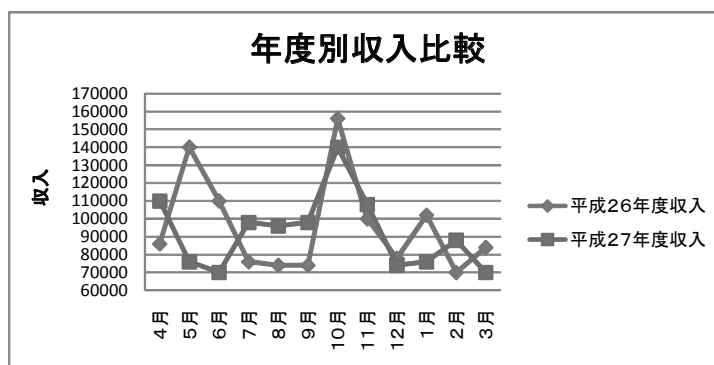
平成27年度統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数(人)	31	24	35	31	24	25	28	28	26	20	24	25	321
総件数(件)	80	50	52	72	68	63	81	69	52	51	61	67	766
総点数(点)	16000	10000	10400	14400	13600	12600	16200	13800	10400	10200	12200	13400	153200
総金額(円)	160000	100000	104000	144000	136000	126000	162000	138000	104000	102000	122000	134000	1532000

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回復期人数(人)	9	5	8	8	8	7	4	6	8	5	5	9	82
回復期件数(件)	25	12	17	23	20	14	11	15	15	13	17	32	214
回復期点数(点)	5000	2400	3400	4600	4000	2800	2200	3000	3000	2600	3400	6400	42800
回復期金額(円)	50000	24000	34000	46000	40000	28000	22000	30000	30000	26000	34000	64000	428000

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数(人)	22	19	29	26	16	18	24	22	18	15	19	16	244
実件数(件)	55	38	35	49	48	49	70	54	37	38	44	35	552
実点数(点)	11000	7600	7000	9800	9600	9800	14000	10800	7400	7600	8800	7000	110400
実金額(円)	110000	76000	70000	98000	96000	98000	140000	108000	74000	76000	88000	70000	1104000

※1回＝ 200 点
※1点＝ 10 円



平成27年度統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数(人)	13	13	14	18	10	6	6	3	2	7	4	6	102
総件数(件)	17	14	14	23	11	6	6	3	2	7	4	8	115
総点数(点)	996	834	840	1350	654	360	360	180	120	420	240	468	6822
総金額	9960	8340	8400	13500	6540	3600	3600	1800	1200	4200	2400	4680	68220

出来高件数(件)	0	0	2	2	1	0	2	0	0	1	1	0	9
出来高点数(点)	0	0	120	120	60	0	120	0	0	60	60	0	540
出来高金額(円)	0	0	1200	1200	600	0	1200	0	0	600	600	0	5400

包括金額	9960	8340	7200	12300	5940	3600	2400	1800	1200	3600	1800	4680	62820
------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

※点数:体液量測定2回目より90/100に減算
※1回＝60点 2回目以降＝54点

■ 糖尿病教育委員会

1. 目的

糖尿病教室および糖尿病教育入院など、患者への糖尿病教育の検討、糖尿病治療に関する業務全般の検討および定期制な運営の推進を任務とする。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 18 日	・第 134 回糖尿病教室 参加者 34 名 - 糖尿病について① 丹村医師 - 検査について 杉浦検査技師 - 食事療法について① 増田管理栄養士
2	平成 27 年 5 月 18 日	・第 134 回糖尿病教室についての報告 ・第 135 回糖尿病教室開催の打ち合わせ *メーカー勉強会 ・ビデュロンについて：アストラゼンカ ・ジャディアンスについて：イーライリリー ・ザファテックについて：武田薬品 *委員会規約の見直し *血糖測定器（POCT 器）について *休日の SMBG・インスリン指導について *CSII について *フットケア・透析予防活動報告 *透析予防患者に渡すパンフレット作成について
3	平成 27 年 6 月 20 日	・第 135 回糖尿病教室 参加者 35 名 - 食事会「野菜をおいしく食べられるレシピ」
4	平成 27 年 7 月 22 日	・第 135 回糖尿病教室についての報告 ・第 136 回糖尿病教室開催の打ち合わせ *メーカー勉強会 ・メグルロについて：大日本住友 ・インスリングルキソン BS 注射剤について：イーライリリー *当院 HP 掲載（糖尿病教室）について *糖尿病薬の見直し *POCT 器について *フットケア・透析予防活動報告
5	平成 27 年 8 月 1 日	・第 136 回糖尿病教室 参加者 24 名 - 歯科について みはま歯科クリニック 榊原歯科医 - 合併症（糖尿病と認知症）について 丹村医師 - 食事療法について 岸本管理栄養士

回	開催日	内容
6	平成 27 年 9 月 14 日	・ 第 136 回糖尿病教室についての報告 ・ 第 137 回糖尿病教室開催の打ち合わせ * メーカー勉強会 ・ ランタス XP ソスター：サノフィ ・ トルシシティ皮下注 0.5mg アテオス：イーライリリー * SGLT 阻害剤採用について * ランタス XP ソスターについて * POCT 器の希望台数について * グルテストセンサーの注意改訂について * 後発品薬剤の切替えについて * フットケア・透析予防活動報告
7	平成 27 年 10 月 3 日	・ 第 137 回糖尿病教室 参加者 36 名 - 糖尿病について② 丹村医師 - 運動療法について 栗山リハビリ技士
8	平成 27 年 11 月 10 日	・ 第 137 回糖尿病教室についての報告 ・ 第 138 回糖尿病教室開催の打ち合わせ * メーカー勉強会 ・ エクメット錠について：ノバルティスファーマ ・ マリゼブ錠について：MSD * CGM の予約日・時間変更について * H29 年度・30 年度日本糖尿病学会参加について * 透析予防パンフレットについて * 糖尿病教育入院のカリキュラム変更 * フットケア・透析予防活動報告
9	平成 27 年 12 月 20 日	・ 第 138 回糖尿病教室 参加者 47 名 - 食事会「低 GI 食品を活用しよう！」
10	平成 28 年 1 月 18 日	・ 第 138 回糖尿病教室について報告 ・ 第 139 回糖尿病教室開催の打ち合わせ * メーカー勉強会 ・ ライゾテック配合剤：ノボ ・ ENPA-REG-OUTCOME 試験：イーライリリー * 新薬採用について * 抗 GAD 交代の検査方法変更について * 血糖プロフィールについて * 後発品薬について * フットケア・透析予防活動報告

回	開催日	内容
11	平成 28 年 2 月 20 日	・ 第 139 回糖尿病教室 参加者 36 名 - 糖尿病について 梶 昭太（研修医） - フットケアについて 金野・深谷看護師 - 薬物療法について 末吉薬剤師
12	平成 28 年 3 月 14 日	・ 第 139 回糖尿病教室について報告 ・ 第 140 回糖尿病教室開催の打ち合わせ * ブドウ糖オーダーについて * 後発品薬の切替えについて * 糖尿病教室の運営について * 糖尿病教室のパンフレットについて * 糖尿病教室のポスター掲示について * POCT 器と電子カルテの操作について * H28 年度院内勉強会について「薬剤」 * フットケア・透析予防活動報告

3. 平成 27 年度の活動要約

- 1) 糖尿病教室の企画・運営について
- 2) 委員や職員への糖尿病に対する知識向上
- 3) 「知多糖尿病チーム医療研究会」や外部の研修会への参加
- 4) 委員会内での勉強会
- 5) 委員会主催の院内勉強会：インスリン・内服薬について
- 6) 糖尿病教室参加者を増やすためのポスター作成

4. 次年度の課題

- 1) 糖尿病教室の参加人数が、減少してきている現状がある。
今後多くの方に参加して頂けるような、内容を検討していく。
- 2) 現在インスリン製剤や G L P - 1 製剤、内服薬の後発品など、さまざまな薬品が当院でも出回り、作用基準や副作用など理解していかなければ、リスクへ繋がる。また、副作用やリスクを起こした時の対処方法が理解できていなければ大きな事故へ繋がることも予見されるため、次年度は委員会主催でコレラを中心に勉強会を開催していきたい。

■ 肝臓病教育委員会

1. 目的

慢性疾患である肝臓病（慢性肝炎、肝硬変など）の知識の啓蒙活動を通して地域の患者様の肝臓病の療養に寄与することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月16日	・平成27年度の日程及び目標の確認 ・第68回肝臓病教室開催の打ち合わせ
2	平成27年5月16日	・第68回肝臓病教室 1) アルコールと肝臓病 高橋佳嗣
3	平成27年6月18日	・第68回肝臓病教室の報告 ・第69回肝臓病教室開催の打ち合わせ
4	平成27年7月18日	・第69回肝臓病教室 1) 血液検査結果の読み方 久保田勝俊 2) 慢性肝炎について 高橋佳嗣
5	平成27年9月3日	・第69回肝臓病教室の報告 ・第70回肝臓病教室開催の打ち合わせ
6	平成27年9月19日	・第70回肝臓病教室 1) 肝臓病のお薬について 久田亜紗美 2) インターフェロン療法について 高橋佳嗣
7	平成27年10月22日	・第70回肝臓病教室の報告 ・第71回肝臓病教室開催の打ち合わせ
8	平成27年11月21日	・第71回肝臓病教室 1) 肝臓病の食事療法について 深見沙織 2) 肝硬変について 高橋佳嗣
9	平成27年12月17日	・第71回肝臓病教室の報告 ・第72回肝臓病教室開催の打ち合わせ
10	平成28年1月16日	・第72回肝臓病教室 1) 日常生活における注意点 原田/佐久間 2) 肝臓癌について 高橋佳嗣
11	平成28年2月18日	・第72回肝臓病教室の報告 ・第73回肝臓病教室開催の打ち合わせ
12	平成28年3月19日	・第73回肝臓病教室 1) ピロリ菌について 西崎医師

3. 平成27年度の活動要約

- 1) 肝臓病教室の企画、運営。
- 2) 近年、教室への参加人数が減少していたため、広報活動に重点を置く取り組みを実施した。

薬剤部窓口や中央処置室でのパンフレットの配布、教室当日のアナウンスの変更など実施し、初めて参加する方が増えてきた。

■ 摂食・嚥下障害委員会

1. 目的

摂食・嚥下障害に対して各職種がそれぞれの専門性を活かし、正しい知識・技術を持って質の高いチームアプローチを行うことを目的とする。

2. 平成 27 年度の活動内容

回	開催日	委員会 16 : 00～	看護部のみ
1	平成 27 年 4 月 1 日	平成 27 年度計画、目標	
2	平成 27 年 5 月 12 日		マニュアル修正の担当決め
3	平成 27 年 6 月 2 日		入院時摂食嚥下評価シート 1 (佐野)
4	平成 27 年 7 月 7 日		入院時摂食嚥下評価シート 2 (牧野)
5	平成 27 年 8 月 4 日	摂食・嚥下機能の評価と検査・直接訓練/間接訓練 (飯味)	
6	平成 27 年 9 月 1 日		嚥下評価手順 (森林) 適切な食事摂取・支援 (森林)
7	平成 27 年 10 月 6 日	嚥下段階食 (山本) 摂食嚥下障害委員会規定 (白井)	
8	平成 27 年 11 月 10 日		摂食機能療法の運用 (小西)
9	平成 27 年 12 月 1 日		動揺歯・残存歯の確認表 (田上)
10	平成 28 年 1 月 5 日		入院患者歯科往診マニュアル (大和) 入院患者歯科往診一覧 (中野) 看護補助職による食事・口腔ケア介助について (中野)
11	平成 28 年 2 月 2 日	平成 27 年度反省	摂食嚥下障害に関する症状とアセスメント (齊藤)

3. 平成 27 年度の活動要約

- ・摂食機能療法算定：2,752 回 5,091,200 円
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算（2,500 点）17 件
- ・摂食・嚥下障害委員会の規定、マニュアルについて担当を決めて見直し修正を行った。
- ・昼食ラウンドについても継続して実施し、実際の食事場面において食形態、姿勢調整、介助方法などについて検討、指導など行った。

■ 緩和ケア委員会

1. 目的

がんの初期段階から関わり、診断、治療、在宅医療などあらゆる場面で標準化した、かつ最適と思われる緩和ケアを提供し、主治医・その他の医療スタッフをサポートしていく。また院内の緩和ケア普及に努めるとともに全体の医療レベルの向上を図る。

2. 平成 27 年度の活動内容

(※平成 27 年度より、委員会開催は 2 ヶ月に 1 回へ変更)

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 27 日	・緩和ケアチーム回診 (4 回/月) ・平成 27 年度緩和ケア委員会目標・規約について
	平成 27 年 5 月	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月)
2	平成 27 年 6 月 22 日	・緩和ケアチーム回診 (5 回/月) ・6 月 日本緩和医療学会参加 (大井)
	平成 27 年 7 月	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月)
3	平成 27 年 8 月 24 日	・緩和ケアチーム回診 (5 回/月)
	平成 27 年 9 月	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月)
4	平成 27 年 10 月 27 日	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月) ・緩和ケア委員会規程変更について ・死後の処置時のクレンジング剤の選定について ・日本緩和医療薬学会参加 (大平)
	平成 27 年 11 月	・緩和ケアチーム回診 (4 回/月) ・緩和ケア勉強会 (塩野義製薬共催) (12 月 9 日) 「エンドオブライフケアの実践 ～在宅ホスピス・ケアの現場から～」 講師：いきいき在宅クリニック院長 中島一光先生 参加人数：48 名
5	平成 27 年 12 月 28 日	・緩和ケアチーム回診 (4 回/月)
	平成 28 年 1 月	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月)
6	平成 28 年 2 月 22 日	・緩和ケアチーム回診 (5 回/月)
	平成 28 年 3 月	・緩和ケアチーム回診 (3 回/月) ・緩和ケア研修会の案内：3/26 AGPAL 研究会 1 名参加

3. 平成 27 年度の活動要約

- ・緩和ケアチームの回診は医師、薬剤師、がん性疼痛看護認定看護師が毎週月曜日の 13 時 30 分から実施している。平成 27 年度の緩和ケアチームへの依頼は 53 名で、昨年度より 17 名増加した。主な疾患は消化管系がん、乳がん、肺癌、骨転移などであった。緩和ケアチームへの依頼は疼痛管理が主であった。
- ・院内スタッフへの研修活動として、外部講師による勉強会を開催し、アンケート結果から、48 名中 37 名が分かりやすく良い講義だったという評価を受けた。
今年度の緩和ケア勉強会に医師の参加が 3～4 名あり、緩和ケアの認知度も増加していると感じられた。
- ・がん性痛看護認定看護師→日本緩和医療学会に参加
- ・薬剤師→日本緩和医療薬学会、AGPAL 研究会に参加
- ・緩和ケア委員会の看護部内で、院内勉強会を開催した。
オピオイド、レスキュー薬、倦怠感を各委員がプレゼンテーション形式で行い、最終的には訪問看護の症例に対し、事例検討を行った。

■ 化学療法委員会

1. 目的

- ①化学療法のレジメンの妥当性を検証・承認して、登録する
- ②化学療法に関する院内取り決め事項を検討する
- ③化学療法注射せんの取り扱い方法の検討
- ④化学療法で取り扱う医薬品情報の伝達

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 7 日	・新規申請レジメンの検証、及び承認（0 件） ・エルプラットについて
2	平成 27 年 6 月 2 日	・新規申請レジメンの検証、及び承認（1 件）
3	平成 27 年 7 月 7 日	・ワンタキソテールについて
4	平成 27 年 8 月 4 日	・新規申請レジメンの検証、及び承認（2 件） ・壊死性抗がん剤投与レジメンの修正
5	平成 27 年 9 月 1 日	・新規申請レジメンの検証、及び承認（1 件） ・エルプラットの神経毒性について
6	平成 27 年 10 月 6 日	・外来化学療法室業務マニュアル改訂について
7	平成 27 年 11 月 10 日	・アレセンサについて ・ゾメタ注のレジメン運用廃止について
8	平成 27 年 12 月 1 日	・ポート穿刺針の変更について
9	平成 28 年 1 月 5 日	・暴露対策ガイドラインについて
10	平成 28 年 2 月 2 日	・新規申請レジメンの検証、及び承認（3 件） ・3M マスクにくっつくアイガード
11	平成 28 年 3 月 1 日	・当院の暴露対策について

3. 平成 27 年度の活動要約

- ア) 新規申請レジメンは 7 件あり、その検証及び承認を実施した。
また登録済レジメンの処方内容などの検証及び変更も行った。
- イ) 壊死性抗がん剤等一部抗がん剤の投与指示について改訂
- ウ) がん薬物療法における暴露対策 の改訂

■ スキンケア委員会

1. 目的

目標（１）根拠のあるポジショニングを実践する。

（２）在宅の現状を踏まえた退院指導を実施する。

2. 平成 27 年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成 27 年 4 月 18 日	・ 委員会メンバーの紹介 ・ 平成 26 年度のデータ報告 ・ 今年度の目標と活動計画 ・ 褥瘡患者報告 ※退院指導困難事例がある場合には委員会の中で掲示する。
2	平成 27 年 5 月 18 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告
3	平成 27 年 6 月 20 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告
4	平成 27 年 7 月 22 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告 ※スキンケア NST 事例検討（7 月 9 日）
5	平成 27 年 8 月 1 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告 ※ 8 月末褥瘡研修会の案内状送付
6	平成 27 年 9 月 14 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 日本褥瘡学会トピックス報告 ・ 褥瘡研修会打ち合せ ※創傷ケアコース 9 月より開始
7	平成 27 年 10 月 3 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 褥瘡研修会打ち合せ
8	平成 27 年 11 月 10 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 褥瘡研修会の報告・反省 ※第 18 回褥瘡研修会（11 月 7 日）
9	平成 27 年 12 月 20 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告
10	平成 28 年 1 月 18 日	・ 褥瘡患者報告 ・ 現状報告

回数	開催日	内容
11	平成 28 年 2 月 20 日	・褥瘡患者報告 ・現状報告 ※ 2 月第 2 火曜日褥瘡研究会（名古屋観光ホテル）
12	平成 28 年 3 月 14 日	・褥瘡患者報告 ・1 年間の評価、反省、次年度への課題

3. 平成 27 年度の活動要約

（１）根拠のあるポジショニングを実践する。

- ・院内の褥瘡発生率は 0.59% で昨年と同様に 1 % 未満を維持することはできた。
- ・褥瘡発生状況は、入院時の持ち込み褥瘡は 39 名 53%、院内発生褥瘡は 34 名 47% であった。また、院内発生で重度褥瘡は 73 名中 5 名で 6.8% であった。

入院患者の多くは高齢者であり、褥瘡発生リスクは高い状況にあるため高機能の体圧分散寝具エアマットの使用は必要不可欠であり、優先度を考え選択使用する能力が求められる。

エアマットを効率的かつ積極的な活用と、適切なポジショニングの実践が重要であり、褥瘡回診時に委員会メンバーで確認共有するようにした。

エアマットの使用状況は、入院患者の状況によって左右されるが使用率は、ほぼ 90% であった。今後も適切な使用とメンテナンス、充足状況など継続し調査をしていく必要がある。

- ・体圧分散用具のポジショニングピローは、老朽化でへたりが目立つものがあるため、次年度は、ONE・DAY 調査で充足状況と適正使用の確認を行い、新規購入を考えた。
- ・院内発生褥瘡は、いずれも前年度と大きな変化はなく重度褥瘡へ移行も少ないことから、褥瘡予防を意識し予防ケアが実践できたと考える。また、今年度よりスキンテアや医療関連機器圧迫創傷についてのカウントを開始した。

褥瘡学会のベストプラクティス等を参照し、当院のケアマニュアル作成の取り組みを行った。

今後はマニュアルを活用し褥瘡と同様に入院時の持ち込みと院内発生状況を把握し、早期介入と適切な治療ケアおよび再発防止に向けた退院指導ができるよう取り組む予定である。

（２）在宅の現状を踏まえた退院指導を実施する。

- ・前年度から引き続き退院指導についてを目標としたが、実際に退院困難事例など委員会で検討するケースはなかった。

- ・在宅や施設で使用するマットレスの選択やポジショニングについての相談確認など頻回にあり退院後の生活環境を整える必要があるという意識はできていた。この地域は高齢者の独居生活や老々介護が減少することはないため、早期から退院を見据えた関わりを実践する中に、褥瘡予防対策を忘れることなく実行していく必要がある。入院時に体圧分散寝具（エアマットなど）を使用し予防しているにもかかわらず、退院後に予防ケアが継続されず褥瘡発生を起こしているケースがある。高齢者の生活をイメージし何が必要か、なぜそれが必要かを考え、情報発信ができるよう今後も委員会メンバーで検討していきたい。

4. 勉強会の開催

目的：対象となる患者に質の高い創傷（褥瘡）ケアが提供できるよう知識・技術・指導について習得する。

※当院看護師受講者：ラダーレベルⅡ以上（受講中も含む）

創傷分野の知識・技術の習得を希望する方。

他施設受講者：卒３年目以上で日常的に創傷ケアを実践され創傷分野に興味がある方。

月日	項目	内容	到達目標	講師
① 9月29日	皮膚の解剖生理創傷治癒理論	・皮膚の構造・生理機能 ・創傷の種類（慢性・急性創傷） ・褥瘡発生のメカニズム	・褥瘡ケアに必要な皮膚の解剖生理を理解する。 ・創傷の種類・治癒過程を理解する。 ・褥瘡発生のメカニズムを理解し実践に活かす。	皮膚科医師 伊藤
② 10月15日	褥瘡予防基礎知識	褥瘡リスクアセスメント(OH・BS)	褥瘡発生の危険要因をアセスメントすることができ適切なケアに結びつけることができる。	外科医師 杉戸
③ 11月12日	除圧減圧ケア	ポジショニング(演習)	・患者に必要なケア方法が選択できる。 ・安全・安楽なポジショニングが実践できる。	近藤
④ 11月26日	脆弱な皮膚の管理 スキンケア	・脆弱な皮膚の管理とスキンケア ・具体的なスキンケア方法(演習)	スキンケアの基本を理解し脆弱な皮膚のケアを実践することができる。	宮本
⑤ 12月15日	失禁ケア	失禁の特徴と具体的なケア方法	便失禁、尿失禁の特徴を理解し、患者に必要なケアが実践できる。	近藤

⑥ 1月7日	栄養管理	栄養アセスメントと治療の実際	・創傷治癒に影響する因子について学ぶ。 ・栄養管理の必要性を理解し継続的な視点で評価ができる。	宮本
⑦ 1月28日	創傷アセスメント	創傷アセスメント	・DESIGN-Rで創傷局所アセスメントができる。 ・患者を総合的にアセスメントすることができる。	外科医師 村元 管理栄養士 木島
⑧ 2月4日	外用薬ドレッシング材	外用薬とドレッシング材について	軟膏基剤と薬効成分・ドレッシング材の特徴を理解し適切な使用ができる。	薬剤師 石川 近藤
⑨ 2月18日	事例検討(GW)	褥瘡発生リスクのある患者の予防ケア・治療ケア	患者を総合的に捉え、必要なケア計画を立案し指導することができるようになる。	近藤 宮本
⑩ 3月15日	創傷ケアコース事例発表および終了式			

※コース参加者は全課程を受講することが条件になります。(教育研修委員会より受講書あり)

【平成27年度褥瘡報告】

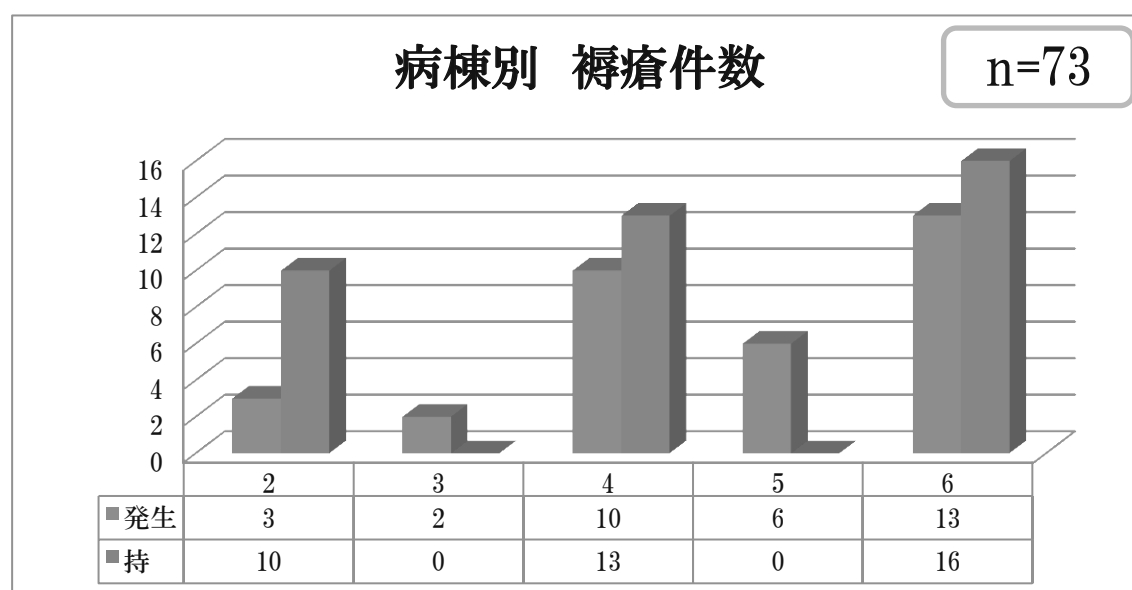
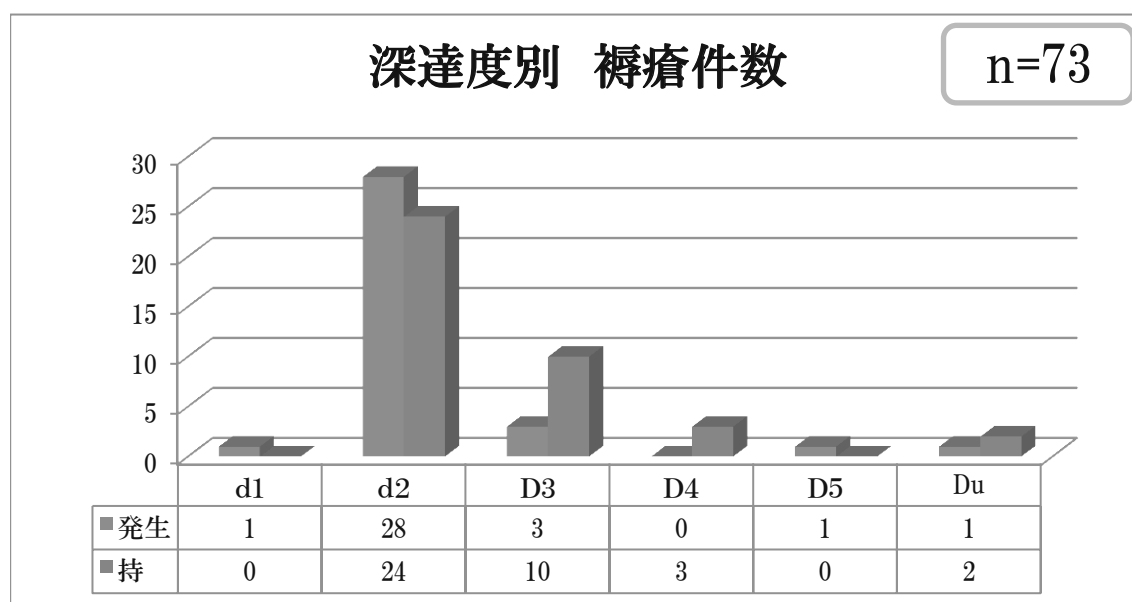
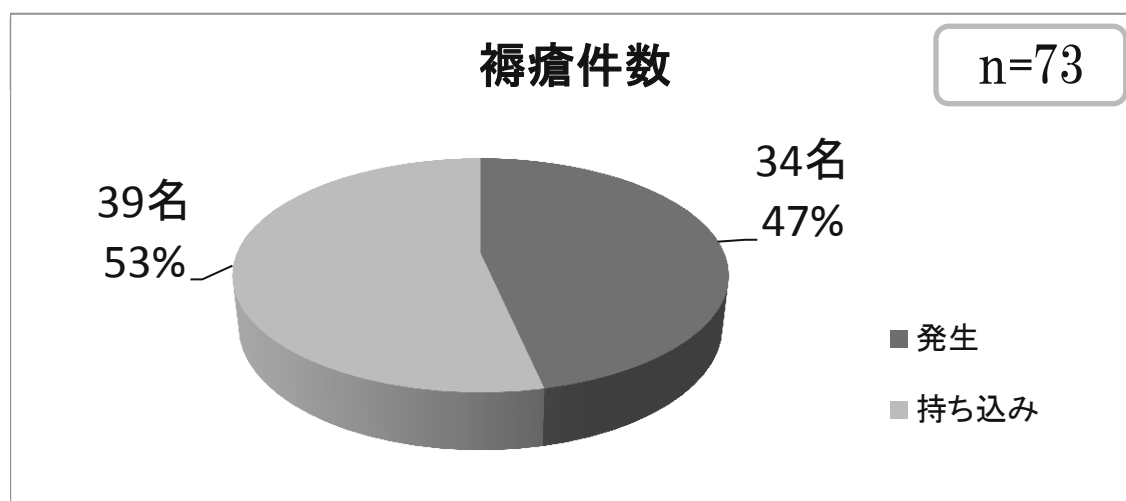
	3月継
実入院患者	520
褥瘡有病者	9
新規褥瘡患者	7
新規院内発生	3

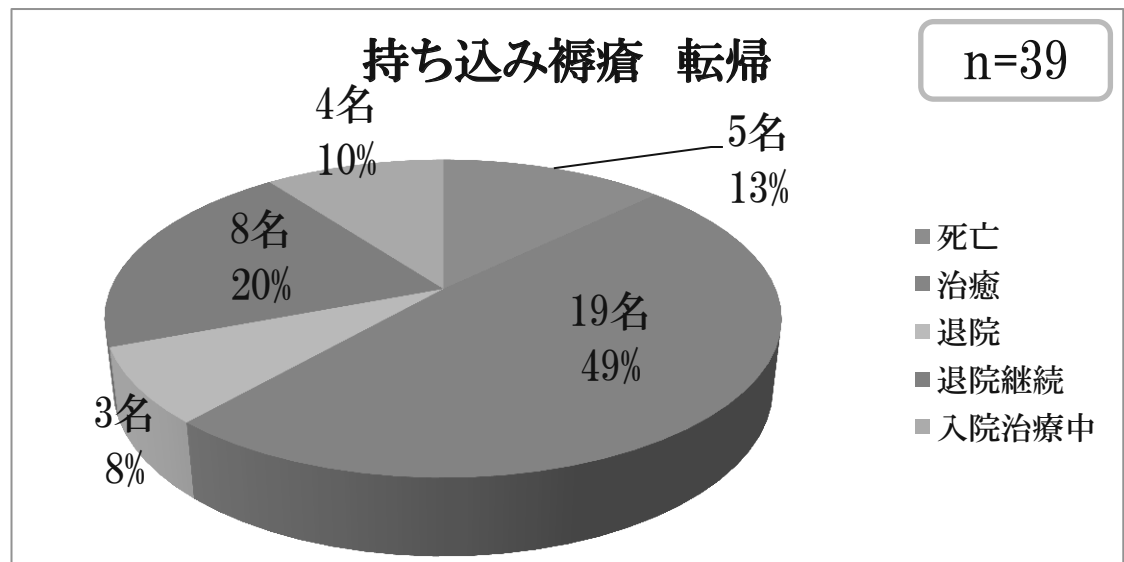
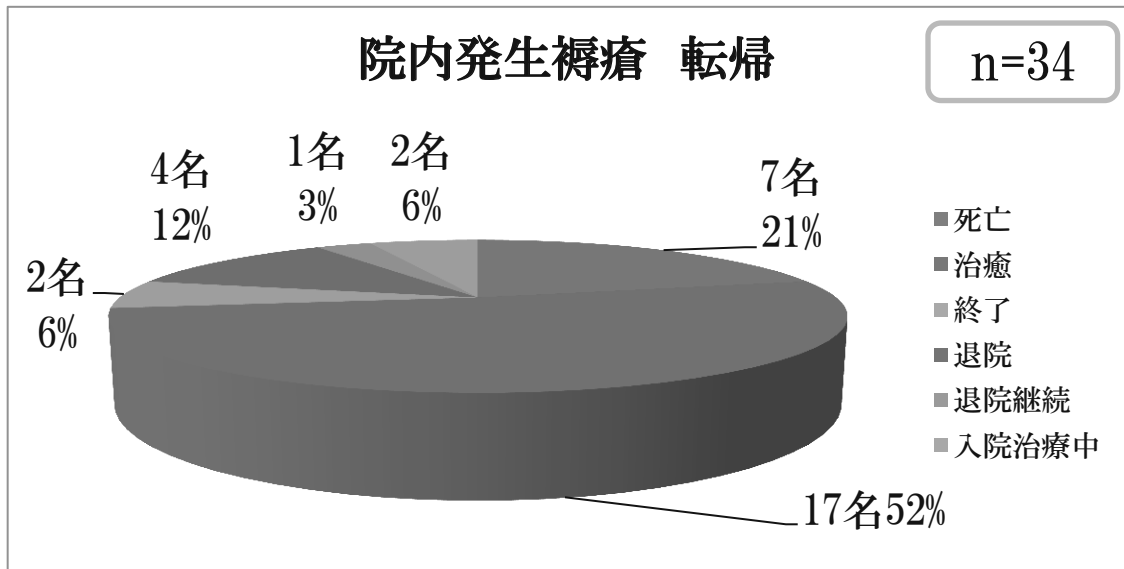
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
456	468	474	513	491	482	502	480	463	445	504	495	5773
11	9	8	12	13	14	15	14	12	11	14	16	149
6	3	3	8	5	7	8	7	5	6	9	6	73
1	1	3	4	1	3	4	4	4	3	4	2	34

	3月
褥瘡有病者	1.73%
新規褥瘡患者	1.35%
新規院内発生	0.58%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2.41%	1.92%	1.69%	2.34%	2.65%	2.90%	2.99%	2.92%	2.59%	2.47%	2.78%	3.23%	2.58%
1.32%	0.64%	0.63%	1.56%	1.02%	1.45%	1.59%	1.46%	1.08%	1.35%	1.79%	1.21%	1.26%
0.22%	0.21%	0.63%	0.78%	0.20%	0.62%	0.80%	0.83%	0.86%	0.67%	0.79%	0.40%	0.59%

平成27年度 褥瘡データ





※MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)

2階病棟	0			
3階病棟	1	耳	d2	酸素チューブ
4階病棟	2	下肢	d2	介達牽引
		口唇	D5	挿管チューブ
5階病棟	0			
6階病棟	4	鼻骨	d2	NIPPVマスク
		鼻骨	d2	NIPPVマスク
		耳	D3	酸素チューブ
		耳	d2	酸素チューブ

《平成27年度 創傷ケアコース》

H27.8.5

目的:対象となる患者に質の高い創傷(褥瘡)ケアが提供できるよう知識・技術・指導について習得する。

時間: 17時30分～19時00分 場所: 4F多目的ルーム

※当院看護師受講者:ラダーレベルⅡ以上(受講中も含む) 創傷分野の知識・技術の習得を希望する者。

他施設受講者:卒3年目以上で日常的に創傷ケアを実践され創傷分野に興味がある方をお願いします。

月日・場所	項目	内容	到達目標	講師
①9月29日(火) 多目的ルーム	皮膚の解剖生理 創傷治癒理論	皮膚の構造・生理機能	褥瘡ケアに必要な皮膚の解剖生理を理解する。	皮膚科医師 伊藤
		創傷の種類(慢性・急性創傷)	創傷の種類・治癒過程を理解する。	外科医師 杉戸
		褥瘡発生のメカニズム	褥瘡発生のメカニズムを理解し実践に活かす。	
②10月15日(木) 多目的ルーム	褥瘡予防基礎知識	褥瘡リスクアセスメント(OH・BS)	褥瘡発生の危険要因をアセスメントすることができ適切なケアに結びつけることができる。	近藤
③11月12日(木) 多目的ルーム	除圧減圧ケア	ポジショニング(演習)	患者に必要なケア方法が選択できる。	宮本
			安全・安楽なポジショニングが実践できる。	
④11月26日(木) 多目的ルーム	脆弱な皮膚の管理 スキんケア	脆弱な皮膚の管理とスキんケア	スキんケアの基本を理解し脆弱な皮膚のケアを実践することができる。	近藤
		具体的なスキんケア方法(演習)		
⑤12月15日(火) 多目的ルーム	失禁ケア	失禁の特徴と具体的なケア方法	便失禁、尿失禁の特徴を理解し、患者に必要なケアが実践できる。	宮本
⑥1月7日(木) 多目的ルーム	栄養管理	栄養アセスメントと治療の実際	創傷治癒に影響する因子について学ぶ。	外科医師村元 管理栄養士 木島
			栄養管理の必要性を理解し継続的な視点で評価ができる。	
⑦1月28日(木) 多目的ルーム	創傷アセスメント	創傷アセスメント	DESIGN-Rで創傷局所アセスメントができる。	近藤 宮本
			患者を総合的にアセスメントすることができる。	
⑧2月4日(木) 多目的ルーム	外用薬 ドレッシング材	外用薬とドレッシング材について	軟膏基剤と薬効成分・ドレッシング材の特徴を理解し適切な使用ができる。	薬剤師石川 近藤
⑨2月18日(木) 多目的ルーム	事例検討(GW)	褥瘡発生リスクのある患者の予防ケア・治療ケア	患者を総合的捉え、必要なケア計画を立案し指導することができるようになる。	近藤 宮本
⑩3月15日(火) 事例発表17:15～	◎創傷ケアコース事例発表会および終了式			

※コース参加者は全課程を受講することが条件になります。(教育研修委員会より受講書あり)



担当者:皮膚排泄ケア認定看護師 近藤・宮本

■ 医師業務軽減検討委員会

1. 目的

医師の代行・補助業務をすることにより、医師の業務負担軽減に繋がり、診療業務に専念できる環境をつくる。また、それに伴い勤務医負担軽減計画（見直し）を作成・確認することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月21日	・3月依頼分書統計について ・委員変更について
2	平成27年5月18日	・勤務医負担軽減計画について ・業務内容アンケートについて ・4月依頼文書統計について
3	平成27年6月16日	・5月依頼文書統計について
4	平成27年7月21日	・6月依頼文書統計について
5	平成27年8月18日	・7月依頼文書統計について
6	平成27年9月15日	・8月依頼文書統計について
7	平成27年10月20日	・9月依頼文書統計について
8	平成27年11月17日	・10月依頼文書統計について
9	平成27年12月15日	・11月依頼文書統計について
10	平成28年1月19日	・12月依頼文書統計について
11	平成28年2月16日	・1月依頼文書統計について ・勤務医負担軽減計画について
12	平成28年3月15日	・2月依頼文書統計について ・勤務医負担軽減計画について

3. 平成27年度の活動要約

各部署で医師の代行・補助業務を勤務医負担軽減計画へとり入れた。
結果、達成状況100%確保した。28年度も同様に目指す。

■ 保険診療委員会

1. 目的

保険診療の適正化かつ円滑な運営を図る。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内 容
1	平成27年4月28日	・平成27年2月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成27年3月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成26年度DPCデータ3月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・退院時処方上限日数について ・入院中に処方したインスリンの退院時処方について ・ヘリコバクター・ピロリ感染症について ・保険診療委員会規程の改正について
2	平成27年5月26日	・平成27年3月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成27年4月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成27年度DPCデータ4月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・ジェネリック薬剤切替一覧について ・イメンドカプセルの取扱いについて ・W g l p 1 製剤の端数の退院請求について ・レミケードで無菌製剤処理料2の算定について ・薬剤査定の調査結果 ・委員会規程の改正について
3	平成27年6月23日	・平成27年4月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成27年5月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成27年度DPCデータ5月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・ジェネリック薬剤切替一覧について

回数	開催日	内 容
4	平成 27 年 7 月 28 日	・平成 27 年 5 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 6 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 6 月分、通計について ・ジェネリック率推移
5	平成 27 年 8 月 25 日	・平成 27 年 6 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 7 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 7 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・ジェネリック薬剤切替一覧について ・運動器リハビリテーション料の対象疾患について ・アーチストとメインテートについて ・平成 27 年 6 月審査分審査結果報告通知状況について ・ヘリコバクター・ピロリの算定について
6	平成 27 年 9 月 29 日	・平成 27 年 7 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 8 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 8 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・先発品と後発品で適応疾患が違う薬剤 ・外泊の取扱いについて ・抗がん剤投与上限日数について ・3 種類以上の抗不安薬、3 種類以上の睡眠薬、4 種類以上の向精神薬の投薬時の薬剤料通減について
7	平成 27 年 10 月 27 日	・平成 27 年 8 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 9 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 9 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・D P P 4 阻害剤と G L P - 1 受容体作動薬の併用について

回数	開催日	内 容
8	平成 27 年 11 月 24 日	・平成 27 年 9 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 10 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 10 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・後発品変更決定薬剤 ・現在検討中の後発品薬剤 ・長期にわたる抗がん剤の処方期間について ・セロクエル錠について ・ハリゾンシロップについて
9	平成 27 年 12 月 22 日	・平成 27 年 10 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 11 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 11 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・現在検討中の後発品薬剤 ・イグザレルト、エリキュース、プラザキサ添付文書 抜粋 ・アリミデックス錠について ・肛門疾患用外用薬について ・グリベック錠について ・遺伝子検査必須抗悪性腫瘍剤一覧
10	平成 28 年 1 月 26 日	・平成 27 年 11 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 27 年 12 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 12 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・後発品変更決定薬剤 ・現在検討中の後発品薬剤 ・肛門疾患用外用薬について

回数	開催日	内 容
1 1	平成 28 年 2 月 23 日	・平成 27 年 12 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 28 年 1 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 1 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・交換用胃瘻カテーテルの査定について
1 2	平成 28 年 3 月 23 日	・平成 28 年 1 月診療分の査定について ・病院別査定について ・収入調（平成 28 年 2 月） ・医事関係統計資料（返戻・査定減等） ・平成 27 年度 D P C データ 2 月分、通計について ・ジェネリック率推移 ・後発品変更決定薬剤 ・現在検討中の後発品薬剤 ・平成 2 8 年度保険診療委員会規程の見直し ・委員の変更

3. 平成 2 7 年度活動要約

- ・査定に対して医師と協議し、再審査請求をかける件数が増えた。
結果、復活となる件数が増え、査定額も下がった。

・年間病院別査定（渥美・稲沢・病院計）比較結果

【平成 27 年度】

当 院	社保 0.30%	国保 0.25%	通計 0.28%
渥 美	社保 0.56%	国保 0.49%	通計 0.53%
稲 沢	社保 0.15%	国保 0.12%	通計 0.13%
病院計	社保 0.28%	国保 0.30%	通計 0.31%

【平成 26 年度】

当 院	社保 0.23%	国保 0.13%	通計 0.15%
渥 美	社保 0.34%	国保 0.21%	通計 0.23%
尾 西	社保 0.31%	国保 0.16%	通計 0.19%
病院計	社保 0.26%	国保 0.25%	通計 0.26%

前年度と比べ、査定率が増加し、同規模病院・病院合計と比較しても、稲沢厚生

病院より高い結果となった。

- ・ 支払基金、国保連合会からの通知文書の周知
委員会でも周知し、内容について協議を行い対策を立てていくことで査定・返戻の減少に繋がった。
- ・ ヒラソルを使用し、マイナスの大きい疾患を分析し、クリニカルパスの変更、薬剤の変更等の提案を行った。
- ・ 平成 26 年度 D P C 出来高差 1.5%
平成 27 年度 D P C 出来高差 3.4% 前年度と比較し 1.9% 向上
- ・ 平成 26 年度 ジェネリック率 58.6%
平成 27 年度 ジェネリック率 66.5% 前年度と比較し 7.9% 向上

■ D P C コーディング部会

1. 目的

適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう）を行う体制を確保する。

2. 平成 2 7 年度の活動内容

回数	開催日	内 容
1	平成 27 年 4 月 28 日	・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について ・ 部会細則の改定について
2	平成 27 年 5 月 26 日	・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
3	平成 27 年 6 月 23 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ 肺炎、心不全コーディング比較について
4	平成 27 年 7 月 28 日	・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について ・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ 細菌性肺炎、慢性閉塞性肺疾患コーディング比較について
5	平成 27 年 8 月 25 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ イグザレルト、プラザキサ、エリキユースについて ・ 腸炎疾患コーディング比較について
6	平成 27 年 9 月 29 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について ・ 部会細則の変更
7	平成 27 年 10 月 27 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
8	平成 27 年 11 月 24 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
9	平成 27 年 12 月 22 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
1 0	平成 28 年 1 月 26 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
1 1	平成 28 年 2 月 23 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について
1 2	平成 28 年 3 月 22 日	・ 医療資源を最も投与した病名変更例 ・ D P C 出来高差▲10 万円以上の症例について ・ 診療報酬改定説明会の案内 ・ D P C N A V I の入力項目変更の案内

3. 平成27年度活動要約

- ・ニチイ学館（診療情報管理士）の契約が平成26年度で終了したため、適切なコーディングで請求が行えているかの確認は、医事課病棟担当者・DPC担当者のダブルチェックのみとなった。
- ・医療資源を最も投与した病名変更例の資料を作成し、ICDコードの正しい選択、手術・処置等のありとなる症例等をお知らせした。
- ・「DPC出来高差マイナス10万円以上」をヒラソルで抽出し、正しいコーディングが選択されていたか、協議・確認をした。
- ・疾患別のコーディング比較表を作成した。（肺炎と心不全、細菌性肺炎と慢性閉塞性肺疾患、腸炎疾患）

■ 業務検討委員会

1. 目的

- ① 患者の安心・満足が得られる病院を目指し、医療の質を継続的に向上させる。
- ② 業務を遂行する上で、各職種、各部署との組織横断的連携を密にし、協力・連携体制をとるための調整。
- ③ 新たな業務、部署を立ち上げる場合、円滑に立ち上げるための検討。
- ④ 病院経営をより安定的なものとするため、増収策、経費削減策を検討し各職種、各部署がその具体的方策を実行するための提案。
- ⑤ 各職種、各部署間で改善・調整の必要な事項が発生した場合の業務改善・調整。
- ⑥ 事業計画の進捗状況の確認。

2. 平成27年度の活動内容

<定例報告>

- ・院内巡視報告について
- ・事業計画進捗管理シートについて

回数	開催日	内容
1	平成27年4月17日	委員会規程・名簿について 委員会・業務改善報告会年間スケジュールについて 機能評価について
2	平成27年5月15日	委員の変更について 機能評価について
3	平成27年6月19日	業務改善報告会について
4	平成27年7月17日	機能評価について
5	平成27年8月21日	業務改善報告会について 機能評価について
6	平成27年9月18日	業務改善報告会について 機能評価について
7	平成27年10月16日	業務改善報告会について
8	平成27年11月20日	業務改善報告会について 業務改善のその後の状況について
9	平成27年12月18日 文書開催	業務改善報告会について
10	平成28年1月15日	業務改善報告会について 業務改善のその後の状況について

回数	開催日	内容
1 1	平成 28 年 2 月 19 日	業務改善報告会について 機能評価について
1 2	平成 28 年 3 月 18 日	業務改善報告会集計結果について 病院機能評価受審について 来年度からの開催日の変更について

3. 平成 27 年度の活動要約

①機能評価について

平成 24 年度に受審をした機能評価の認定期限が平成 29 年 7 月迄であるため、更新受審するか否かの検討を行った。2 度の認定により医療の質向上に向けての体制は形成されていることと、診療報酬において、当院が算定している加算は機能評価受審が要件ではないため受審を見送ることとなった。しかし、今後の診療報酬の動向によっては再度機能評価を受審する可能性があることから、来年度の委員会にて現バージョンの機能評価を参考とした自己評価によるチェックを行っていく。

②業務改善報告会について

今年度の新たな取り組みとして、発表を行わない部署の改善活動の報告と、過去の改善活動の現状をまとめた内容を報告会会場と後日食堂に掲示した。

業務改善報告会を開催して今年度で 4 年が経過し、現状のグループ編成に対しての問題点が意見として挙がっている。来年度より、アンケート等を基に実施方法の検討を行う。

■ 病床運営管理委員会

1. 目的

急性期から慢性期までシームレスな医療を提供していくために各病棟の効率的な運用方法の検討や課題を解決する。又、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制を確保するために当院の病床機能の方向性を検討し時代に適応できる病院の構築に寄与することを目的とする。

2. 平成27年度の活動内容

回数	開催日	内容
1	平成27年4月21日	・ 規程及び委員会名簿について ・ 3月診療状況、平成26年度診療状況及び各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床の診療体制の変更について ・ 療養病床の検証について
2	平成27年5月19日	・ 4月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床の検証について ・ 平成26年度年報について
3	平成27年6月16日	・ 5月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床の検証について
4	平成27年7月21日	・ 6月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床機能強化型について
5	平成27年8月18日	・ 7月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床機能強化型について ・ 病床機能報告制度における報告結果について
6	平成27年9月15日	・ 8月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床機能強化型について ・ 平成27年度病床機能報告制度スケジュールについて
7	平成27年10月20日	・ 9月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料2について ・ 療養病床機能強化型について ・ 感染症流行期の病床運営について ・ 平成27年度病床機能報告制度について

回数	開催日	内容
8	平成 27 年 11 月 17 日	・ 10 月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 について ・ 療養病床機能強化型について
9	平成 27 年 12 月 15 日	・ 11 月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 について ・ 療養病床機能強化型について ・ 平成 27 年度病床機能報告について ・ 回復期リハ病棟検証について
10	平成 28 年 1 月 19 日	・ 12 月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 について ・ 療養病床機能強化型について ・ 回復期リハ病棟の検証について ・ 療養病床・慢性期医療のあり方に関する 検討会資料（情報提供）
11	平成 28 年 2 月 16 日	・ 1 月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 について ・ 療養病床機能強化型について ・ 回復期リハ病棟診療体制について ・ 平成 28 年度診療報酬改定について
12	平成 28 年 3 月 15 日	・ 2 月診療状況・各種指標について ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 2 について ・ 療養病床機能強化型の検討について ・ 回復期リハ病棟運用案について ・ 今後に向けた病床機能検討について

3. 平成 27 年度の活動要約

- ・ 平成 27 年 1 月より取得した回復期リハ病棟入院料 2 を維持するために毎回の委員会にて現状を報告し確認するとともに、基準を下回る時には委員会にて医師、看護師に協力を依頼した。また、回復期リハ病棟の利用率向上に向け、専任医の他に担当医を配置するなど診療体制について検討した。
- ・ 介護療養病床機能強化型加算取得に向け検討した。
- ・ 平成 28 年度診療報酬改定に向けた情報提供や医療看護必要度のシュミレーションを行った。

